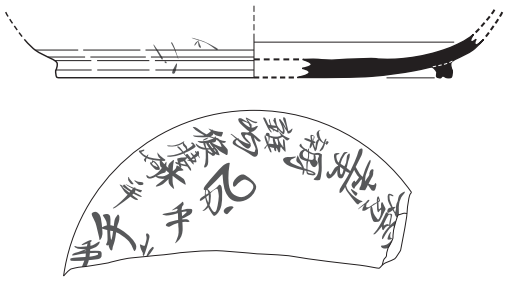
平城京右京一条二坊十一坪（HJG8 次）

―令和元年度発掘調査報告書―



2021

公益財団法人　元興寺文化財研究所

平城京右京一条二坊十一坪（HJG8 次）

―令和元年度発掘調査報告書―

2021

公益財団法人　元興寺文化財研究所

1 区全景（東から）

序

近鉄大和西大寺駅は、奈良・京都・大阪・橿原へ向かう各線の交差する主要駅の一つで、駅周辺では近年再開発が進んでいます。人々の往来が盛んになることが見込まれる中、駅北口に程近い場所に大型集合住宅の建設が計画され、これに先立ち今回の発掘調査が実施されました。

その調査地は平城京右京一条二坊十一坪にあたり、官大寺の西隆寺旧境内南側隣接地であり、西隆寺の寺地であったと考えられています。今回の調査結果では、西隆寺に直接かかわる遺構や遺物こそ得られませんでしたが、新たに条坊道路の一部が検出され、西隆寺や西大寺の造営が地域再編に影響を及ぼしている様子が徐々に分かってきました。

こうした調査成果を反映した本書が、平城京や西大寺、西隆寺の研究はもとより、文化財の保存、保護に資するならば幸いに存じます。発掘調査の円滑な遂行、本書を上梓するまでには多くの方々のご協力がありました。文末ながらここにお礼申し上げる次第であります。

令和３年３月31日

公益財団法人　元興寺文化財研究所
理事長　辻村泰善

例言

1. 本書は平城京右京一条二坊十一坪において、マンション建設に先立ち実施した発掘調査（HJG8 次）の成果をまとめたものである。
2. 調査地は奈良県奈良市西大寺栄町 2308 番地 4 外に所在し、開発面積 1438.09㎡のうち調査対象面積は 750㎡である。
3. 調査は三和建設株式会社から委託を受けた公益財団法人元興寺文化財研究所が行い、令和元年 5 月 7 日～同年 7 月 26 日を現地調査、同年 7 月 27 日～令和 3 年 3 月 31 日を整理期間とした。
4. 発掘調査は坂本俊（公益財団法人元興寺文化財研究所）が担当し、武田浩子（同）、海田侑希（奈良大学）、小林友佳（同）、吉田芽依（大阪市立大学大学院）が補佐した（所属は当時）。
5. 調査地の座標および基準点測量は、公益財団法人元興寺文化財研究所が実施し、株式会社文化財サービスが分担した。
6. 発掘調査における土工等の土木部門は有限会社ワークが担当した。
7. 遺構写真撮影は坂本が、遺物写真撮影は大久保治（公益財団法人元興寺文化財研究所）が撮影した。
8. 出土遺物の実測および浄書、ないし図面等の整理作業は仲井光代、武田、芝 幹、山本知佳（公益財団法人元興寺文化財研究所）が行った。
9. 本書に使用した土器の分類、編年、年代観については以下の文献を参照した。本文中で触れる分類名、年代表記はこれらに依拠している。

   古代の土器研究会　1992『古代の土器（1）都城の土器集成』

   古代の土器研究会　1993『古代の土器（2）都城の土器集成』

   神野恵・森川実　2010「土器類」『図説平城京事典』柊風社

   奈良国立文化財研究所　1976『平城宮発掘調査報告書Ⅶ』

   奈良国立文化財研究所　1982『平城宮発掘調査報告書Ⅺ』

   奈良市教育委員会・奈良国立文化財研究所編　1996『平城京・藤原京出土軒瓦型式一覧』奈良市教育委員会

   西弘海　1987『土器様式の成立とその背景』真陽社
10. 発掘調査及び整理報告書作成にかかる費用については、三和建設株式会社が全額負担した。
11. 当該調査において出土した遺物、実測図、写真は奈良市教育委員会において保管している。
12. 本書の執筆・編集は坂本が行った。
13. 発掘調査及び報告書作成に際しては、以下の方々からのご助言、ご協力を頂いた。記して感謝申し上げたい。

    奈良市教育委員会、奈良県教育委員会、原田香織（敬称略、順不同）

付言

公益財団法人元興寺文化財研究所では、本報告以前に平城京跡内で７件の発掘調査を実施している。同じ坪内での調査も増えてきたこともあり、混乱を避けるために奈良市の助言を得て過去の調査に立ち返って調査次数を付すこととした。本報告で実施した発掘調査を含む報告書名と調査次数の対応関係は以下のとおりである。

調査年次	報告書名	刊行年	調査次数
平成 15 年度	平城京右京北辺	2005	HJG1
平成 18 年度	平城京左京三条四坊十二坪　－平成 18 年度発掘調査報告書－	2007	HJG2
平成 18 年度	平城京右京一条三坊一坪　－平成 18 年度発掘調査報告書－	2008	HJG3
平成 19 年度	平城京左京三条五坊三坪　－平成 19 年度発掘調査報告書－	2008	HJG4
平成 19 年度	平城京左京四条二坊九坪（田村第跡）　－平成 19 年度発掘調査報告書－	2009	HJG5
平成 19 年度	平城京左京二条六坊四・七坪及び奈良町遺跡 －平成 19 年度発掘調査報告書（外京条坊交差点の調査）－	2009	HJG6
平成 19 年度	平城京左京四条三坊十三坪　－平成 19 年度発掘調査報告書－	2009	HJG7
令和元年度	平城京右京一条二坊十一坪（HJG8 次）　－令和元年度発掘調査報告書－　（本書）	2021	HJG8

目次

第１章　調査に至る経緯と調査体制 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 1
　第３節　調査の経過（調査日誌抄） …… 2
第２章　周辺環境と既往の調査 …… 4
　第１節　遺跡の立地と環境 …… 4
　第２節　周辺の既往調査 …… 5
　第３節　本調査の課題 …… 6
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　基本層序と遺構面の認定 …… 9
　第２節　奈良時代の遺構 …… 9
　第３節　素掘小溝 …… 33
　第４節　出土遺物 …… 33
第４章　調査のまとめ …… 55
　第１節　条坊遺構について …… 55
　　（1）一条条間南小路の復元 …… 55
　　（2）右京一条二坊九坪～十六坪の規格 …… 55
　　（3）検出した条坊遺構の位置づけ …… 56
　第２節　遺構の変遷と十一坪の土地利用 …… 57
　第３節　まとめ …… 58

図版目次

図１　調査地位置図（S=1/10,000） …… 4
図２　今回の調査地と既往の調査地（S=1/4,000） …… 5
図３　全体平面図（S=1/200） …… 7
図４　壁面土層断面図（1）（S=1/80） …… 10
図５　壁面土層断面図（2）（S=1/80） …… 11
図６　壁面土層断面図（3）（S=1/80） …… 12
図７　壁面土層断面図（4）（S=1/80） …… 13
図８　SF200（一条条間南小路）平面図、SD105 土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 14
図９　SA085 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 15
図 10　SA090 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 16
図 11　SA190 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 17
図 12　SA195 平面・土層断面図（平面 S=1/100・断面 S=1/40） …… 18
図 13　SB165 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 19

図 14　SB170 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 20
図 15　SB180 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 21
図 16　SB185 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 22
図 17　SB205 平面図（S=1/80） …… 22
図 18　SD010 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 23
図 19　SE025 平面・土層断面図（S=1/40） …… 23
図 20　SE045 平面・土層断面図（S=1/40） …… 24
図 21　SE110 平面・土層断面図（S=1/40） …… 24
図 22　SE130 平面・立面・土層断面図（S=1/40） …… 25
図 23　SE150 平面・立面・土層断面図（S=1/40） …… 26
図 24　SE153 平面・立面・土層断面図（S=1/40） …… 27
図 25　SE413 平面・土層断面図（S=1/40） …… 27
図 26　SK050 平面・土層断面図（S=1/40） …… 28
図 27　SK060 平面・土層断面図（S=1/40） …… 28
図 28　SK115 平面・土層断面図（S=1/40） …… 28
図 29　SK120 平面・土層断面図（S=1/40） …… 28
図 30　SK125 平面・土層断面図（S=1/40） …… 29
図 31　SK135 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40） …… 29
図 32　SK140 平面・土層断面図（S=1/40） …… 29
図 33　SP088・391・517 平面・土層断面図（S=1/40） …… 30
図 34　SX040 平面図（S=1/80） …… 31
図 35　SX055 平面・土層断面図（S=1/40） …… 31
図 36　SX065 平面・土層断面図（S=1/40） …… 32
図 37　SX100 平面・土層断面図（S=1/40） …… 32
図 38　SX155 平面・土層断面図（S=1/40） …… 32
図 39　SD105 出土遺物実測図（S=1/3） …… 33
図 40　SA090・195、SB165・170・185・205 出土遺物実測図（S=1/3） …… 35
図 41　SD010 出土遺物実測図（1）（S=1/3） …… 37
図 42　SD010 出土遺物実測図（2）（S=1/3・2/3） …… 38
図 43　SE025 出土遺物実測図（S=1/3・1/4） …… 40
図 44　SE045 出土遺物実測図（S=1/3） …… 41
図 45　SE110 出土遺物実測図（S=1/3） …… 42
図 46　SE130 出土遺物実測図（S=1/3） …… 43
図 47　SE150 出土遺物実測図（S=1/3・1/6） …… 45
図 48　SE153 出土遺物実測図（S=1/3・1/6） …… 47
図 49　SE413 出土遺物実測図（S=1/3） …… 48
図 50　SK050 出土遺物実測図（S=1/3・1/4） …… 49
図 51　SK060・115・120 出土遺物実測図（S=1/3） …… 50
図 52　SP057・088・391 出土遺物実測図（S=1/3） …… 51

図 53　SP452・517 出土遺物実測図（S=1/3）…… 52
図 54　SX040 出土遺物実測図（S=1/3）…… 53
図 55　SX155 出土遺物実測図（S=1/3）…… 54
図 56　表土出土遺物実測図（S=1/3）…… 54
図 57　本調査地周辺の条坊位置関係（S=1/4,000）…… 56
図 58　検出遺構配置略図（S=1/200）…… 61

表目次

表 1 ～ 5　報告遺物一覧 …… 63 ～ 67
表 6 ～ 18　検出遺構および出土遺物一覧 …… 68 ～ 80

写真図版目次

巻頭図版
1 区全景（東から）
図版 1
調査前風景（南から）
重機掘削（南西から）
図版 2
1 区遺構検出状況（北東から）
1 区拡張区検出状況（南から）
図版 3
1 区全景（東から）
2 区遺構検出状況（西から）
図版 4
2 区全景（西から）
SD105 土層断面 a-a'（東から）
図版 5
SF200（一条条間南小路）北側溝（SD105）
全景（東から）
SB180 全景（南から）
図版 6
SB185 全景（東から）
SB185・SD105 検出状況（南から）
図版 7
SD010 土層断面（西から）
SE025 上位土層断面（西から）
図版 8
SE025 下位土層断面（西から）
SE045 上位土層断面（南から）
図版 9
SE045 下位土層断面（南から）
SE110 完掘状況（西から）
図版 10
SE130 完掘状況（南から）
SE150 土層断面（東から）
図版 11
SE150 枠内土層断面・漆壺出土状況（東から）
SE150 完掘状況（北から）
図版 12
SE153 枠内完掘状況（東から）
SE153 完掘状況（東から）
図版 13
SE413 土層断面（東から）
SE413 完掘状況（東から）
図版 14
SK060 土層断面（東から）
SK115・120・125・135・140 検出状況（東から）
図版 15
SK115a-a' 土層断面東半（北から）
SK115a-a' 土層断面西半（南から）
図版 16
SK115b-b' 土層断面南半（西から）
SK115b-b' 土層断面北半（東から）
図版 17
SK115 完掘状況（南から）
SK120 土層断面（南から）
図版 18
SK120 完掘状況（南から）
SP391 軒平瓦出土状況（南から）
図版 19
SX055 土層断面（北から）
SX065 土層断面（北から）
図版 20
SX100 土層断面（東から）
SX100 完掘状況（東から）
図版 21
SX155 上位土層断面（西から）
SX155 下位土層断面（西から）
図版 22
調査風景（東から）
調査後風景（東から）

図版 23
　SD105、SB185・205、SD010 出土遺物
図版 24
　SD010 出土遺物
図版 25
　SD010 出土遺物
図版 26
　SE025 出土遺物
図版 27
　SE025・045 出土遺物
図版 28
　SE045・110・130 出土遺物
図版 29
　SE130・150 出土遺物
図版 30
　SE150・153 出土遺物
図版 31
　SE153・413 出土遺物
図版 32
　SE413・SK050 出土遺物
図版 33
　SK060・115・120、SP391・517 出土遺物
図版 34
　SX040・155、表土出土遺物

第 1 章　調査に至る経緯と調査体制

第 1 節　調査に至る経緯

平成 31 年 1 月 22 日付けで近鉄不動産株式会社より、マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の届出が提出された。これを受けて同年 3 月 4 日に奈良県教育委員会は当地が平城京跡の範囲であり、西隆寺跡に近接することから、奈良市教育委員会を通じて発掘調査の実施が指示された。これを受けて奈良市教育委員会は発掘調査の実施に向けた協議を開始したが、工期を勘案した結果、公共機関による発掘調査は困難と判断されたため、公益財団法人元興寺文化財研究所へ発掘調査を依頼することとなった。

平成 31 年 4 月 22 日に奈良県教育委員会より発掘調査の依頼を受けた公益財団法人元興寺文化財研究所は、同年 4 月 24 日、平城京右京一条二坊十一坪発掘調査業務に係る委託契約を近鉄不動産株式会社から代理人に委任された三和建設株式会社と締結、同年 4 月 26 日に発掘調査届出を提出のうえ、令和元年 5 月 7 日より現地調査を開始した。

現地調査は令和元年 7 月 26 日に終了し、その後すみやかに整理・報告書作成業務に移行した。現地調査から報告書の刊行まで、三和建設株式会社、近鉄不動産株式会社の全面的な支援・協力があった。また、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会からの適切なご指導を賜った結果、調査・整理作業を無事に終了することが出来た。関係各位に感謝する次第である。

第 2 節　調査体制

発掘調査並びに整理・報告書作成は以下の体制で実施した。

（発掘調査）
調査指導：奈良県教育委員会・奈良市教育委員会
調査主体：公益財団法人元興寺文化財研究所
理事長　　辻村泰善
所　長　　辻村泰善（兼務）
副所長　　狭川真一
事務局長　江島和哉
総合文化財センター長　塚本敏夫
文化財調査修復研究グループ
リーダー　金山正子
主　　務　角南聡一郎
主任研究員　佐藤亜聖
研 究 員　村田裕介
坂本　俊（発掘調査担当）

現地作業員：有限会社ワーク
測　　量：公益財団法人元興寺文化財研究所・株式会社文化財サービス
（整理報告）
調査指導：奈良県教育委員会・奈良市教育委員会
調査主体：公益財団法人元興寺文化財研究所
理事長　　辻村泰善
所　長　　辻村泰善（兼務、令和２年７月まで）　　田邉征夫（令和２年７月から）
事務局長　江島和哉
総合文化財センター長　塚本敏夫
文化財調査修復研究グループ
リーダー　金山正子
主　　務　佐藤亜聖
研 究 員　村田裕介
坂本　俊（整理報告担当）

第３節　調査の経過（調査日誌抄）

令和元年
5月　7日（火）　機材、重機等を搬入。奈良市教育委員会の立会いのもと、調査区の設定および重機掘削を行う。反転調査のため、前半を１区、後半を２区として調査を進める。
5月　8日（水）　１区重機掘削。１区西端は遺構面が削平を受けていることが判明、灰色粗砂に少数の柱穴と土坑を検出。
5月　9日（木）　１区重機掘削完了。暗橙色細砂を遺構面と認定し、素掘小溝を多数検出。
5月16日（木）　１区西半の遺構検出状況写真撮影。
5月17日（金）　１区東半の遺構検出状況写真撮影。素掘小溝から掘削開始。
5月23日（水）　SD010 掘削。奈良時代の須恵器・土師器が大量に出土するが、すべて破片であった。遺構は調査区外に延びるため、坪内を分割する溝の可能性も考える。
5月29日（水）　SD010 完掘。同一埋土だが深さや幅に一貫性が無いことを確認する。SE025 の掘削・断面図作成。SE045 再検出。
6月　4日（火）　１区全景写真撮影、写真測量の実施。
6月　6日（木）　一部調査区を拡張し、SE153 全体を検出。壁面土層図作成。
6月14日（金）　SE153 完掘。１区埋め戻し。
6月17日（月）　１区埋め戻し完了。
6月18日（火）　２区重機掘削。
6月19日（水）　２区重機掘削完了。遺構検出を行う。
6月20日（木）　２区の遺構検出状況写真撮影。
6月21日（金）　素掘小溝の掘削。柱穴の段下げを進める。
6月24日（月）　SD105 掘削。条坊推定線に近接し、X=-144,996 ラインにほぼ乗るため、一条条間南小路北側溝の可能性を考える。

6 月 25 日（火）　奈良大学坂井秀弥先生ゼミが巡検で来訪。
7 月　1 日（月）　SE110 より軒平瓦、SK120 から土馬が出土した。
7 月　9 日（火）　SE150 掘削。縦板横桟組の井戸枠内から漆壺が出土した。
7 月 10 日（水）　2 区全景写真撮影、写真測量の実施。
7 月 11 日（木）　雨天のため出土遺物の整理と図面の点検・整理を行う。
7 月 12 日（金）　柱穴の半裁と土層断面図の作成。2 区中央に柱穴が集中しており、復元した建物から複数回の建て替えを行っている可能性を考える。柱穴の構成については、検討の余地を残す。
7 月 16 日（火）　SE110・130 完掘。SE130 から刻書土器が出土した。
7 月 18 日（木）　壁面土層図作成。
7 月 25 日（木）　2 区埋め戻し完了。
7 月 26 日（金）　機材撤収、調査終了。

第 2 章　周辺環境と既往の調査

第 1 節　遺跡の立地と環境

調査地は奈良市西大寺栄町 2308 番 4 外に所在する。平城京の条坊復元では、右京一条二坊十一坪にあたり、小字は「東町」である。「アラマキ」や「四久畠」といった地名も坪内に存在していたこともうかがえるが、詳細については不明である（橿考研編 1981）。調査区には一条条間南小路の一部を含んでいるほか、一条条間路を挟んで北側の九・十・十五・十六坪には神護景雲元年（767）に造営が開始された西隆寺が位置し、佐保川支流の秋篠川が南流する右岸平坦地に立地する。

現在の秋篠川は、北西から蛇行して京域に入り、一条南大路を境に八条大路まで直線的な流路を形成するが、旧流路は発掘調査によって砂層の堆積の広がりから蛇行と氾濫を繰り返していたことが分かっている。つまり、調査地は、その沖積地に立地していることになる。なお、右京一条二坊四坪から右京二条二坊一坪にかけて実施された奈文研第 530 次調査では、秋篠川旧流路が平城京造営期に大溝として改修され、その後敷葉・敷粗朶工法による大規模造成で埋め立てられたことが明らかにされた（奈文研 2014・2015）。つまり、一条南大路はこの造成によって流路を付け替えたうえで敷設されたので

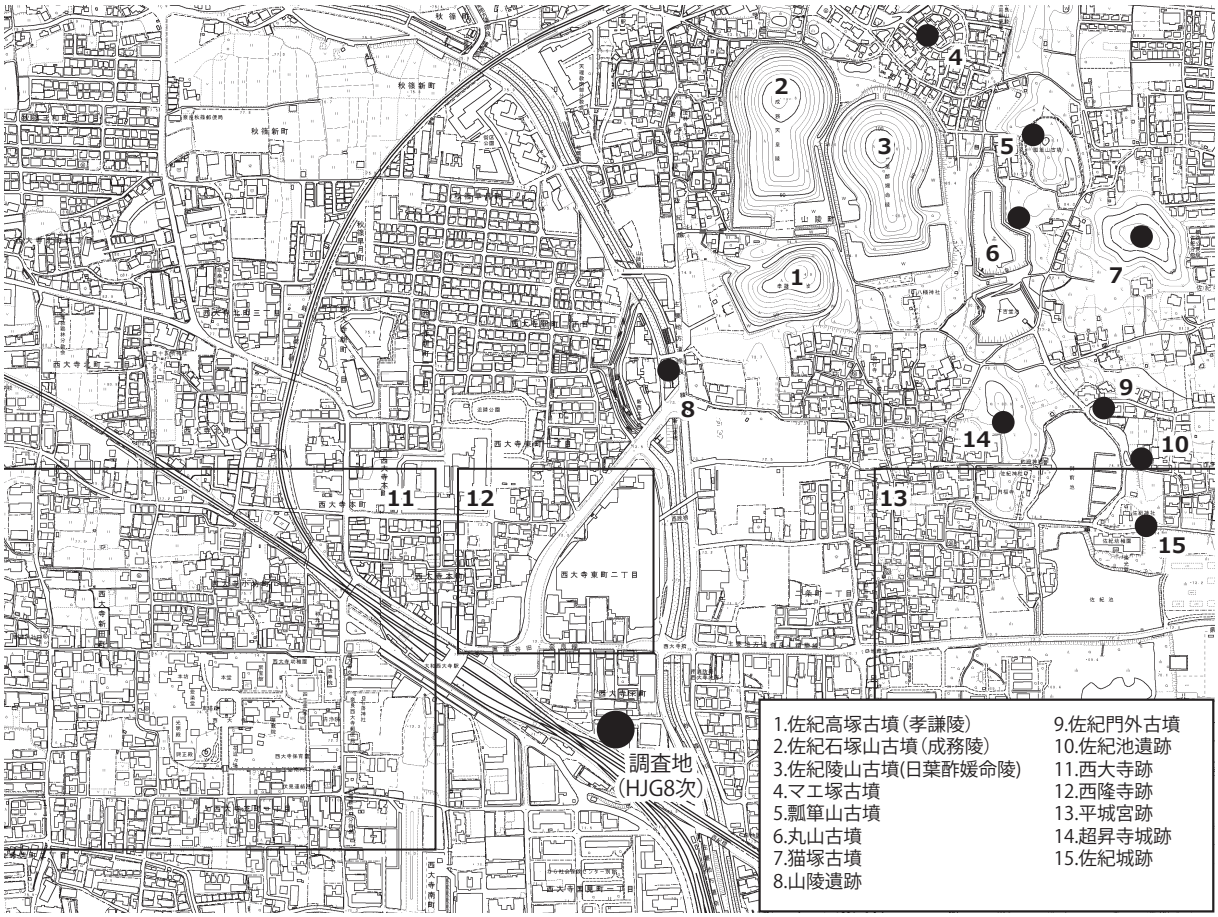


図 1　調査地位置図（S=1/10,000）

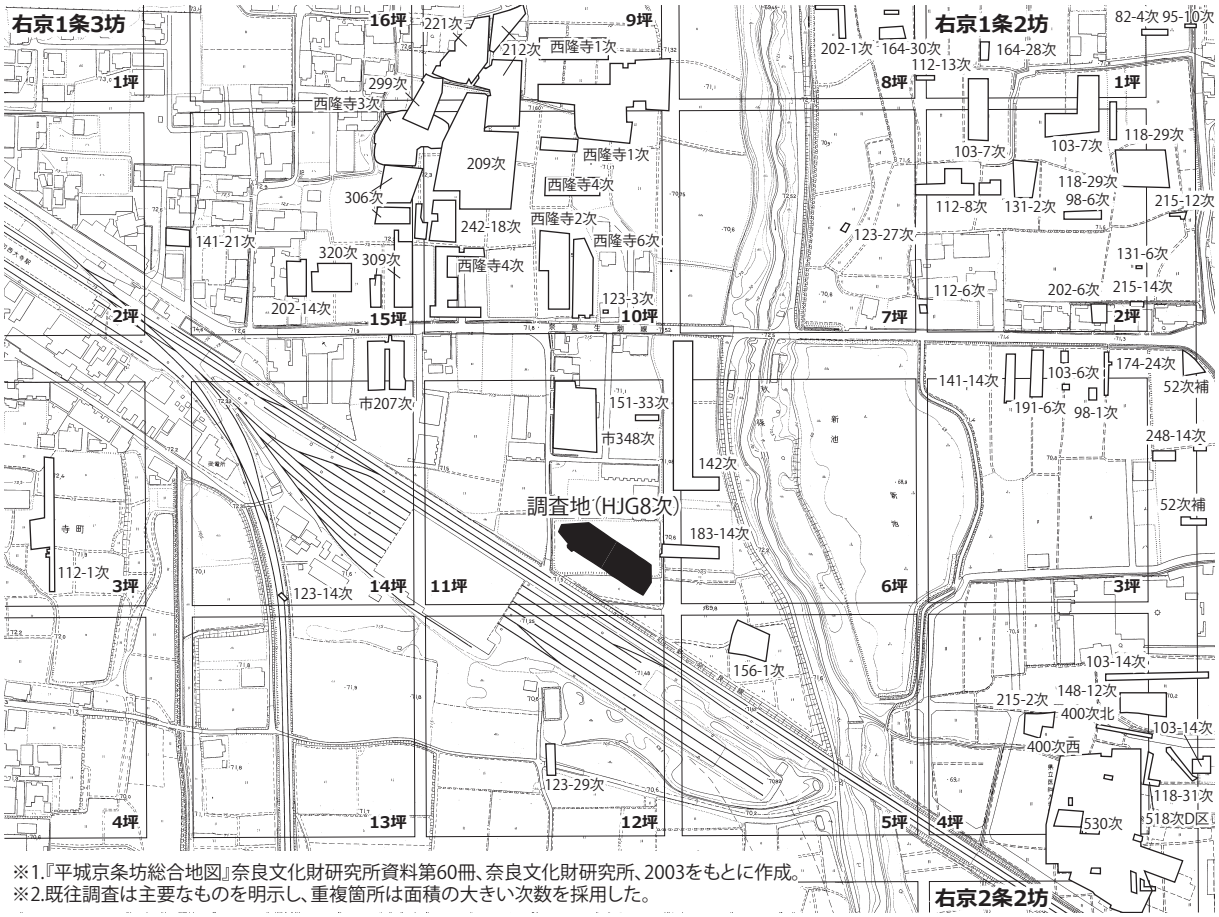
あり、平城京の造営を機に秋篠川流域の景観は大きく変容したといえる。

十一坪の土地利用が分かる記録の中で、『西大寺敷地之図』（13 世紀、東京大学文学部所蔵）には「寺地」として西大寺の寺本所領の福益名であることが示されている。また、長承３年（1134）注文案を 13 世紀に写して作成されたと考えられる『西大寺・西隆寺敷地等注文案』（『平安遺文』二三〇二）には「勅免地」として記されている。勅免地とは寺領として把握されていた田畠のことであり、12 世紀までに耕作地になっていたことがわかる。沖積地という立地に適応した利用形態といえる。

第２節　周辺の既往調査

右京二条一坊の一部は、近鉄奈良線や橿原線の鉄道敷設や秋篠川が縦断していることもあり、坪ごとの調査件数に濃淡がある。以下、調査事例の中でも調査地周辺に焦点をあてて成果を概観していく。

条坊関連遺構の検出事例では、市第 207 次調査において一条条間路と西二坊坊間西小路の交差点が検出されている（篠原 1991）。この調査により、一条条間路は計画道路心より北に 13.4m ずれ、西二坊坊間西小路についても同様に、計画道路心より西に 5.9m 設定されていることが明らかになった。しかし、奈文研第 142 次・第 183-14 次調査で検出された西二坊坊間路については、推定条坊計画線と合致する計測値が得られているほか（山本 1983、田邉 1988）、奈文研第 530 次調査では一条南大路が佐伯門の発掘調査から得られた中軸線に一致する位置で検出されている（奈文研 2014・2015）。このことは、一条南大路から一条条間路の南北距離は間延びし、一条条間路から一条北大路の南北距離は



※1.『平城京条坊総合地図』奈良文化財研究所資料第60冊、奈良文化財研究所、2003をもとに作成。
※2.既往調査は主要なものを明示し、重複箇所は面積の大きい次数を採用した。

図２　今回の調査地と既往の調査地（S=1/4,000）

寸詰まりとなり、右京一条二坊の西半の条坊計画が推定計画線より西に 17 ～ 26 尺ずれて施工されていることを示しているが、その原因については分かっていない（元文研 2005）。

一方、十一坪の坪内の利用状況については、市第 348 次調査において古墳時代から中世までの遺構が高密度で確認されている（田林ほか 1997）。古墳時代の遺構は溝 8 条、土坑 2 基で、古墳時代前期に属する。奈良時代の遺構としては、溝 2 条、掘立柱建物 11 棟、掘立柱塀 2 条、井戸 7 基、土坑 1 基に加え、建物としてまとまりを持たない多数の柱穴が検出されている。平安時代以降の遺構が南北溝 5 条のみであることを踏まえれば、奈良時代に集中的な開発が行われたと考えられる。

第 3 節　本調査の課題

このような周辺の調査成果を踏まえると、本調査地は北ないし西に間延びした坪内に位置していることが分かる。そこで本調査では、市第 348 次でも確認されている奈良時代以前の遺構の展開、奈良時代の坪内利用のあり方と変遷に加え、一条条間南小路の特定と間延びした条坊道路の施工実態の解明を主な課題とした。

《参考・引用文献》

小田裕樹・林正憲・芝康次郎・桑田訓也　2017「平城京右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の調査－第 565 次－」『奈良文化財研究所紀要 2017』、奈良文化財研究所

財団法人元興寺文化財研究所　2005『平城京右京北辺』

篠原豊一　1991「平城京右京一条二坊十四坪の調査　第 207 次」（『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書－平成 2 年度－』、奈良市教育委員会）

神野恵・鈴木智大・小田裕樹・林正憲ほか　2016「右京一条二坊四坪・二条二坊一坪・一条南大路・西一坊大路の調査－第 530 次・第 546 次・第 560 次－」『奈良文化財研究所紀要 2016』、奈良文化財研究所

田邉征夫　1988「右京一条二坊六坪の調査　第 183-14 次」（『昭和 62 年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』奈良国立文化財研究所）

田林香織・原田憲二郎・安井宣也・池田裕英　1997「平城京右京一条二坊十一坪の調査　第 348 次」（『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書－平成 8 年度－』、奈良市教育委員会）

奈良県立橿原考古学研究所編　1981『大和国条里復原図』、由良大和古代文化研究基金

奈良国立博物館　2002『西大寺古絵図は語る－古代・中世の奈良－』

奈良国立文化財研究所　1993『西隆寺発掘調査報告書』

奈良国立文化財研究所編　1976『西隆寺発掘調査報告書』、西隆寺跡調査委員会

奈良国立文化財研究所編　2001『西隆寺跡発掘調査報告書』、奈良市教育委員会

奈良文化財研究所都城発掘調査部（平城地区）　2014『奈良文化財研究所本庁舎建て替えに伴う発掘調査－平城第 530 次－』記者発表資料、2014 年 7 月 4 日

奈良文化財研究所都城発掘調査部（平城地区）　2015『平城京右京一条南大路とその周辺の調査－平城第 530 次調査記者発表資料－』記者発表資料、2015 年 4 月 30 日

山本忠尚　1983「右京一条二坊六・十一坪の調査　第 142 次」（『昭和 57 年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』、奈良国立文化財研究所）

山本忠尚　1984「右京一条二坊十一坪の調査　第 151-33 次」（『昭和 58 年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』、奈良国立文化財研究所）

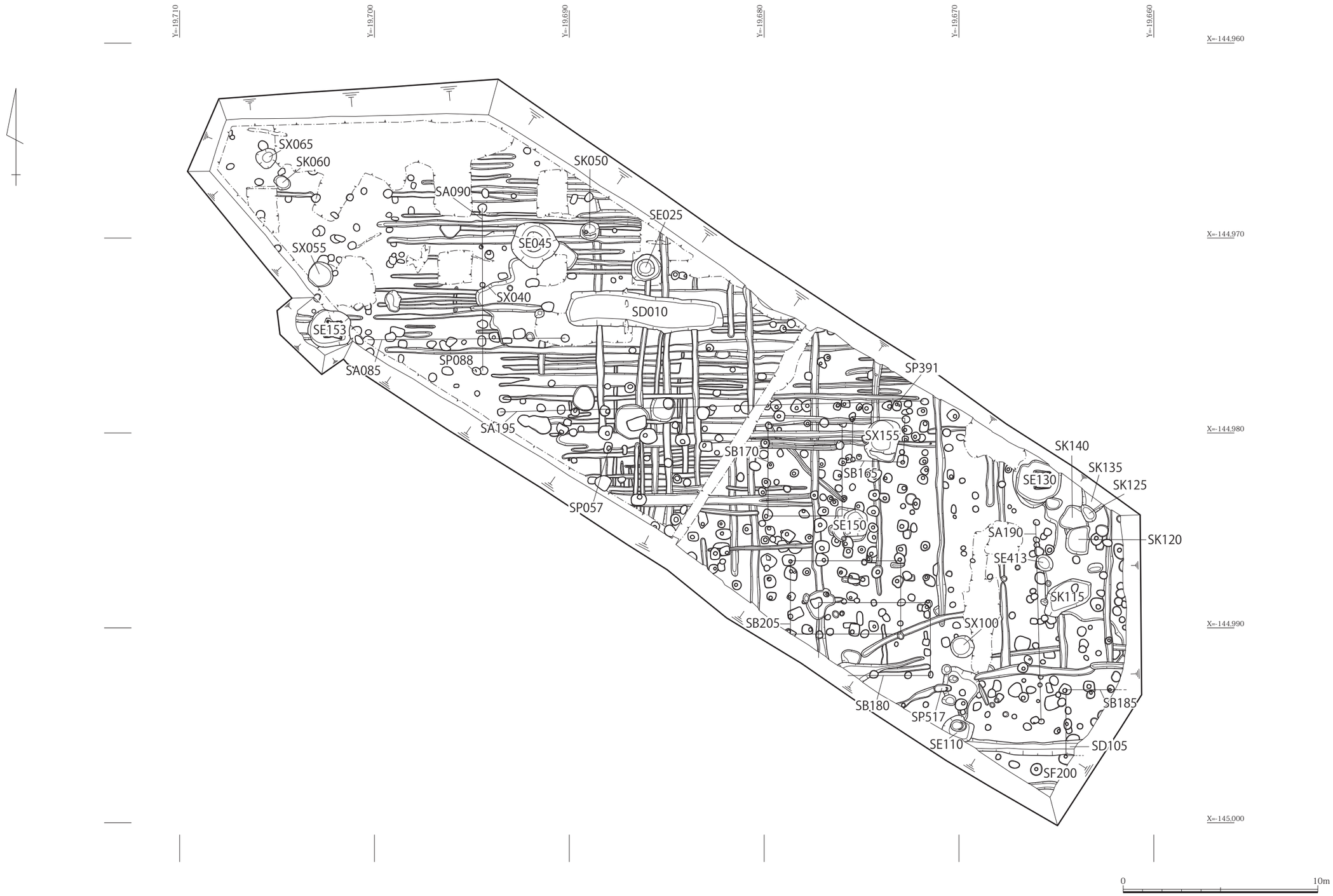


図 3　全体平面図（S=1/200）

第３章　調査の成果

第１節　基本層序と遺構面の認定

調査前の当地は、マンションと事務所用地として利用されており、その盛土と基礎が存在していた。基本層序（図４～７）は、地表面から層厚約 1m の現代盛土、層厚約 30cm の旧耕土・床土、その直下が、奈良時代の土器片と小礫を含む層厚約５～ 20cm の褐色土層となる。しかし、締りが悪く遺構も検出されなったため、中世段階の耕作土と判断された。遺構面は、この耕作土を除去した暗オリーブ色細砂混粘土および暗灰黄色粗砂の地山上面である。なお、遺構面は調査区中央付近が微高地となり、東西に向かって緩やかに傾斜する微地形をなしている。遺構検出面の標高は、66.8 ～ 70.0m である。

第２節　奈良時代の遺構

条坊道路遺構

SF200（一条条間南小路）（図８、図版４～６）

SD105 を北側溝とする東西方向の条坊道路遺構である。SD105 は幅約 70cm、深さ約 40cm を測る東西溝で、調査区南東隅で約 5m 検出した。SE110 の埋没後に形成されており、断面形態は溝底を平らに整形した逆台形を呈する。溝心の座標は X=-144,996.16、Y=-19,666.68 で、平城京の条坊復元から一条条間南小路の北側溝に想定される。土層断面からは掘り直しの痕跡は確認できない。

出土遺物から、奈良時代後半に敷設されたものと考えられる。

塀

SA085（図９）

五間以上を測る東西方向の塀である。主軸は SD010 の南肩の延長上にあり、東端は SD010 西端の南北ラインに沿う。調査区外に西延すると考えられるが､SE153 に切られるため不明である。柱間は 1.7 ～ 2.4m 前後とばらつきがあり、やや南に振れる主軸方向は W-0° 34′ 40.8″ -S である。

柱穴からは、奈良時代の土師器、須恵器などが出土している。

SA090（図 10）

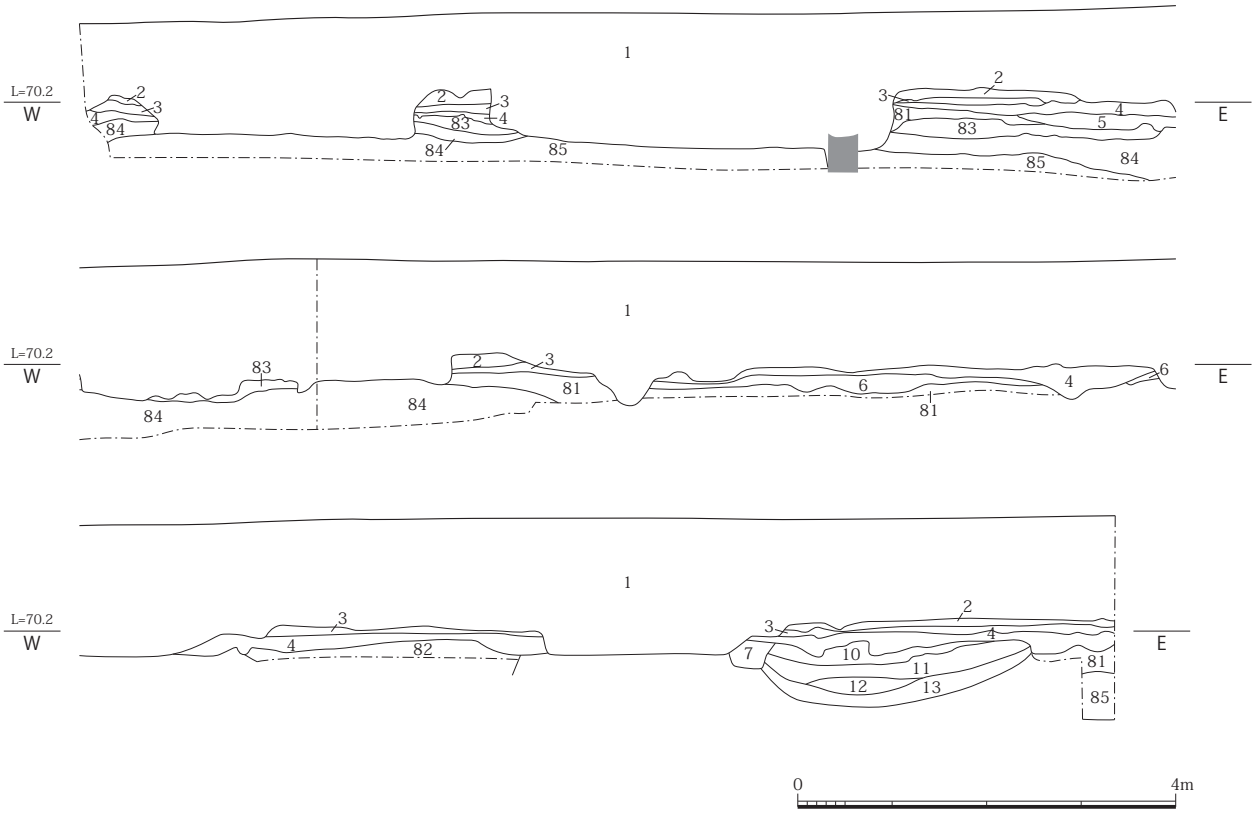
五間以上を測る南北方向の塀である。調査区外に南延すると思われるが、SA085・195 を縦断する位置関係にある。柱間は 1.9 ～ 2.3m 前後で、両端の柱穴心心間で測る主軸方向は N-0° 32′ 52.8″ -W である。同じ南北方向の SA190 とは約 29m の距離があり、奈文研第 142 次調査で確認されている西二坊坊間路（道路心 X=-144,940.5039、Y=-19,650.4244）からは約 45m 西に位置する。

柱穴からは、奈良時代の土師器、須恵器が出土している。

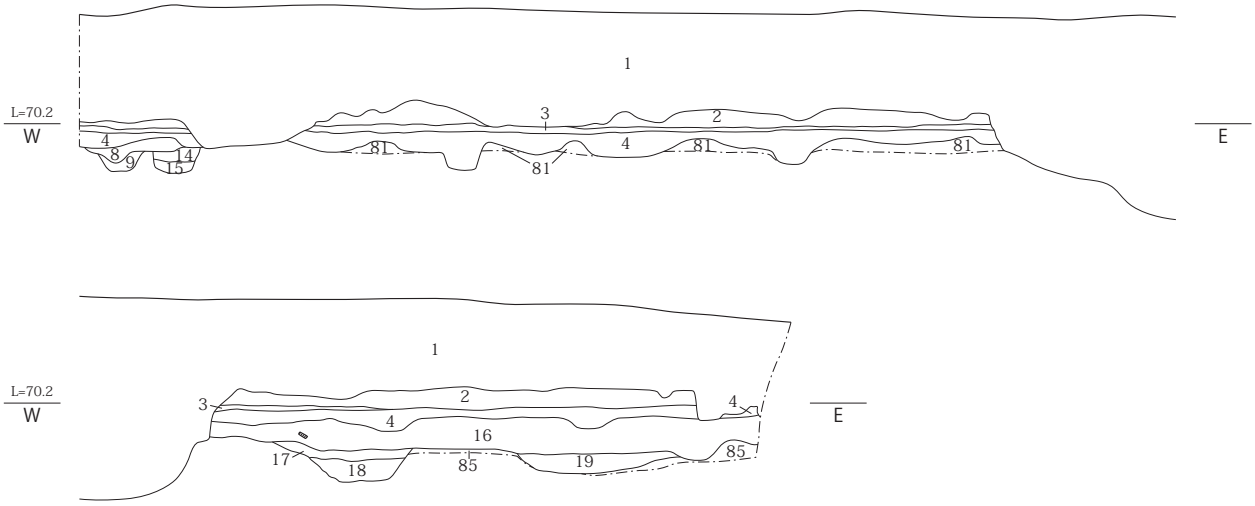
SA190（図 11）

六間以上を測る南北方向の塀である。南は SF200 の北側溝である SD105 までで止まり、北は SE130 に切られる。柱間は 1.3 ～ 2.0m 前後で､両端の柱穴心心間で測る主軸方向は N-1° 20′ 52.8″ -W である。

1 区北壁



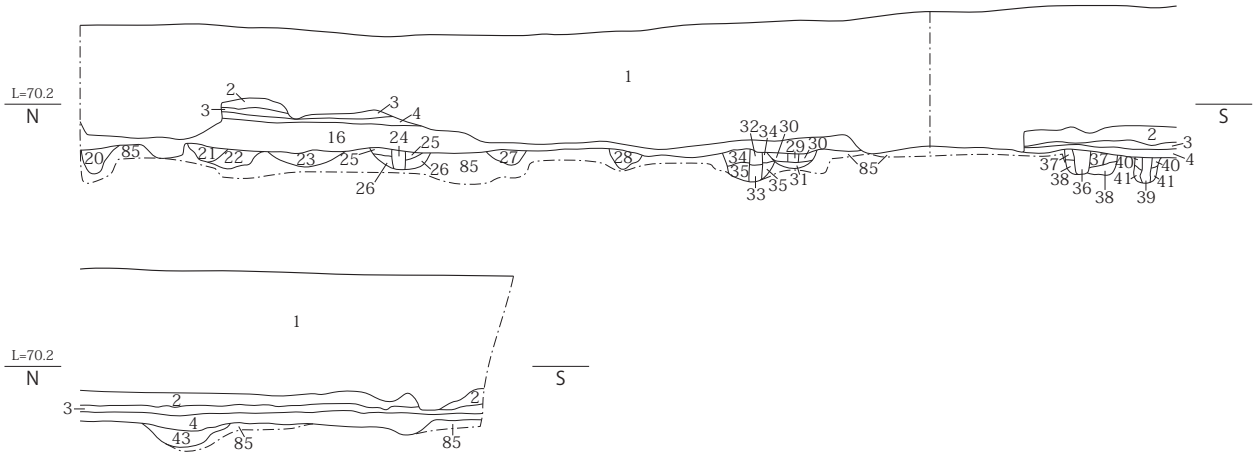
2 区北壁



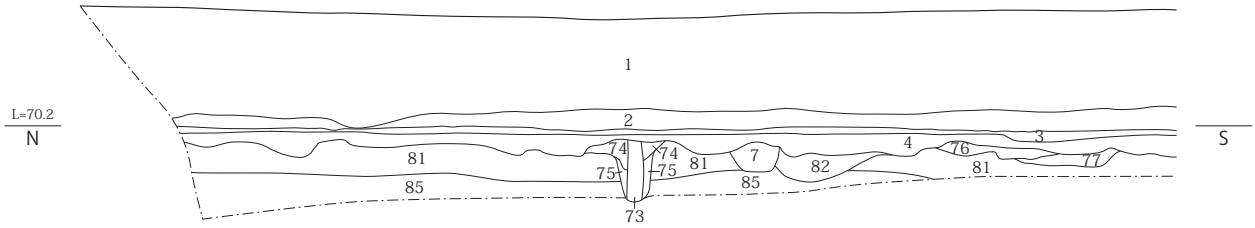
1. 表土
2. 黒褐 2.5Y3/1 細砂混極細砂（2 ～ 5mm の礫を含む）（旧耕土）
3. 暗灰黄 2.5Y5/2 粘質土混細砂（3mm 程の礫を含む）
4. 褐 10YR4/6 細砂混中砂（土器片、3 ～ 40mm の礫を含む）
5. オリーブ黒 5Y3/1 細砂混粘質土（土器片、瓦片を含む）
6. 黒褐 2.5Y3/2 粘土（炭化物、土器片を多く含む）（SX040）
7. 暗オリーブ 5Y4/3 中砂混粘質土（炭化物、土器片を多く含む、3 ～ 5mm 程の礫を含む）
8. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘土（遺物を多量に含む）
9. 黄灰 2.5Y4/1 粘土
10. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混粘質土（炭化物、土器、瓦片を多く含む）
11. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3（5 ～ 30mm の礫、地山ブロックを含む）
12. 褐灰 10YR4/1 細砂混粘土（土器片、10cm 程の礫を含む）
13. 黄灰 2.5Y4/1 粘土（地山ブロックを含む）
14. オリーブ黒 5Y3/1（炭化物、少量の遺物を含む）
15. 灰 5Y4/1 細砂混粘土（炭化物、地山ブロックを含む）
16. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 細砂混粘質土（炭化物、多量の遺物を含む）
17. 暗褐 10YR3/3 粘質土（炭化物、遺物、地山ブロック混）
18. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘質土（地山ブロック混）
19. 黒褐 7.5YR3/2 細砂混粘質土（遺物、炭化物を多量に含む）（SK135）

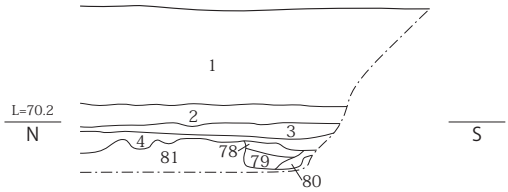
図 4　壁面土層断面図（1）（S=1/80）

２区東壁



１区東壁

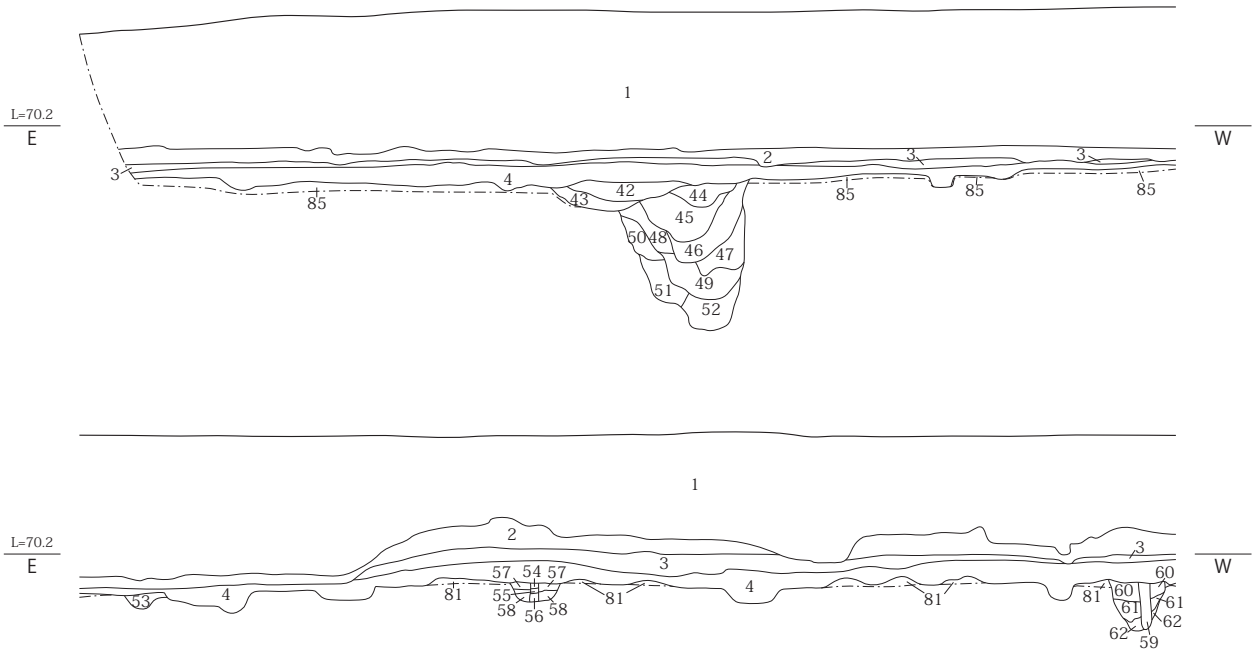




20. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混粘土（炭化物、土器片を少量含む）
21. 黒褐 10YR3/2 細砂混粘質土（土器片、炭化物を含む）
22. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘土（黄灰色ブロックを斑に含む）
23. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混粘質土（炭化物を少量含む）
24. 黒褐 10YR3/2 中砂混粘質土（炭化物、土器片を含む）
25. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混粘質土（炭化物、黄灰色ブロックを含む）
26. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混粘質土（炭化物、土器片を含む）
27. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘土（30mm 程の礫、炭化物、土器片を含む）
28. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混粘土（炭化物、土器片を含む）（S-434）
29. 黒褐 10YR3/2 細砂混粘質土（土器片を含む）（S-237）
30. 暗褐 10YR3/3 細砂混粘質土（S-237）
31. 灰黄褐 10YR4/2 粘土（S-237）
32. 褐灰 10YR4/1 細砂混粘土（土器片を含む）（S-236）
33. 暗褐 10YR3/3 細砂混粘質土（土器片を含む）（S-236）
34. 灰褐 7.5YR4/2 細砂混粘土（土器片、10 ～ 30mm 程の礫を少量含む）（S-236）
35. 暗灰黄 2.5Y5/2 細砂混粘土
36. 暗灰黄 2.5Y4/1 細砂混粘土（土器片、炭化物を含む）（S-319）
37. オリーブ褐 2.5Y4/3 中砂混粘土（2 ～ 4mm 程の礫、炭化物を含む）（S-319）
38. オリーブ黒 5Y3/1 細砂混粘土（3 ～ 5mm 程の礫を含む）（S-319）
39. 褐灰 10YR4/1 中砂混粘土（炭化物を少量含む）（S-321）
40. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混粘土（S-321）
41. 灰 5Y5/1 中砂混粘土（S-321）
42. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 極細砂混粘質土（土器含む）（SD105）
43. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘質土（にぶい黄 2.5Y6/3 粘土ブロック、土器含む）（SD105）
44. 黄灰 2.5Y4/1 粗砂混粘土（地山ブロック含む）（SE110）
45. 灰 5Y4/1 粗砂混粘土（炭化物、遺物少量含む、地山ブロック含む）（SE110）
46. 黒褐 2.5Y3/1 粗砂混粘土（地山ブロック含む）（SE110）
47. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混中砂（炭化物含む）（SE110）
48. 灰黄褐 10YR4/2 粘土混中砂（遺物含む）（SE110）
49. 灰 5Y4/1 粗砂混粘土（地山ブロック含む）（SE110）
50. 褐灰 10YR4/1 粗砂混粘土（炭化物を少量含む）（SE110）
51. 黄灰 2.5Y5/1 粗砂混粘土（SE110）
52. 黄灰 2.5Y4/1 粘質土（粗砂をブロック状に混、暗赤褐 5YR3/6 粘質土混）（SE110）
53. 灰 5Y4/1 細砂混粘土（炭化物、土器を少量含む、地山ブロックを斑に含む）
54. 灰 5Y4/1 細砂混粘土（S-494）
55. オリーブ黒 5Y3/1 細砂混中砂（径 20mm の 1 層ブロックを含む）（SB170g）
56. 灰 5Y5/1 細砂混粘土（SB170g）
57. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 細砂混粘質土（SB170g）
58. オリーブ褐 2.5Y4/3 中砂混粘質土（地山ブロック、少量の炭化物を含む）（SB170g）

図５　壁面土層断面図（2）（S=1/80）

2 区南壁



1 区南壁

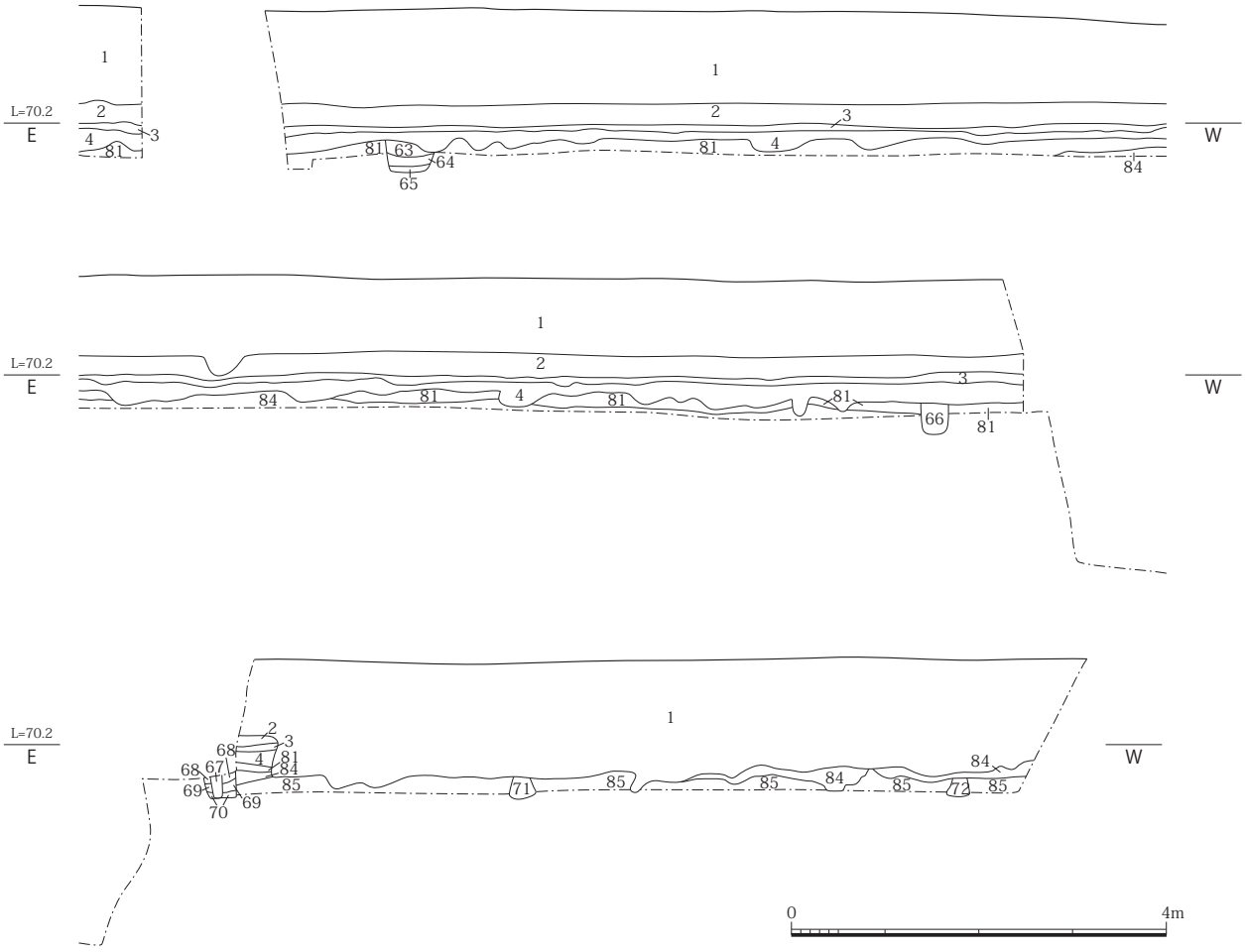
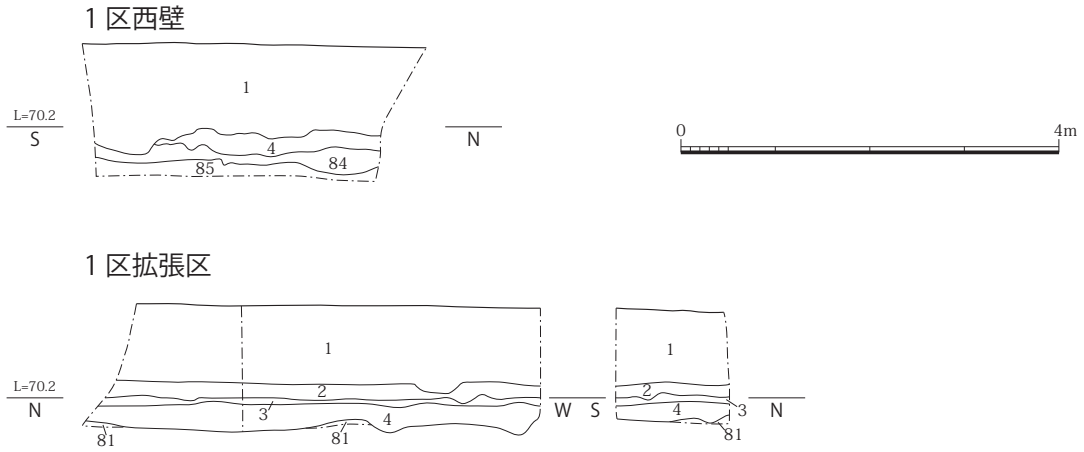


図 6　壁面土層断面図（3）（S=1/80）



59. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混粘質土（土器片、少量の炭化物、径３～ 4mm の礫を含む）
60. オリーブ黒 5Y3/2 中砂混粘質土（少量の炭化物、地山ブロックを含む）
61. 灰 5Y4/1 中砂混細砂（少量の遺物、地山ブロックを斑に含む）
62. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混粘土
63. 暗褐 10YR3/3 細砂混粘質土（土器を含む）
64. 灰黄褐 10YR4/2 粘質土
65. 褐灰 10YR4/1 粘土（地山ブロックを含む）
66. 灰 5Y4/1 細砂混中砂（少量の炭化物、土器片を含む）
67. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘質土
68. 暗灰黄 2.5Y5/2 粘質土
69. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘質土（黄白色粘土ブロック混）
70. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混粘質土
71. 黄褐 2.5Y5/6 細砂混粘土
72. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 中砂混粘質土（炭化物、土器片を含む）
73. 黄灰 2.5Y5/1 細砂混粘質土（炭化物、土器片、10mm 程度の礫を含む）（柱痕）
74. 黄褐 2.5Y5/3 粘質土（土器小片を含む）
75. 黒褐 10YR3/2 粘土（地山ブロックを含む）
76. 灰白 5Y7/1 粗砂
77. 灰オリーブ 5Y4/2 粗砂混粘質土
78. 褐 10YR4/4 細砂混粘質土
79. 灰オリーブ 5Y4/2 細砂混中砂
80. 灰 5Y4/1 細砂混粘質土（10mm 程の礫を含む）
81. 暗オリーブ 5Y4/3 細砂混粘土（暗灰色粘土を帯状に含む）ベース
82. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂（2 ～ 20mm の礫を含む）
83. 暗オリーブ灰 2.5GY4/1 粗砂（しまり弱い）ベース
84. 黄灰 2.5Y5/1 粗砂（しまり弱い）ベース
85. 黄灰 2.5Y6/1 粘土（黒褐色粘土を帯状に含む）ベース

図７　壁面土層断面図（4）（S=1/80）

同じ南北方向の塀である SA090 からは約 29m 東に位置し、奈文研第 142 次調査で確認されている西二坊坊間路（道路心 X=-144,940.5039、Y=-19,650.4244）からは約 16m 西に位置する。

柱穴からは、奈良時代の土師器、須恵器が出土している。

SA195（図 12）

SA085 の約 3.5m 南に位置する十二間以上を測る東西方向の塀である。d ～ f 間の柱穴は削平されており、確認できなかった。SA195 は、調査区のほぼ中央を横断する位置にあり、SA085 および SD010 と並行する。柱間は 1.6 ～ 2.3m 前後で、両端の柱穴心心間で測る主軸方向は W-1° 27′ 18″ -S である。

出土遺物から、奈良時代の遺構と考えられるが、厳密な年代比定はできない。

掘立柱建物

SB165（図 13）

一間四方の掘立柱建物で、桁行 2.7m、梁行 2.1m を測る。主軸方向は N-1° 2′ 31.2″ -E であり、SX155 を取り囲むプランであることから、覆屋のような簡易な建物であったと考えられる。SA195 の南に位置し、SB170 に隣接する。

柱穴からは、奈良時代の土師器、須恵器などが出土しているが、いずれも細片であるため厳密な年代比定はできない。

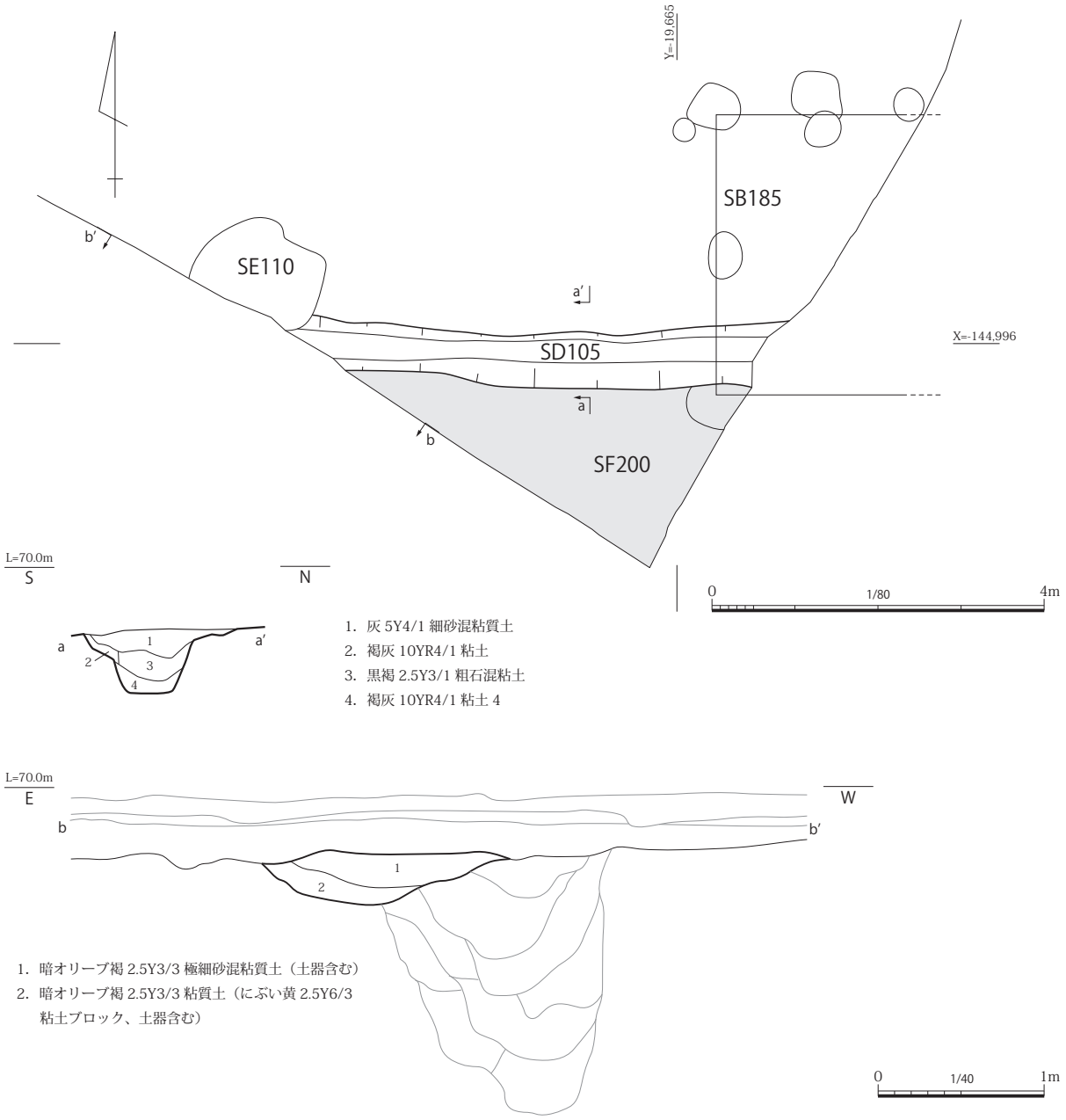


図 8　SF200（一条条間南小路）平面図、SD105 土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

SB170（図 14）

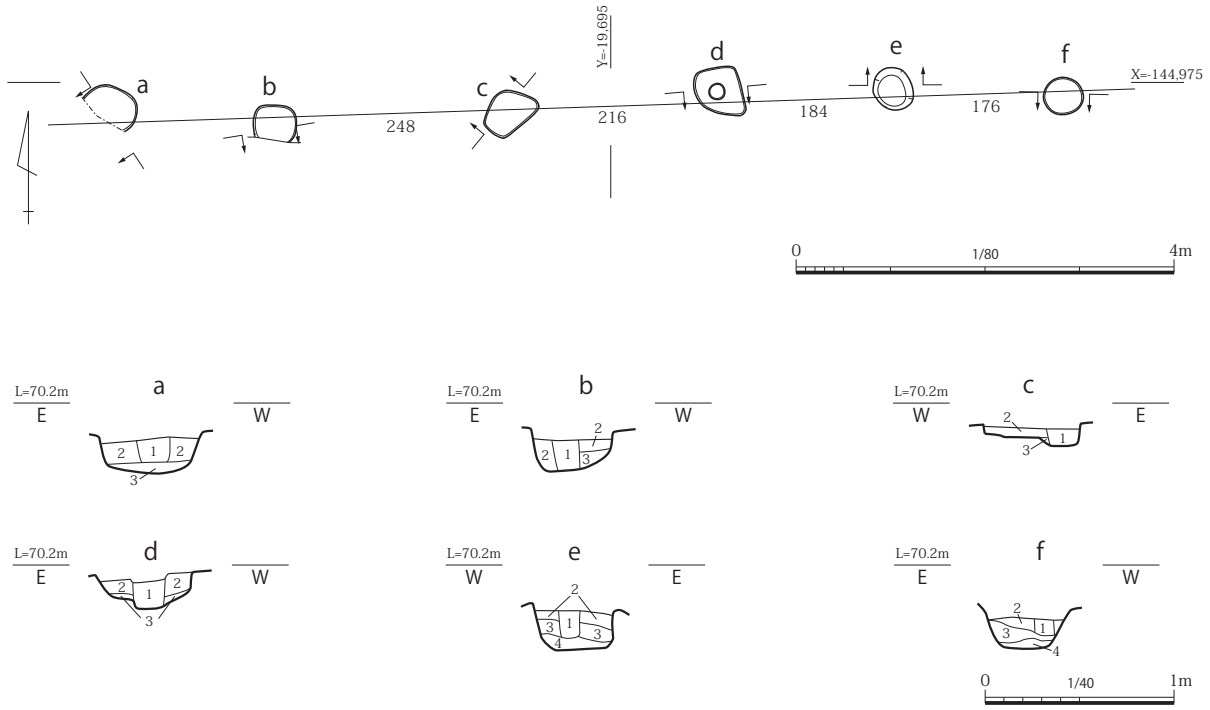
東西二間、南北三間の掘立柱建物で、桁行 4.7m、梁行 3.8m を測る。柱間は 1.4 ～ 2.0m 前後で、主軸方向は N-1° 58′ 30″-E である。SE150 の埋没後に形成される。SX155・SB165 に隣接するが、距離が近いことから、これらの遺構より後出する遺構と考えられる。

SB180（図 15、図版 5）

南北二間、東西三間の掘立柱建物で、一部の柱穴は調査区外に延びる。柱間は 1.4 ～ 2.1m 前後で、桁行 5.6m、梁行 3.7m を測る。主軸方向は N-1° 52′ 4.8″-W で、SB205 と重複関係にある。奈良時代の遺構ではあるが、厳密な年代比定はできない。

SB185（図 16、図版 6）

東西一間以上、南北二間以上の東西建物で、調査区外に延びる。柱間は 1.7 ～ 2.3m 前後で、桁行 3.4m、



a
1. オリーブ褐 2.5Y4/3 粘質土
2. 暗褐 10YR3/2 粘質土
3. 褐灰 10YR4/1 砂質土

b
1. 灰オリーブ 5Y5/3 粘砂
2. 暗オリーブ 5Y4/3 粘質土
3. 灰 5Y4/1 砂

c
1. 黒褐 2.5Y3/2 粘質土
2. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘質土
3. 灰 5Y4/1 粘質土

d
1. 黄灰 2.5Y4/1 粗砂混粘質土（炭化物を含む）
2. 灰 5Y5/1 粘質土（地山ブロックを含む）
3. 灰黄褐 10YR4/2 粗砂

e
1. 黄灰 2.5Y4/1 粘質土
2. 黒褐 2.5Y3/2 粗砂混粘質土
3. 灰オリーブ褐 2.5Y3/3 中砂混粘質土
4. 灰オリーブ 5Y4/2 中砂混粘質土

f
1. オリーブ黒 5Y3/2 細砂混粘質土
2. 黒褐 2.5Y3/1 細砂混粘質土
3. 暗灰黄 2.5Y4/2 粘質土（黄白色粘土含む）
4. 黒褐 2.5Y3/1 粘質土

図 9　SA085 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

梁行 2m 以上を測る。主軸方向は正方位である。SD105 に切られており、SF200（一条条間南小路）の敷設より先行する建物である。

SB205（図 17）

調査区中央東寄りに位置する南北二間、東西三間の東西建物で、SB180 と重複関係にある。柱間は均一でなく 1.6 ～ 2.3m 前後で、柱穴 a･i 間の柱穴は検出されなかった。桁行 5.8m、梁行 3.7m を測り、主軸方向は正方位である。出土遺物から奈良時代前半の遺構と考えられる。

溝

SD010（図 18、図版 7）

調査区中央北寄りに位置する幅 2.2m、長さ 11m 以上を測る溝で、SA085 に隣接する。平面形態は不整形で、溝底も一定の高さになっておらず、Y=-19,680.36 から Y=-19,681.16 付近が最も浅い。複数の土坑が切り合っている可能性も考えたが、埋土が同一であったことから不均一な形態を掘削単位と捉えて溝と評価した。溝心の主軸方向は正方位である。

SA085 との関係でみれば、SA085 を構成する柱穴が SD010 西端までで途切れている点は示唆的である。SD010 の南辺で傾きを求めると、Ｅ -1° 11′ 45.6″-N となるため SA085 の主軸とは大きく異な

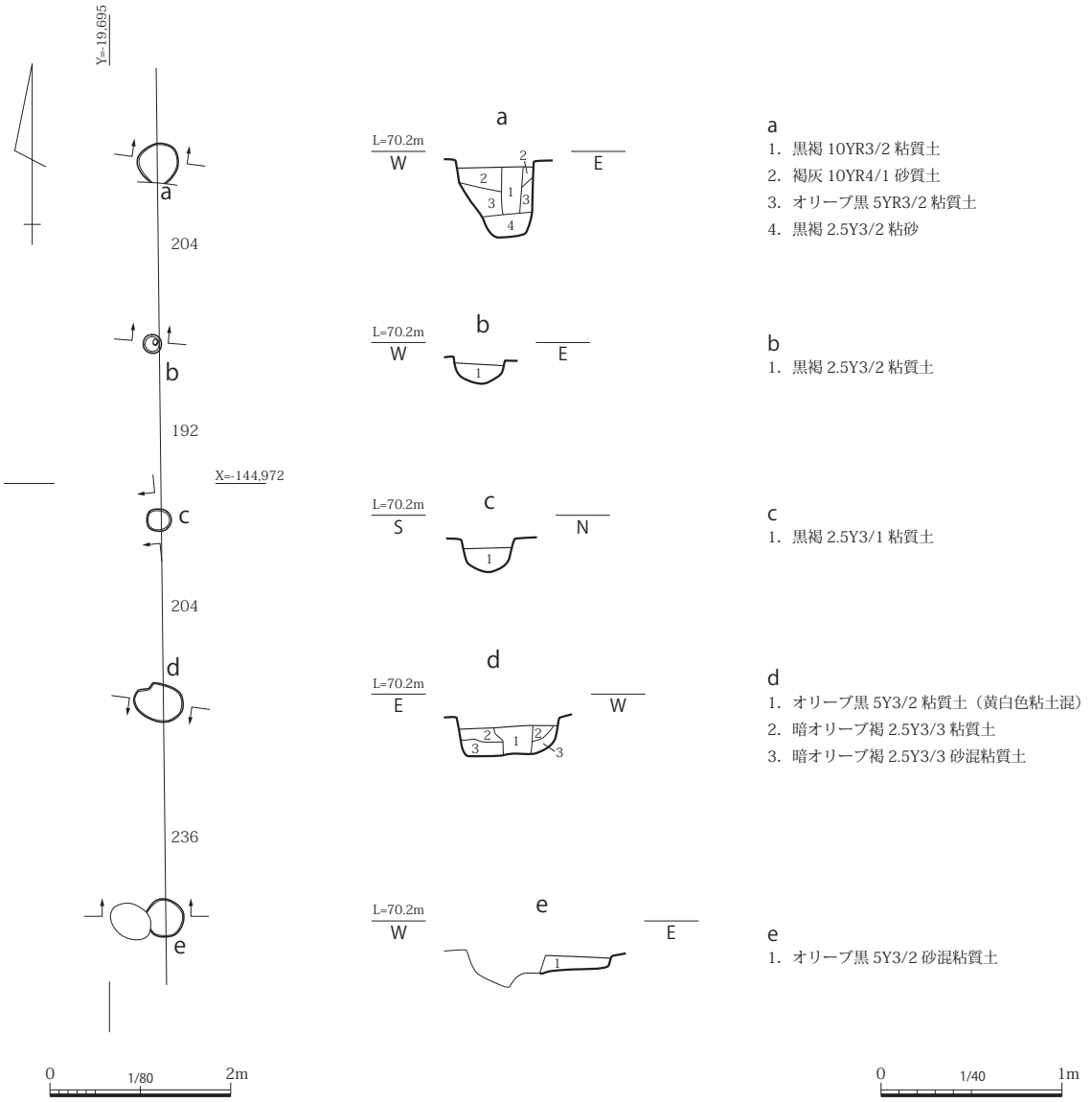


図 10 SA090 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

るが、SD010の南辺東端はSA085の延長軸線上に位置することから両遺構が併存していた可能性がある。

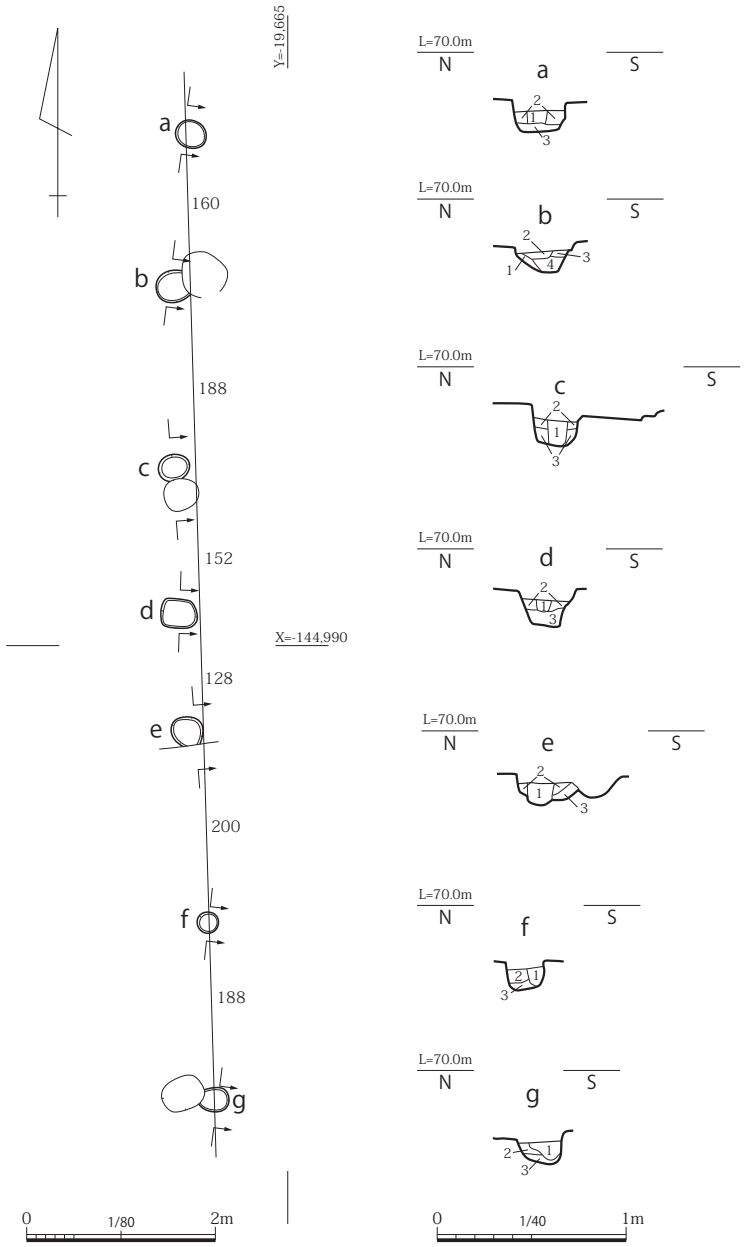
埋土からは、奈良時代中期（平城Ⅲ）の土師器などが出土している。破片ないし一部が欠損した遺物がほとんどを占め、離れた地区で出土した土器と接合するなどしており、廃棄土坑の性質も持ち合わせていた可能性がある。

井戸

SE025（図 19、図版 7・8）

幅 1.4m、長さ 1.5m、深さ 1.5m を測る井戸で、SD010 の約 1m 北に位置する。以前の建物基礎が遺構のほぼ中央を貫通する。地山の掘り込み状況から曲物と板枠の二段構造であったと考えられるが、井戸枠は抜き取られていた。

出土遺物から、奈良時代前半の遺構であると考えられる。



a
1. 褐灰 7.5YR5/1 粘土（にぶい褐 7.5YR5/4 粘土混）
2. 褐灰 7.5YR5/1 粘土（灰黄褐 10YR6/2 粘土混）
3. 灰黄褐 10YR6/2 粘土（黒褐 2.5Y3/2 粘土、少量のにぶい褐 7.5YR5/4 粘質土混）

b
1. 暗褐 10YR3/3 細砂混粘質土（炭化物混）
2. 褐灰 7.5YR5/1 粘土（にぶい褐 7.5YR5/4 粘土混）
3. 褐灰 7.5YR5/1 粘土（灰黄褐 10YR6/2 粘土）
4. 灰黄褐 10YR6/2 粘土（黒褐 2.5Y3/2 粘土、少量のにぶい褐 7.5YR5/4 粘質土混）

c
1. 褐灰 7.5YR5/1 粘土（にぶい褐 7.5YR5/4 粘土混）
2. 褐灰 7.5YR5/1 粘土（灰黄褐 10YR6/2 粘土）
3. 灰黄褐 10YR6/2 粘土（黒褐 2.5Y3/2 粘土、少量のにぶい褐 7.5YR5/4 粘質土混）

d
1. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混粘質土（礫、炭化物混）
2. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混粘質土（炭化物混）
3. 褐灰 7.5YR5/1 粘土（灰黄褐 10YR6/2 粘土混）

e
1. 灰黄褐 10YR4/2 粗砂混粘質土（にぶい褐 7.5YR5/4 粘質土混）
2. 暗灰黄 2.5Y4/2 中砂混粘質土（にぶい褐 7.5YR5/4 粘質土混）
3. 暗灰黄 2.5Y5/2 粘質土（暗オリーブ褐 2.5Y3/3 中砂混粘質土混）

f
1. 暗灰黄 2.5Y5/2 粗砂混粘質土（礫、炭化物混じる）
2. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混粘質土（炭化物混じる）
3. 褐灰 7.5YR5/1 粘土（灰黄褐 10YR6/2 粘土混じる）

g
1. 暗灰黄 2.5YR5/2 粗砂混粘質土（礫混）
2. 褐灰 7.5YR5/1 粘質土（にぶい褐色粘質土混）
3. 灰黄褐 10YR6/2 粘質土（にぶい褐色粘質土混）

図 11 SA190 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

SE045（図 20、図版 8・9）

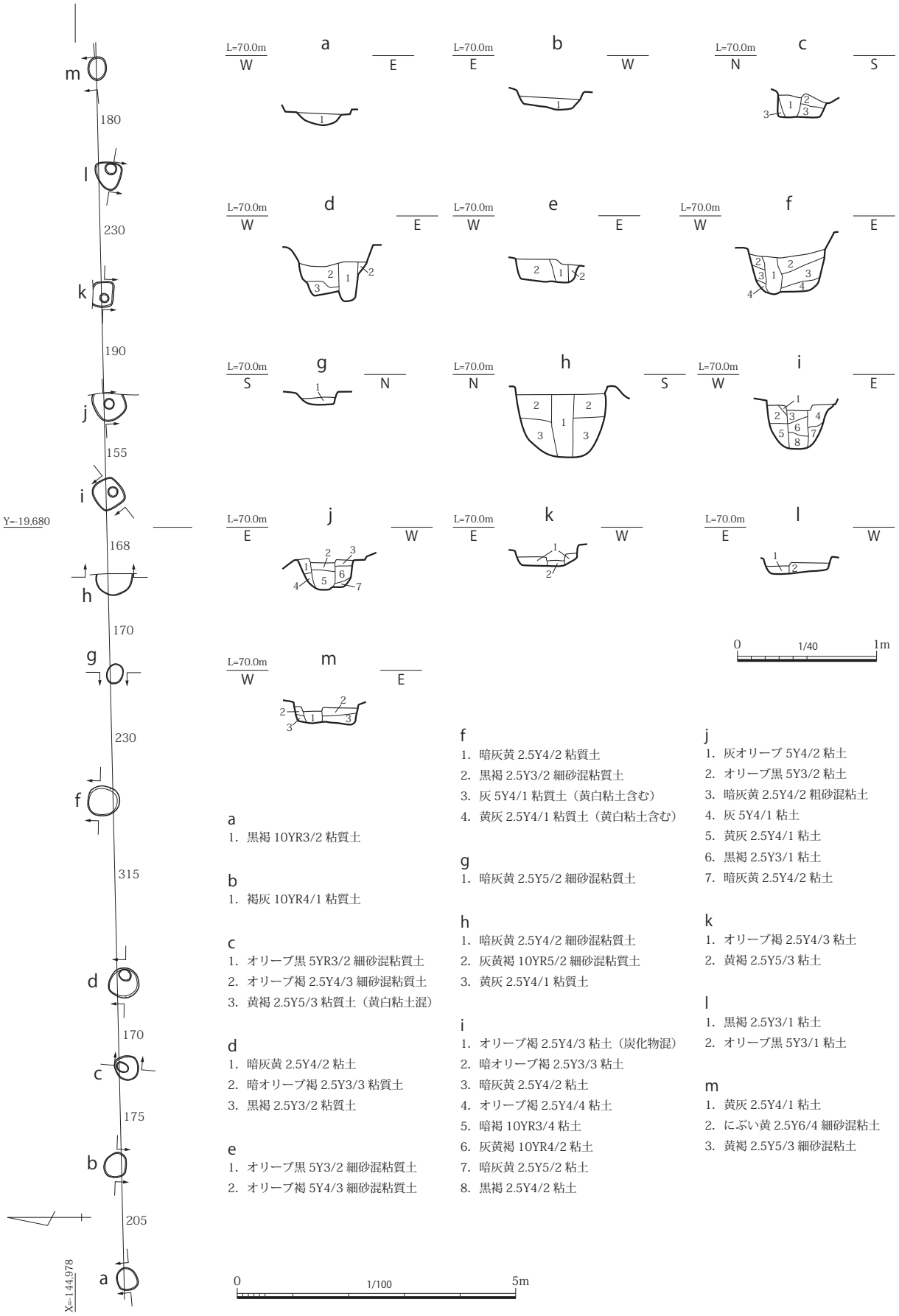
幅 2.3m、長さ 2.2m、深さ 1.4m を測る井戸で、SE025 の約 6m 西に位置する。井戸枠は抜き取られており、断面形態は擂鉢状を呈する。井戸底はやや箱型になっているため、曲物が据えられていた可能性がある。

出土遺物から、奈良時代中期（平城Ⅲ）の遺構と考えられる。

SE110（図 21、図版 9）

調査区南側に延びる幅 1.2m、長さ 1.6m、深さ 1.8m を測る井戸で、SD105 に切られる。井戸枠は抜き取られており確認できなかった。

出土遺物は、土師器、須恵器のほか、軒平瓦を含む瓦類などが少量出土している。奈良時代中期（平城Ⅲ）の遺構と考えられる。



a
1. 黒褐 10YR3/2 粘質土

b
1. 褐灰 10YR4/1 粘質土

c
1. オリーブ黒 5YR3/2 細砂混粘質土
2. オリーブ褐 2.5Y4/3 細砂混粘質土
3. 黄褐 2.5Y5/3 粘質土（黄白粘土混）

d
1. 暗灰黄 2.5Y4/2 粘土
2. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘質土
3. 黒褐 2.5Y3/2 粘質土

e
1. オリーブ黒 5Y3/2 細砂混粘質土
2. オリーブ褐 5Y4/3 細砂混粘質土

f
1. 暗灰黄 2.5Y4/2 粘質土
2. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘質土
3. 灰 5Y4/1 粘質土（黄白粘土含む）
4. 黄灰 2.5Y4/1 粘質土（黄白粘土含む）

g
1. 暗灰黄 2.5Y5/2 細砂混粘質土

h
1. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混粘質土
2. 灰黄褐 10YR5/2 細砂混粘質土
3. 黄灰 2.5Y4/1 粘質土

i
1. オリーブ褐 2.5Y4/3 粘土（炭化物混）
2. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘土
3. 暗灰黄 2.5Y4/2 粘土
4. オリーブ褐 2.5Y4/4 粘土
5. 暗褐 10YR3/4 粘土
6. 灰黄褐 10YR4/2 粘土
7. 暗灰黄 2.5Y5/2 粘土
8. 黒褐 2.5Y4/2 粘土

j
1. 灰オリーブ 5Y4/2 粘土
2. オリーブ黒 5Y3/2 粘土
3. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混粘土
4. 灰 5Y4/1 粘土
5. 黄灰 2.5Y4/1 粘土
6. 黒褐 2.5Y3/1 粘土
7. 暗灰黄 2.5Y4/2 粘土

k
1. オリーブ褐 2.5Y4/3 粘土
2. 黄褐 2.5Y5/3 粘土

l
1. 黒褐 2.5Y3/1 粘土
2. オリーブ黒 5Y3/1 粘土

m
1. 黄灰 2.5Y4/1 粘土
2. にぶい黄 2.5Y6/4 細砂混粘土
3. 黄褐 2.5Y5/3 細砂混粘土

図 12 SA195 平面・土層断面図（平面 S=1/100・断面 S=1/40）

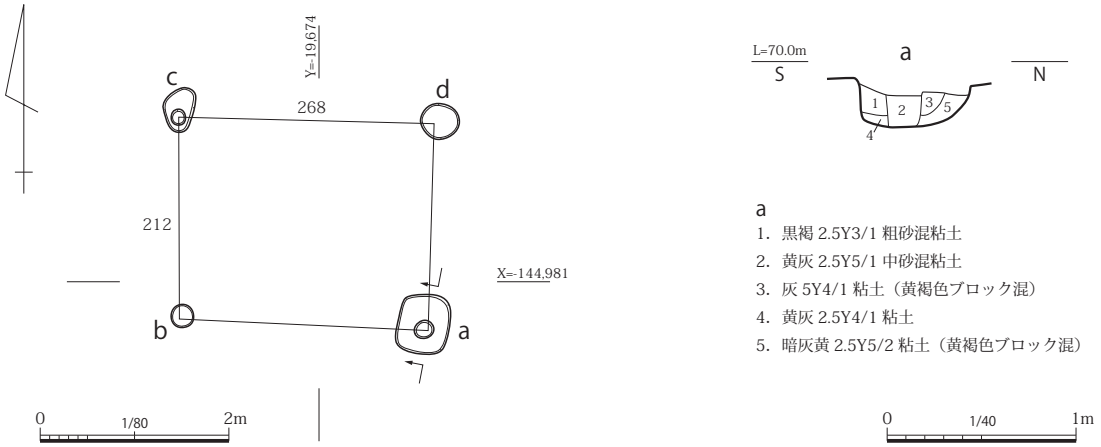


図 13 SB165 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

SE130（図 22、図版 10）

調査区東端付近に位置し、掘方の一部は調査区外に延びる。幅 2.3m、長さ 2.5m、深さ 1.6m を測り、平面形は不整円形である。遺構には、縦板横桟組の井戸枠が遺存していたが、縦板の半分以上は壊れている様子で、残存状況は良好ではなかった。

出土遺物から、奈良時代後半の遺構と考えられる。

SE150（図 23、図版 10・11）

調査区中央の微高地にあたる部分に位置し、幅 1.7m、長さ 1.8m、深さ 1.9m の隅丸方形を呈する。井戸枠は曲物と縦板横桟組の方形井戸枠で構成されていたが、枠組は土圧により本来の状態を留めていなかった。また、湧水が多く断面が壊れてしまい、堆積状況の記録が井戸底まで出来なかった。

埋土からは肩部から打ち欠き、内面に漆を塗布した須恵器壺 K（87）などが出土している。これらの遺物から、奈良時代前期に構築され、後期までに廃絶した遺構と考えられる。

SE153（図 24、図版 12）

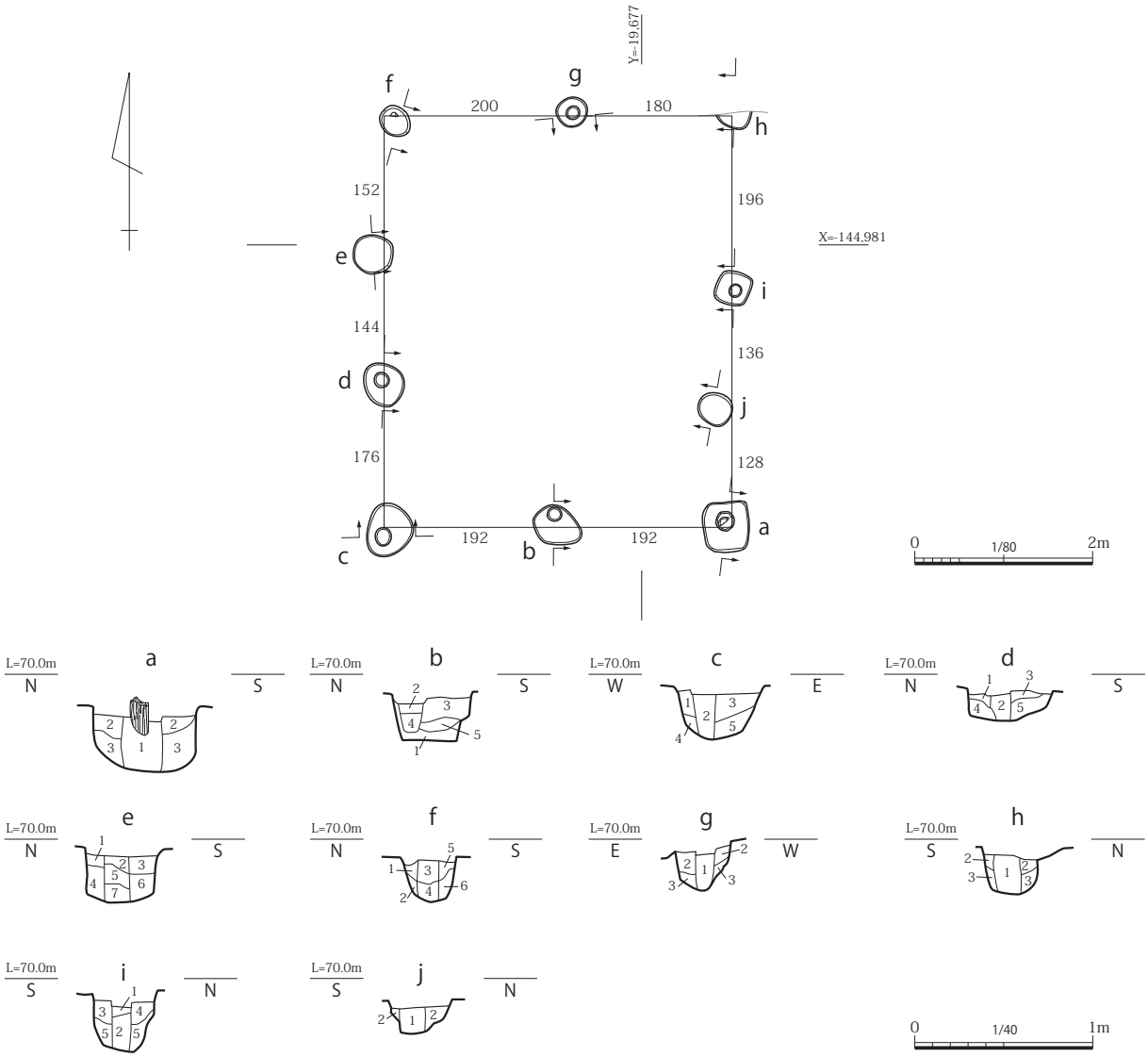
SA085 に隣接する井戸で、一部トレンチを拡張して掘削を行った。幅 1.8m、長さ 3.7m、深さ 1.8m を測る。井戸枠は土圧の影響を受けて変形していたものの、縦板横桟組であり、下部構造は認められなかった。

埋土からは、奈良時代前半の土師器、須恵器が出土している。また、井戸枠の横桟（95）には「六」の墨書が確認された。

SE413（図 25、図版 13）

SA190 に隣接する井戸で、幅 80cm、長さ 94cm、深さ 1.1m を測る。本調査区で検出された井戸では最も小型で、井戸枠も抜き取られているようである。掘方の規模から、それに合わせた曲物を据えていたと考えられる。

埋土からは、奈良時代の土師器杯・甕・墨書土器や須恵器杯・壺などのほか、軒平瓦などの遺物が出土しているが、残りが悪く厳密な年代比定はできない。



a
1. オリーブ黒 5Y3/1 細砂混粘砂（赤褐ブロック含む）
2. 灰 5Y4/1 細砂混粘砂（にぶい黄ブロック含む）
3. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混粘砂（黄褐ブロック含む）

b
1. 黄灰 2.5Y4/1 粘土
2. 暗灰黄 2.5Y4/2 粘土（炭化物混）
3. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘土
4. 黄灰 2.5Y5/1 粘土
5. 褐灰 10YR4/1 粘土

c
1. 黄灰 2.5Y4/1 中砂
2. 暗灰黄 2.5Y4/2 中砂混粘土
3. オリーブ褐 2.5Y4/3 中砂混粘土
4. 黒褐 2.5Y3/1 粗砂
5. 黒褐 2.5Y3/1 中砂混粘土

d
1. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂
2. 黒褐 2.5Y3/2 粗砂（遺物含む）
3. 黄灰 2.5Y5/3 粗砂
4. 黄灰 2.5Y5/1 粗砂
5. 黄灰 2.5Y4/1 粗砂

e
1. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混粘土
2. 黄褐 2.5Y5/3 細砂質土
3. 黄褐 2.5Y5/3 中砂
4. 黄灰 2.5Y4/1 粘土（黄褐色ブロック混）
5. 黄灰 2.5Y6/1 粘土（黄褐色ブロック混）
6. 灰 5Y5/1 粘土
7. 灰 5Y4/1 粘土

f
1. 灰オリーブ 5Y4/2 粘土
2. 暗オリーブ 5Y4/4 粘土（黄褐色ブロック混）
3. 灰 5Y4/1 中砂混粘土
4. オリーブ黒 5Y3/1 粗砂混粘土
5. オリーブ黒 5Y3/2 中砂混粘土
6. 黄灰 2.5Y4/1 中砂混粘土

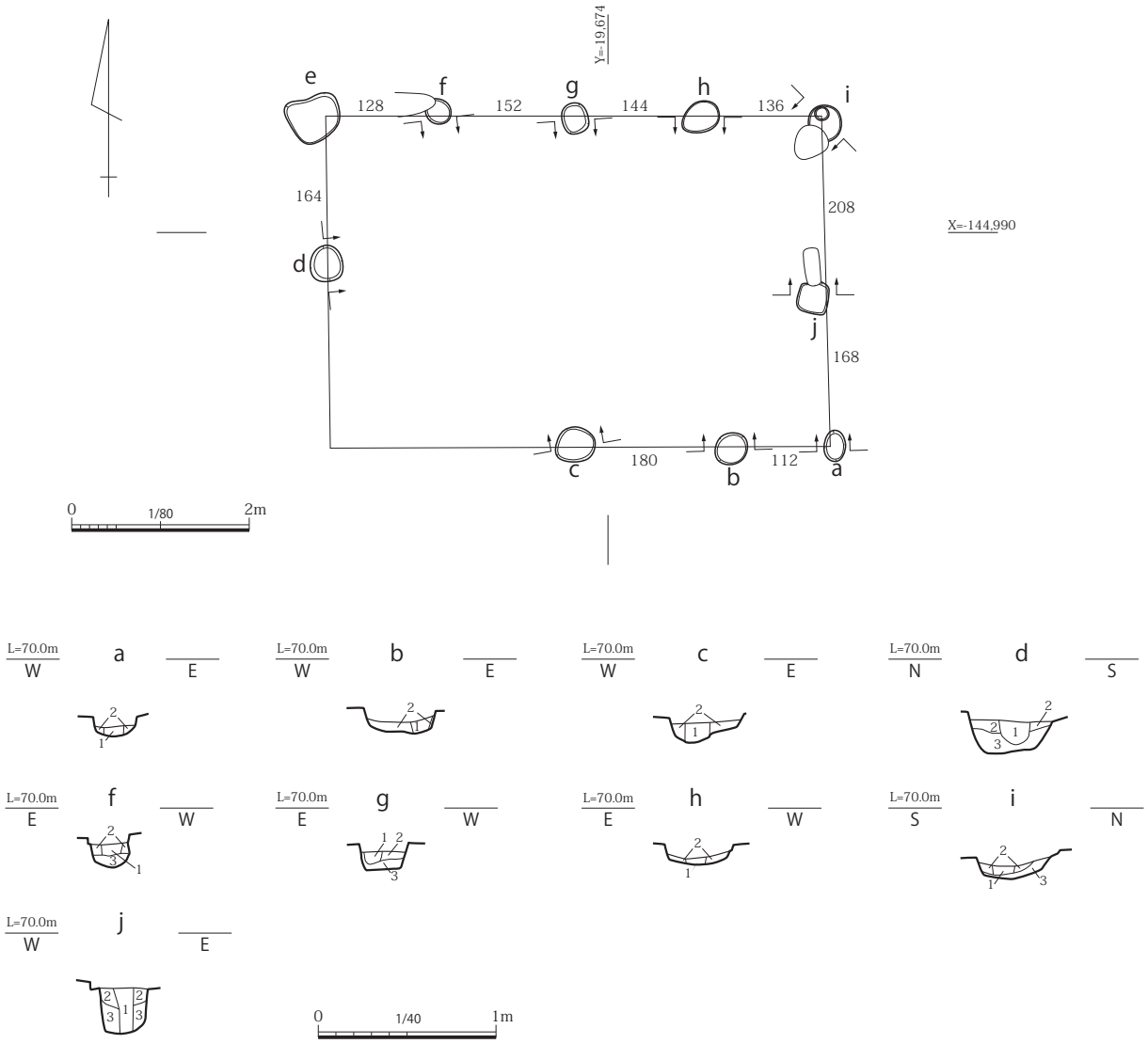
g
1. オリーブ黒 7.5Y3/2 粘土
2. 灰オリーブ 7.5Y4/2 粘土
3. 灰 10Y4/1 粘土

h
1. 黒褐 2.5Y3/1 粘土
2. 黒褐 2.5Y3/2 粘土
3. 暗黄灰 2.5Y4/2 粘土

i
1. オリーブ黒 5Y3/2 粘土
2. 黄灰 2.5Y4/1 粘土
3. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘土
4. オリーブ褐 2.5Y4/3 粘土
5. 暗灰黄 2.5Y4/2 粘土

j
1. 暗灰黄 2.5Y4/2 中砂混粘土
2. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘土

図 14 SB170 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）



a
1. 褐灰 10YR4/1 細砂混粘質土
2. にぶい黄褐 10YR4/3 粘質土（黄褐色ブロック混）

b
1. 褐灰 10YR4/1 細砂混粘質土
2. にぶい黄褐 10YR4/3 粘質土（黄褐色粘土ブロック混）

c
1. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 極粗砂混粘質土
2. 黒褐 10YR3/2 細砂混粘質土

d
1. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 極粗砂混粘質土（炭化物混）
2. 黒褐 2.5Y3/1 極粗砂混粘質土
3. 黒褐 10YR3/1 粘砂

f
1. 褐灰 10YR4/1 粘質土（黄褐色粘土ブロック混）
2. 黒褐 10YR3/2 粘質土（黄褐色粘土ブロック混）
3. 黒褐 2.5Y3/2 極細砂混粘質土

g
1. 褐灰 10YR4/1 細砂混粘質土
2. 暗褐 10YR3/3 細砂混粘質土
3. にぶい黄褐 10YR4/3 粘質土（炭化物少量混）

h
1. 褐灰 10YR4/1 粘質土
2. にぶい黄褐 10YR4/3 粘質土（黄褐色ブロック、炭化物混）

i
1. 褐灰 10YR4/1 細砂混粘質土
2. 黒褐 2.5Y3/2 粘質土
3. にぶい黄褐 10YR4/3 粘質土（黄褐色ブロック、炭化物混）

j
1. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘質土（炭化物混）
2. にぶい黄褐 10YR4/3 粘質土（黄褐色ブロック、炭化物混）
3. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混粘質土

図 15 SB180 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

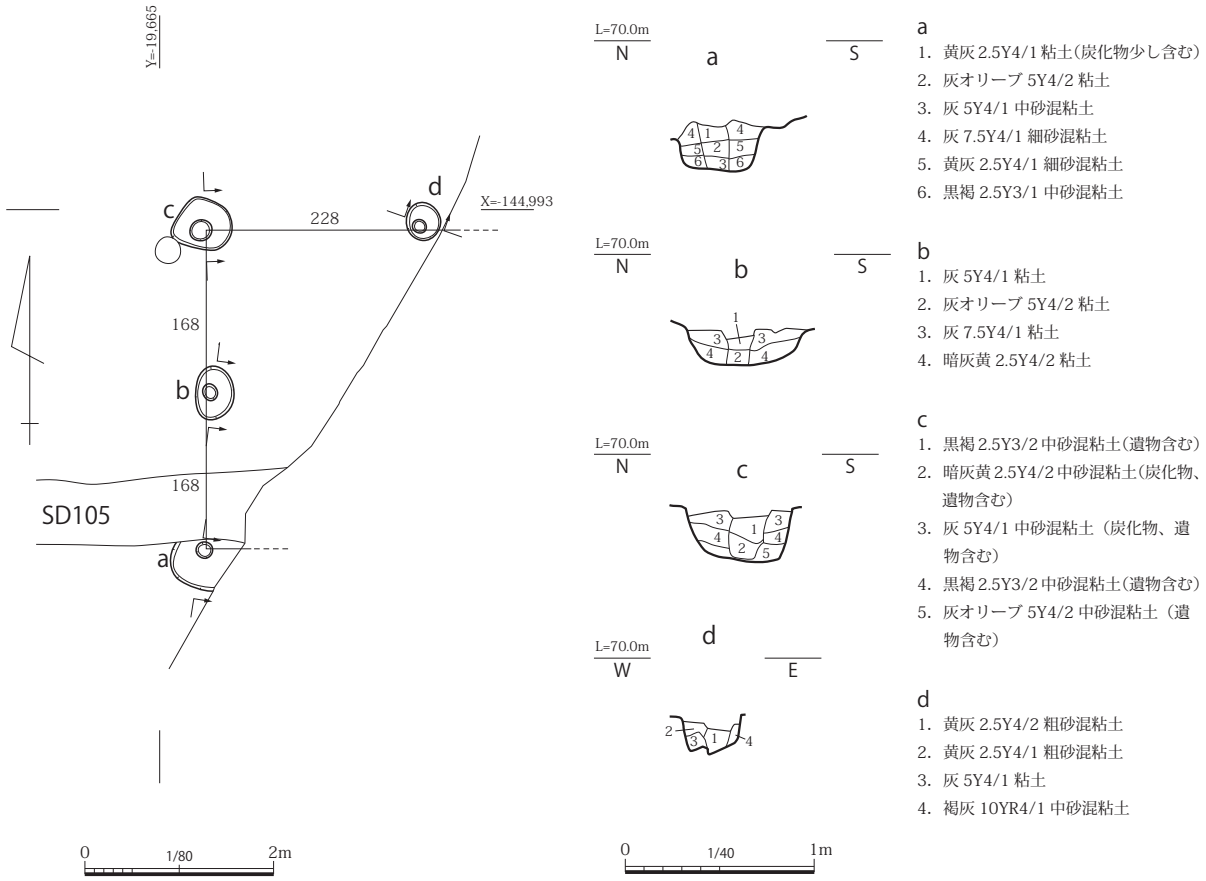


図 16 SB185 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

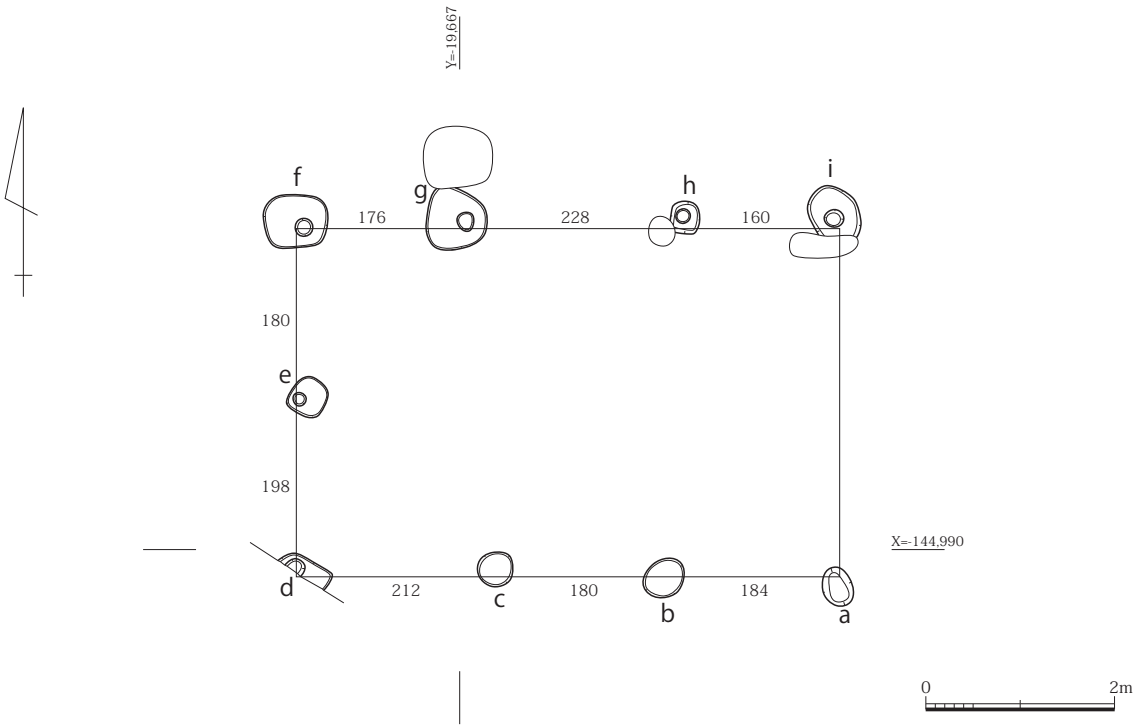
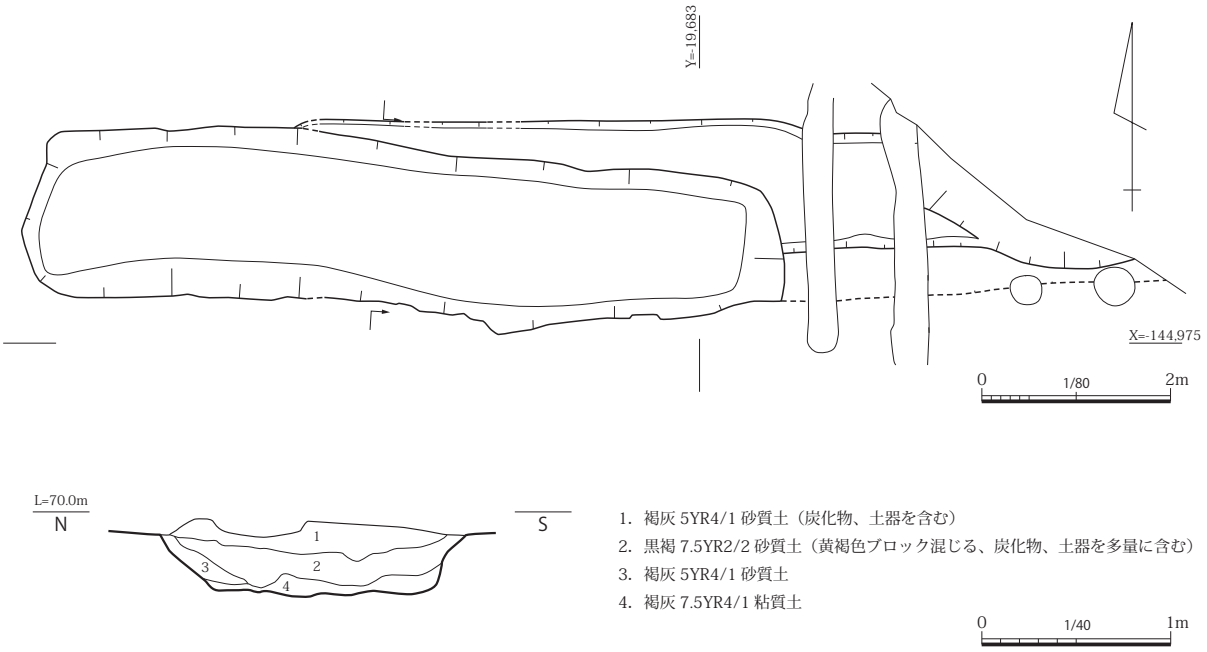
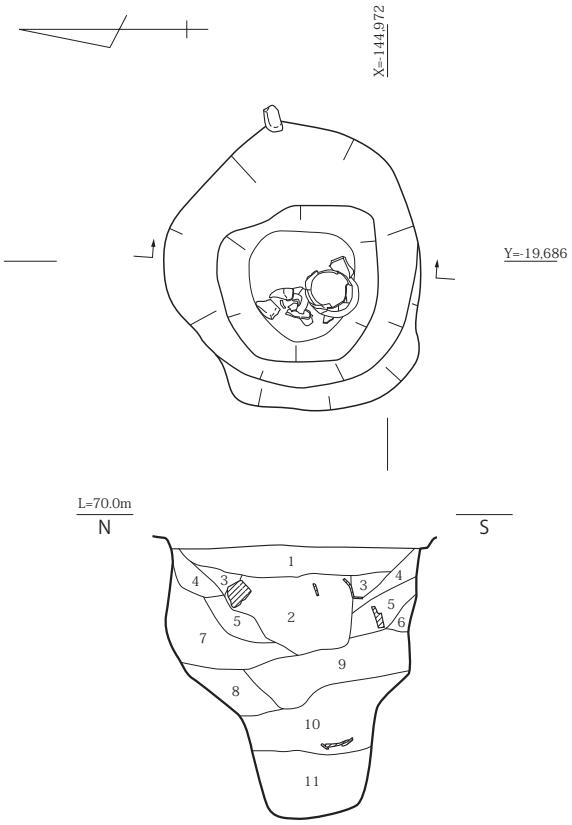


図 17 SB205 平面図（S=1/80）



1. 褐灰 5YR4/1 砂質土（炭化物、土器を含む）
2. 黒褐 7.5YR2/2 砂質土（黄褐色ブロック混じる、炭化物、土器を多量に含む）
3. 褐灰 5YR4/1 砂質土
4. 褐灰 7.5YR4/1 粘質土

図 18 SD010 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）



1. 黒褐 2.5Y3/2 粗砂混粘質土
2. 黒褐 10YR3/1 粘質土
3. 黒褐 7.5YR3/1 粘質土
4. 黄灰 2.5Y4/1 粘質土
5. 暗オリーブ褐 2.5Y3/3 粘質土
6. 黒褐 10YR3/2 粘質土
7. 黒褐 10YR3/2 粘質土（黄白色粘土ブロック混）
8. 暗褐 10YR3/3 粘質土
9. 灰黄褐 10YR4/2 粘質土（黄白色粘土混）
10. 黒褐 10YR3/1 粘質土（黄白色粘土混）
11. 褐灰 10YR4/1 粘土

0　2m

図 19 SE025 平面・土層断面図（S=1/40）

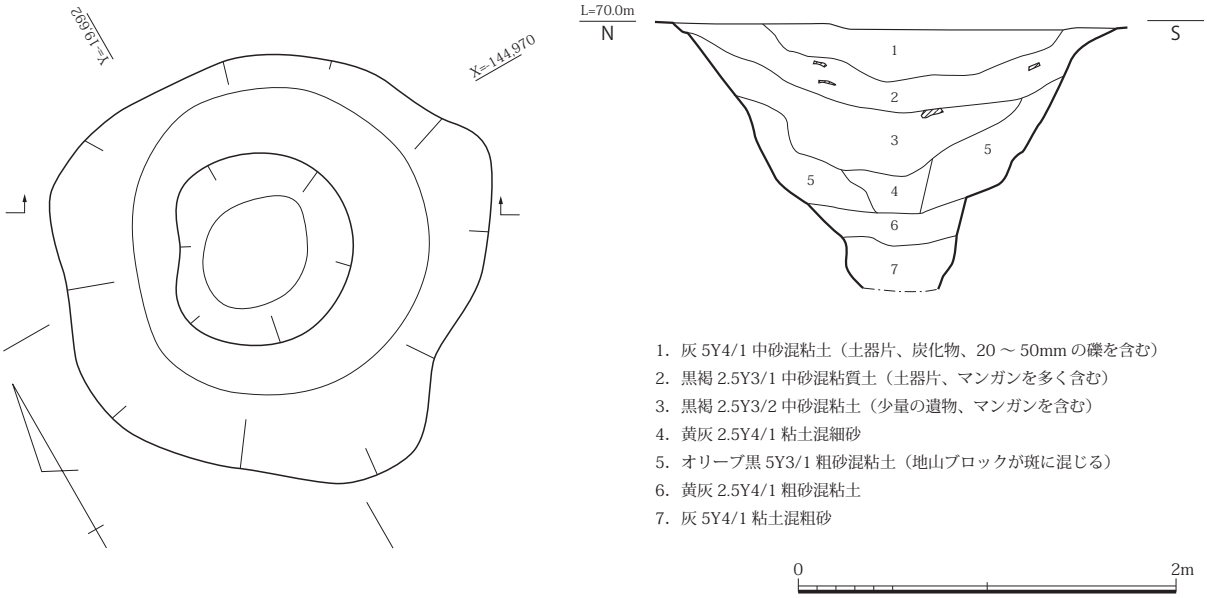


図 20 SE045 平面・土層断面図（S=1/40）

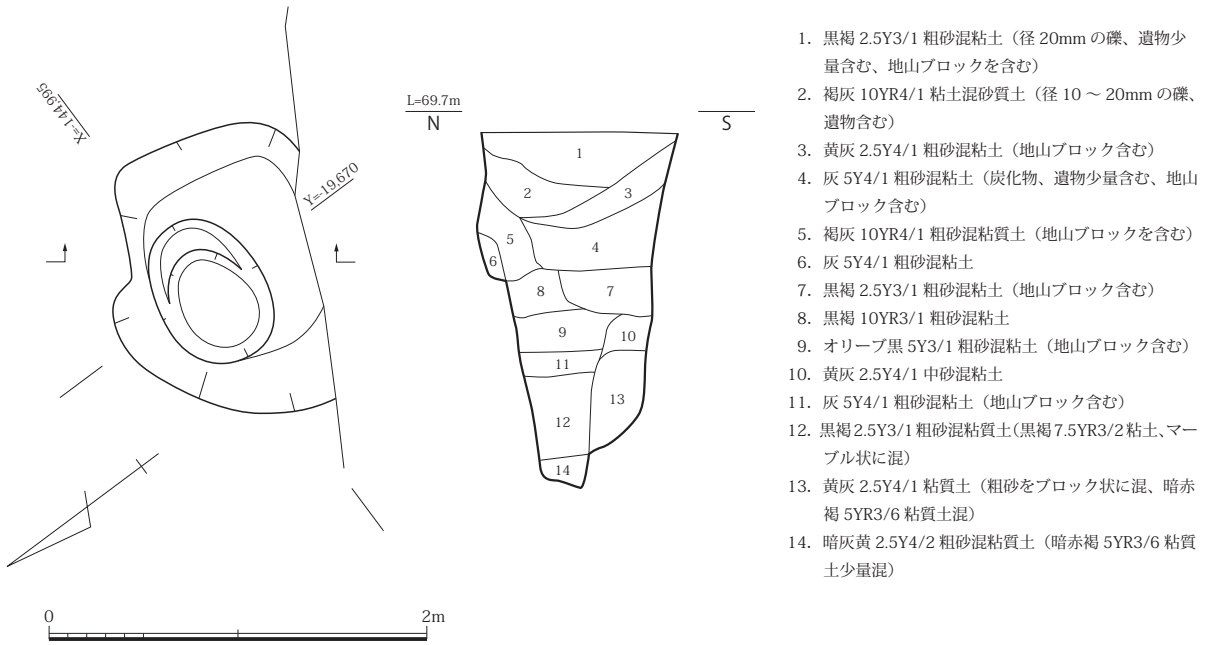


図 21 SE110 平面・土層断面図（S=1/40）

土坑

SK050（図 26）

SE025 と SE045 の間に位置する不整円形の土坑で、SX040 の掘削後に検出された。幅 96cm、長さ 94cm、深さ 28cm を測り、断面形態は逆台形を呈する。

埋土には炭化物や地山ブロックを含み、奈良時代前半の土師器や須恵器、丸瓦などが出土している。

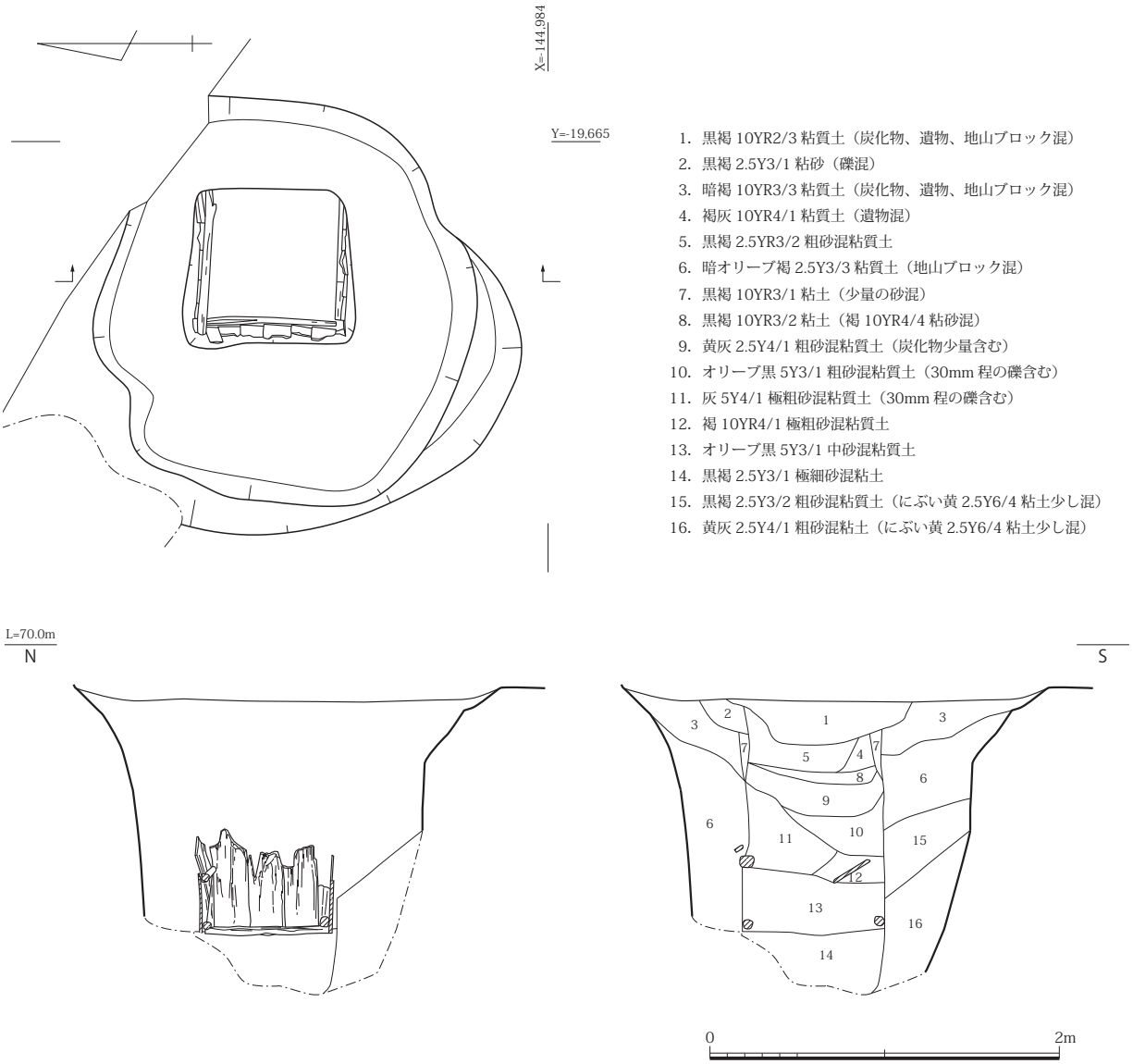


図 22 SE130 平面・立面・土層断面図（S=1/40）

SK060（図 27、図版 14）

調査区西端に位置する不整円形の土坑である。幅 70cm、長さ 86cm、深さ 28cm を測り、断面形態は箱型を呈する。

埋土からは、奈良時代前半の土師器や須恵器、平瓦のほか、緑釉陶器の細片が出土している。

SK115（図 28、図版 14 ～ 17）

SA190 および SE413 に隣接する土坑で、後述する SK120・125・135・140 と同じ並びにある。幅 1.48m、長さ 2.28m、深さ 28cm で、平面形態は不整形だが床面は平坦である。

埋土も均質に堆積しており、奈良時代後半の土師器や須恵器、瓦、塼などが出土している。

SK120（図 29、図版 14・17・18）

調査区東端付近に位置する土坑で、SK140 を切る。幅 1.2m、長さ 1.4m、深さ 28cm で、平面形態は隅丸方形を呈する。床面は SK115 と同様に平坦である。

埋土は炭化物を含む黒褐色粘質土を主とし、奈良時代後半の土師器、須恵器、瓦や土馬が出土している。

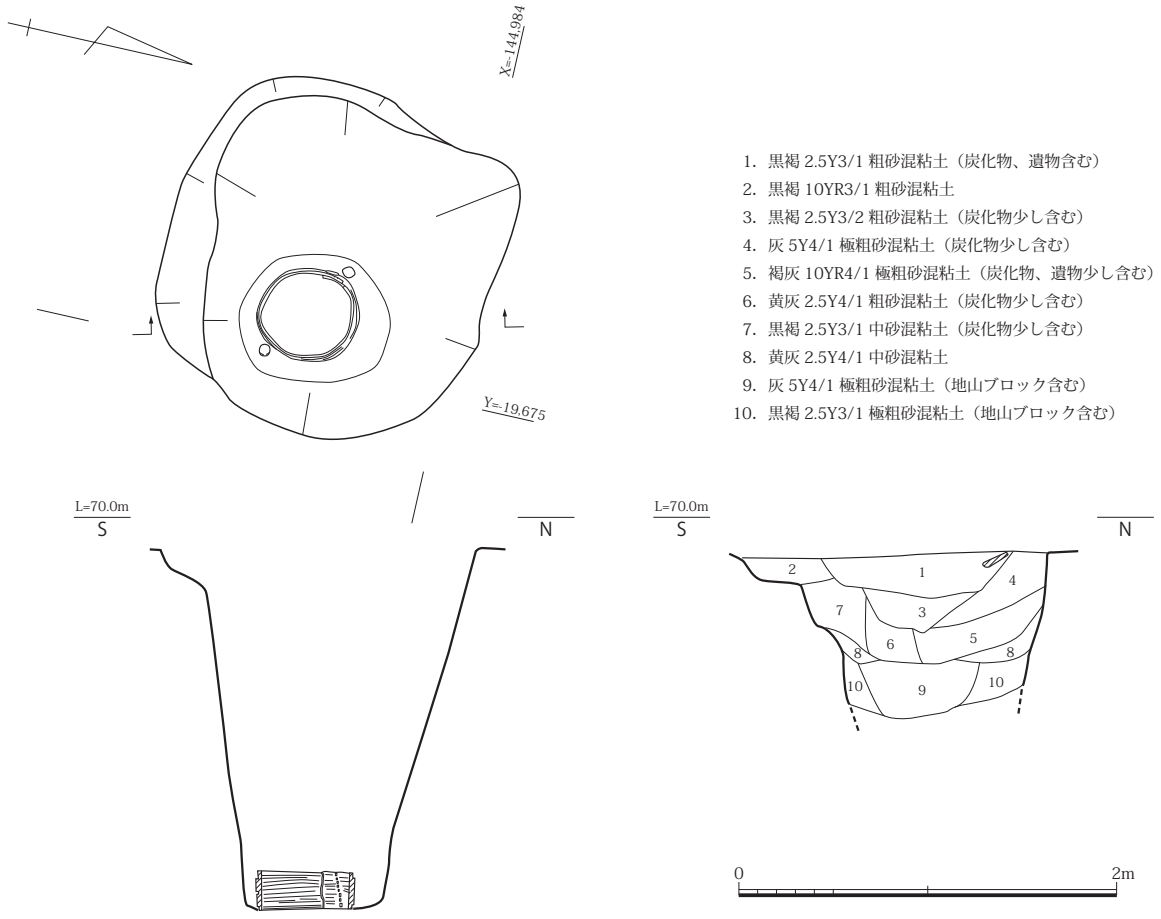


図 23 SE150 平面・立面・土層断面図（S=1/40）

SK125（図 30・図版 14）

調査区東端付近に位置する土坑で、SK140・135 を切る。幅 60cm、長さ 1.0m、深さ 12cm を測る。調査区東寄りに位置する廃棄土坑群の中では掘り込みが浅いものの、埋土は炭化物や地山ブロックを含む黒褐色粘質土であった。

埋土からは奈良時代の須恵器蓋のほか、土師器や瓦の細片が出土している。

SK135（図 31・図版 14）

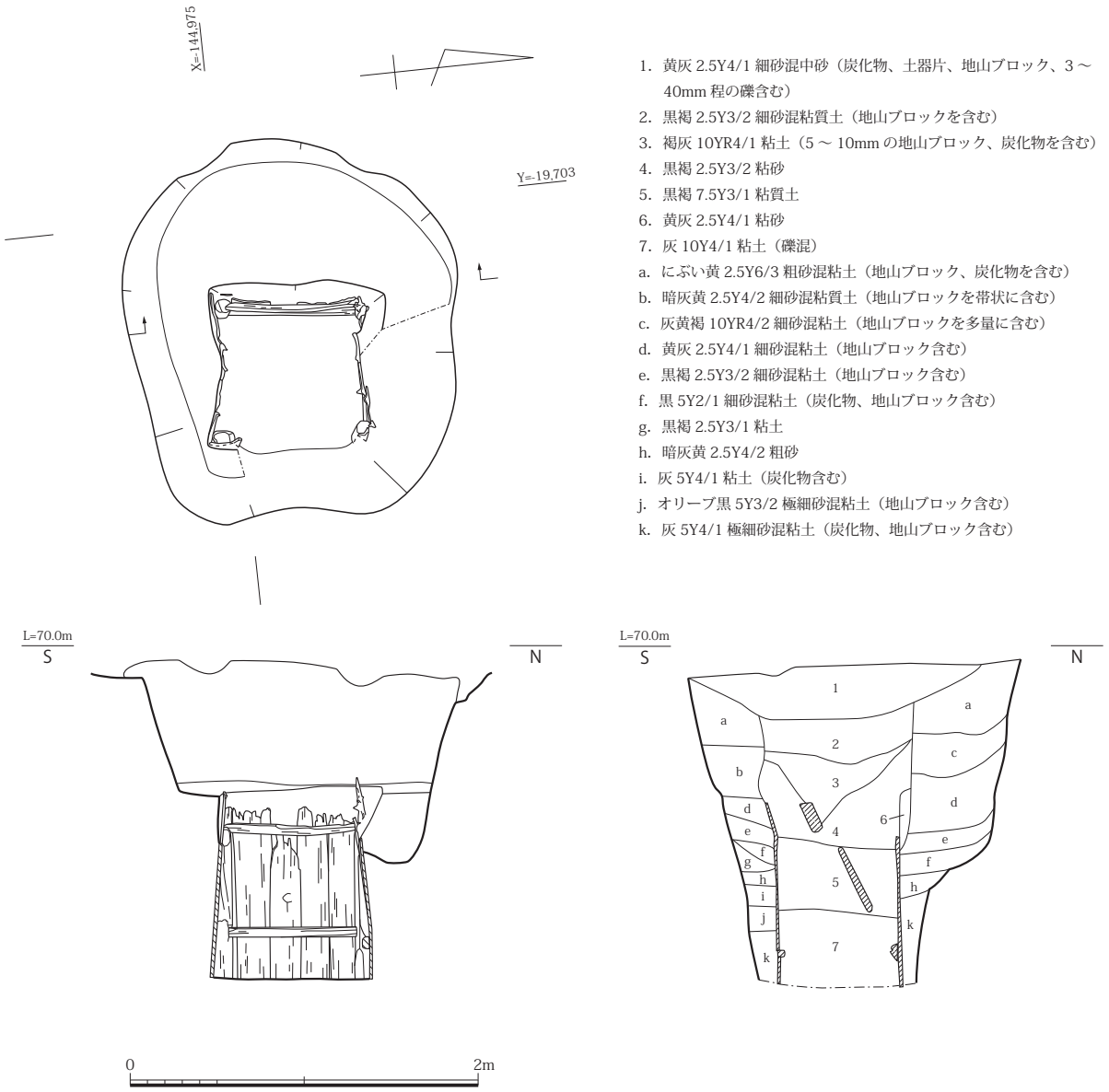
調査区東端に位置する土坑で、SK125 に切られる。調査区外に延びるため全体規模は不明であるが、幅 1.44m、長さ 24cm 以上、深さ 20cm を測る。埋土は炭化物を含む黒褐色粘質土で他の遺構埋土と近似するが、一度に埋められている。

出土遺物は奈良時代の土師器や須恵器、瓦、塼であるが、厳密な年代比定はできない。

SK140（図 32・図版 14）

不整方形を呈する土坑で、SK120・125 に切られる。幅 1.5m、長さ 1.2m、深さ 8cm を測る。一連の土坑の中では最も浅いが、炭化物と土師器、須恵器を多量に含む埋土によって人為的に埋められる点は共通する。

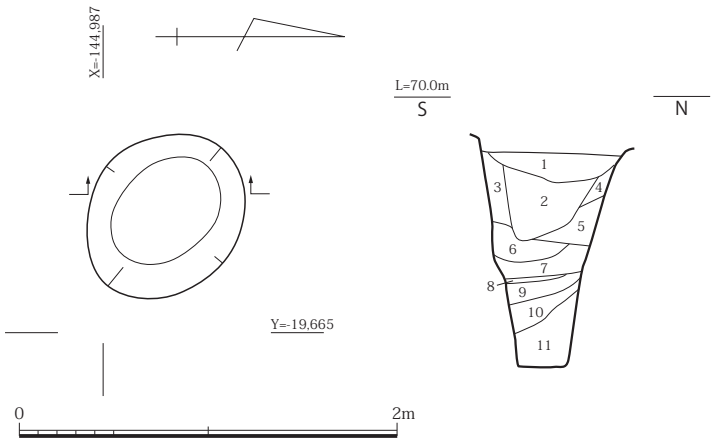
出土遺物は、奈良時代の土師器甕と須恵器杯、および各細片であるが、厳密な年代比定はできない。



1. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混中砂（炭化物、土器片、地山ブロック、3～40mm 程の礫含む）
2. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘質土（地山ブロックを含む）
3. 褐灰 10YR4/1 粘土（5～10mm の地山ブロック、炭化物を含む）
4. 黒褐 2.5Y3/2 粘砂
5. 黒褐 7.5Y3/1 粘質土
6. 黄灰 2.5Y4/1 粘砂
7. 灰 10Y4/1 粘土（礫混）

a. にぶい黄 2.5Y6/3 粗砂混粘土（地山ブロック、炭化物を含む）
b. 暗灰黄 2.5Y4/2 細砂混粘質土（地山ブロックを帯状に含む）
c. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混粘土（地山ブロックを多量に含む）
d. 黄灰 2.5Y4/1 細砂混粘土（地山ブロック含む）
e. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘土（地山ブロック含む）
f. 黒 5Y2/1 細砂混粘土（炭化物、地山ブロック含む）
g. 黒褐 2.5Y3/1 粘土
h. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂
i. 灰 5Y4/1 粘土（炭化物含む）
j. オリーブ黒 5Y3/2 極細砂混粘土（地山ブロック含む）
k. 灰 5Y4/1 極細砂混粘土（炭化物、地山ブロック含む）

図 24 SE153 平面・立面・土層断面図（S=1/40）



1. 黒褐 10YR3/1 細砂混粘土（炭化物、遺物を含む）
2. 褐灰 10YR4/1 細砂混粘土（炭化物、遺物を少し含む）
3. 暗灰黄 2.5Y3/2 粗砂混粘土
4. 黒褐 2.5Y3/1 粗砂混粘土
5. 黒褐 10YR3/2 粗砂混粘土（炭化物を含む）
6. 褐灰 10YR4/1 粗砂混粘土（炭化物を少し含む、地山ブロック含む）
7. 黄灰 2.5Y4/1 中砂混粘土
8. 黒 5Y2/1 粘質土（炭化物、シルトベース）
9. オリーブ黒 5Y3/1 中砂混粘質土
10. 黒褐 2.5Y3/2 中砂混粘質土
11. 黒褐 2.5Y3/1 粘質土（黄灰色粘土をマーブル状に混じる、50mm 程の石混）

図 25 SE413 平面・土層断面図（S=1/40）

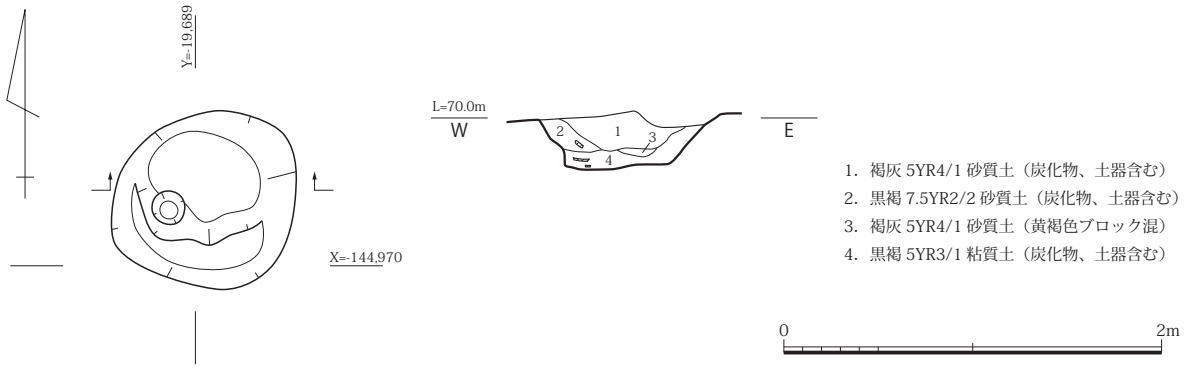


図 26 SK050 平面・土層断面図（S=1/40）

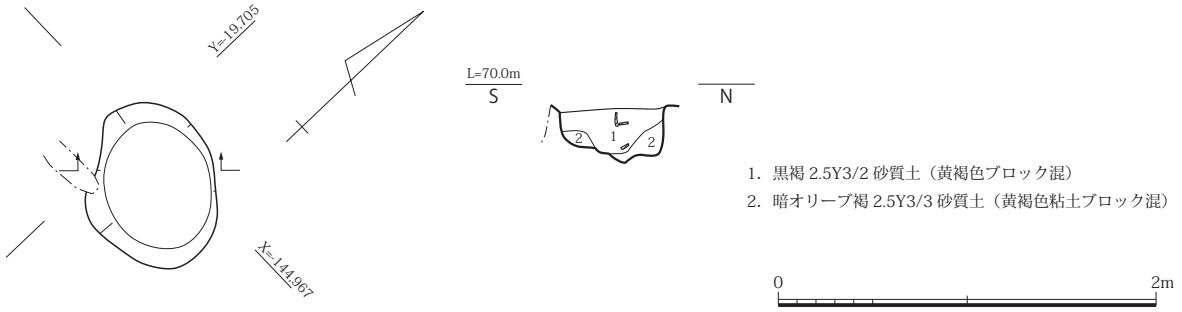


図 27 SK060 平面・土層断面図（S=1/40）

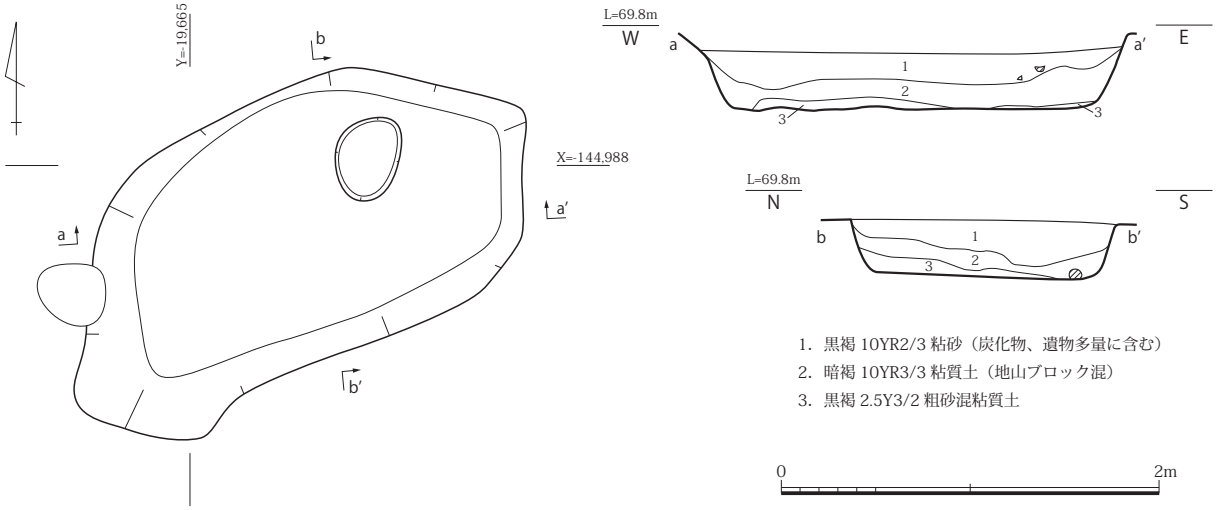


図 28 SK115 平面・土層断面図（S=1/40）

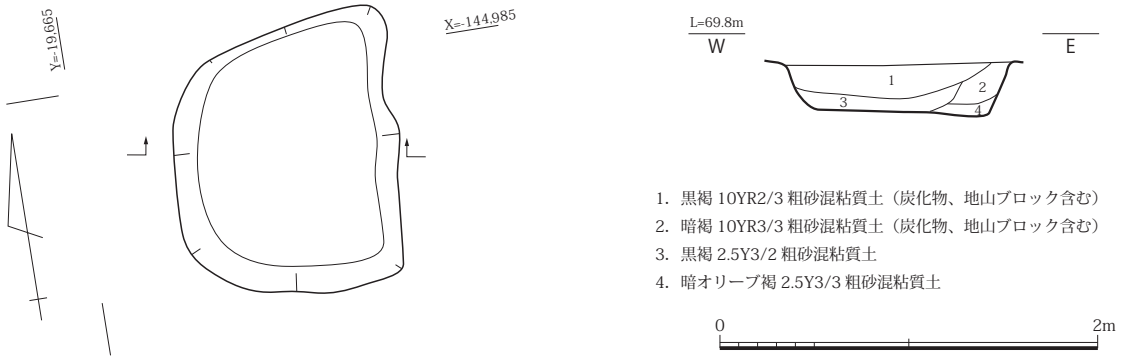


図 29 SK120 平面・土層断面図（S=1/40）

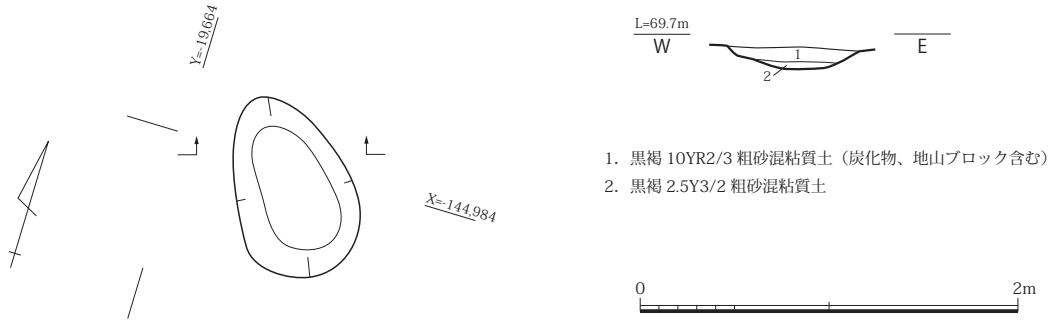


図 30 SK125 平面・土層断面図（S=1/40）

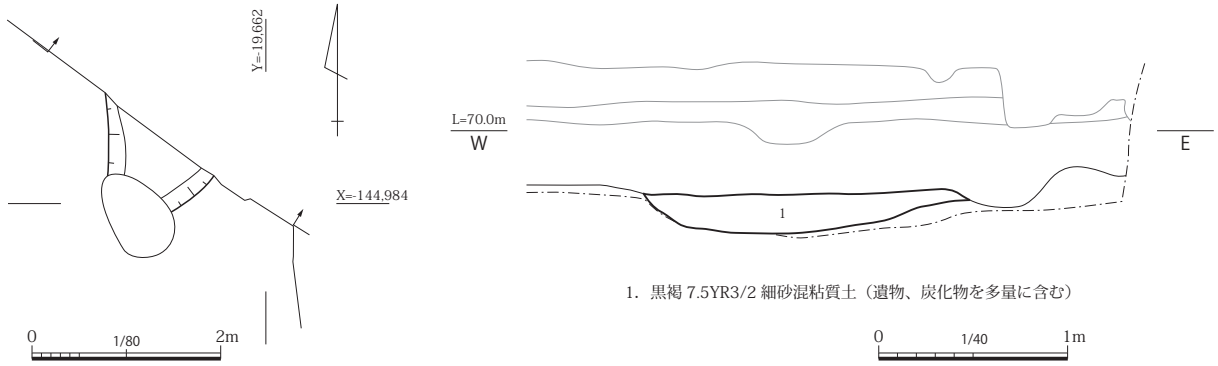


図 31 SK135 平面・土層断面図（平面 S=1/80・断面 S=1/40）

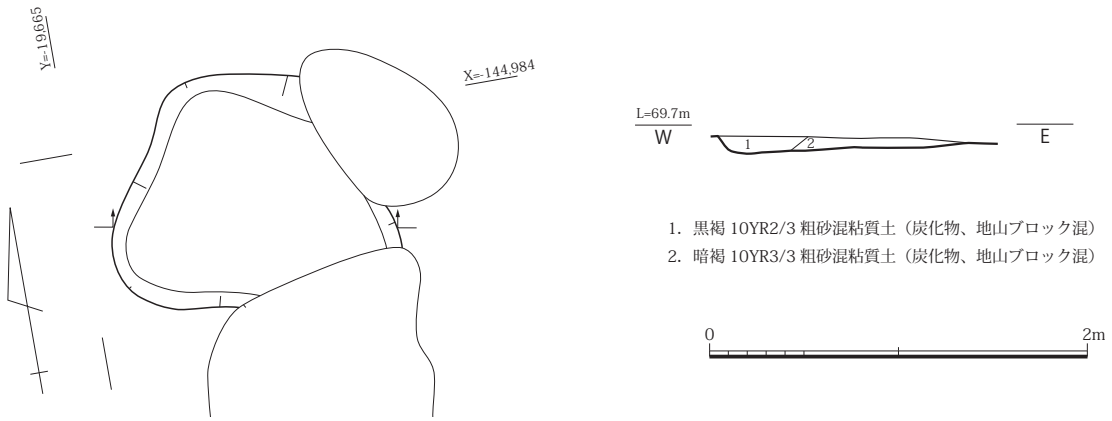


図 32 SK140 平面・土層断面図（S=1/40）

柱穴

SP057

SA195 から約 2m 南に位置する単独の柱穴である。幅約 50㎝を測り、柱痕をもつものの対になる柱穴は認められない。

埋土からは、奈良時代の土師器が出土している。

SP088（図 33）

SA090e を切る単独の柱穴である。幅約 50㎝、深さ 15㎝を測るが、残りは悪い。

埋土からは、奈良時代の須恵器が出土している。

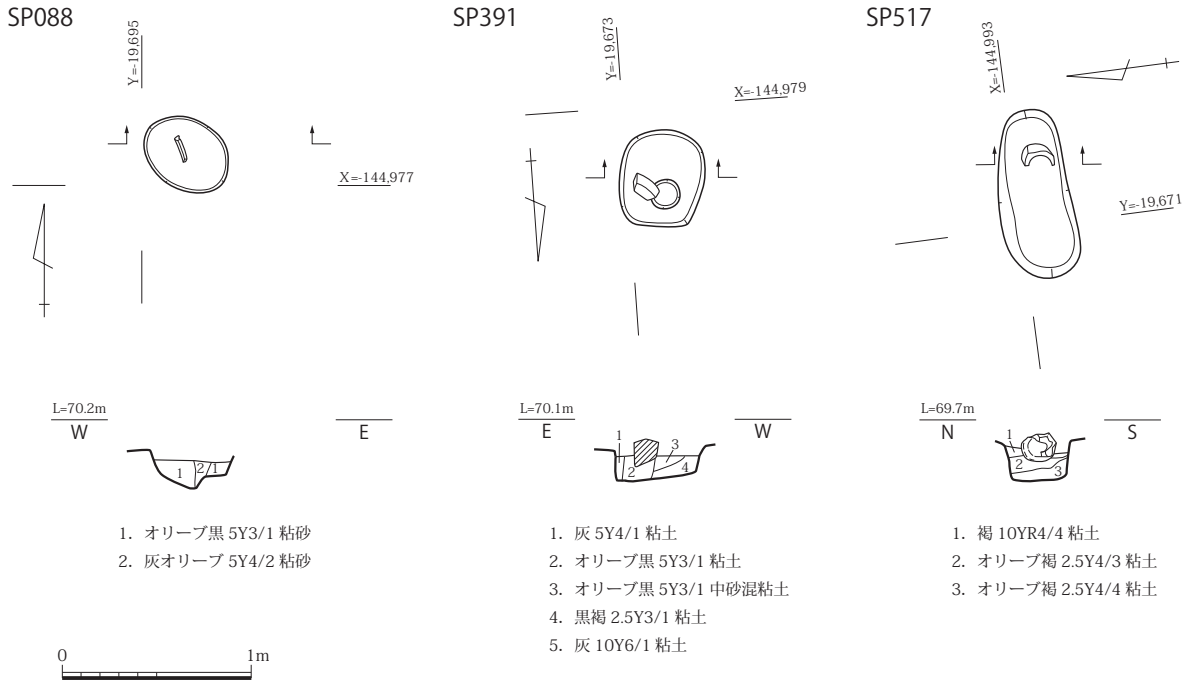


図 33 SP088・391・517 平面・土層断面図（S=1/40）

SP391（図 33、図版 18）

SA195 の同一軸線上に位置する柱穴で、SX155・SB165 に隣接する。SA195 や建物を構成する柱穴とも考えたが、柱間や対になる柱穴が捉えられなかったため単独のものとした。幅 44cm、長さ 52cm、深さ 16cm で、隅丸方形を呈する。

埋土からは奈良時代の土師器細片、須恵器、軒平瓦が出土している。

SP517（図 33）

SB180 に隣接する柱穴で、土坑状の掘り込みと素掘小溝に切られている。幅 40cm、長さ 90cm、深さ 20cm を測り、隅丸長方形を呈する。

埋土は褐色粘土が水平堆積し、奈良時代の軒丸瓦が出土している。

不明遺構

SX040（図 34）

SE045 から SD010 の一帯に位置する不整形な形態を呈する落ち込みである。これらの遺構が埋没し、沈下したところに堆積したものと考えられる。長さ 9.3m、幅 3.2m で、埋土には炭化物と土器小片が含まれる。

奈良時代中期（平城Ⅲ）の土師器皿、須恵器、軒丸瓦などが出土している。

SX055（図 35、図版 19）

SE153 の約 3m 北に位置する円形の不明遺構である。幅・長さともに 1.3m、深さ 90cm で、床面は平坦である。井戸枠等は認められず、埋土は約 30cm の単位で水平堆積する。人為的な埋め戻し土と考えられ、遺物は奈良時代の須恵器杯ないし甕が出土するが、明確な時期の特定には至っておらず遺構の性格も不明である。遺構埋土の堆積状況などで SX065・100・155 と共通する部分が多い。

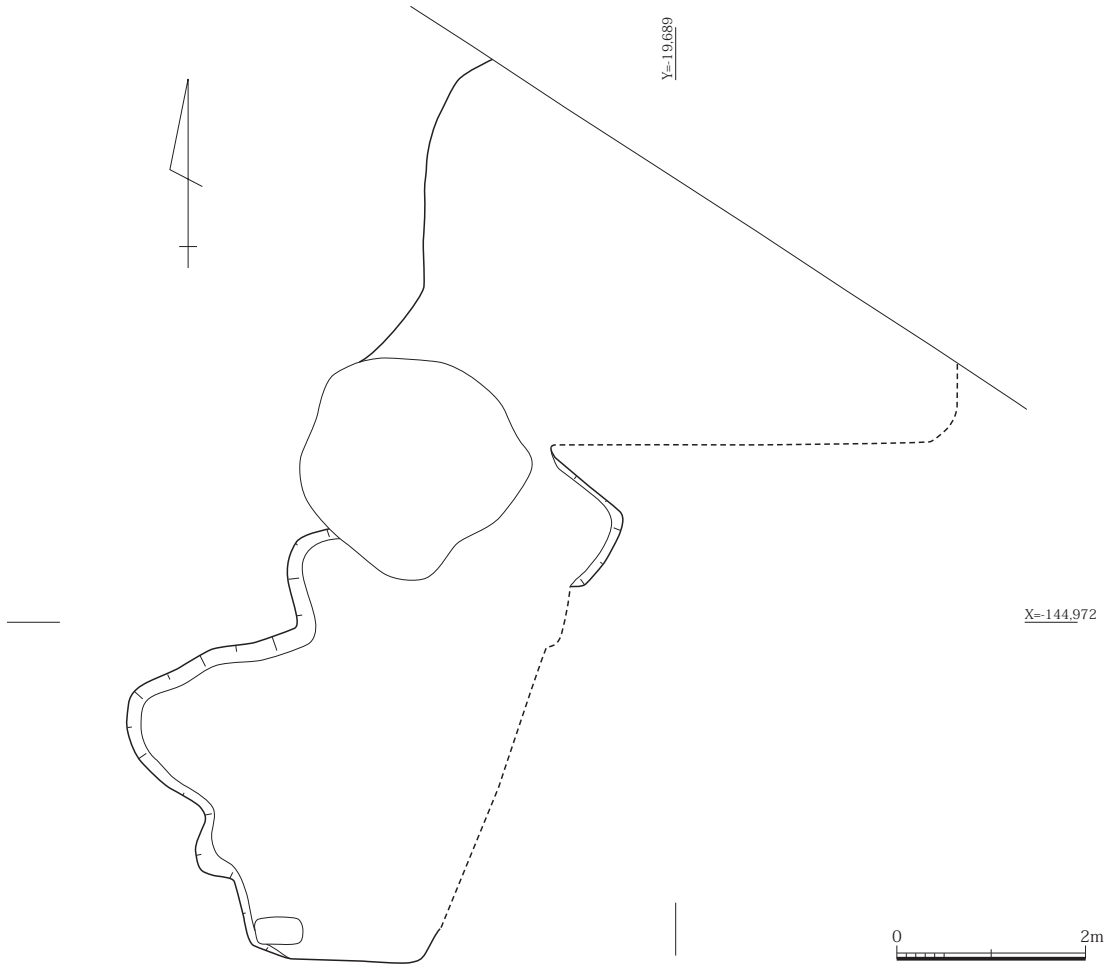


図 34 SX040 平面図（S=1/80）

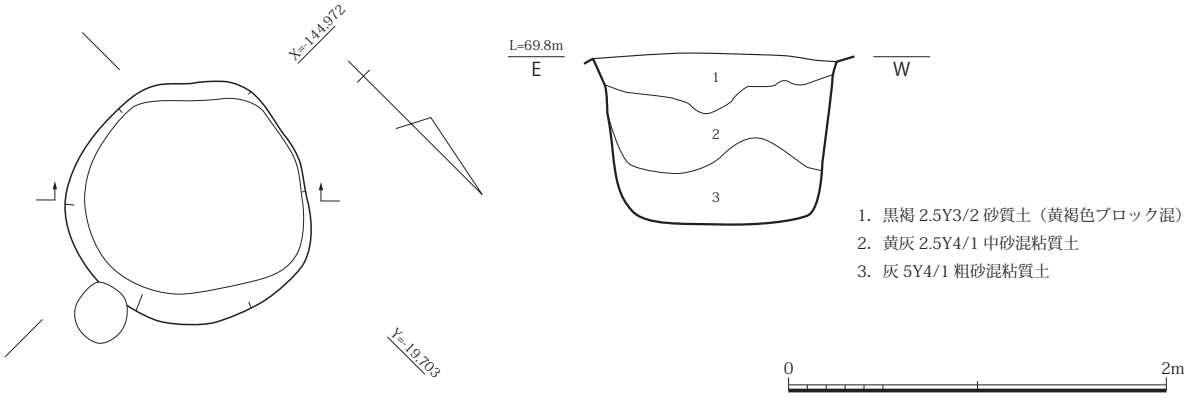
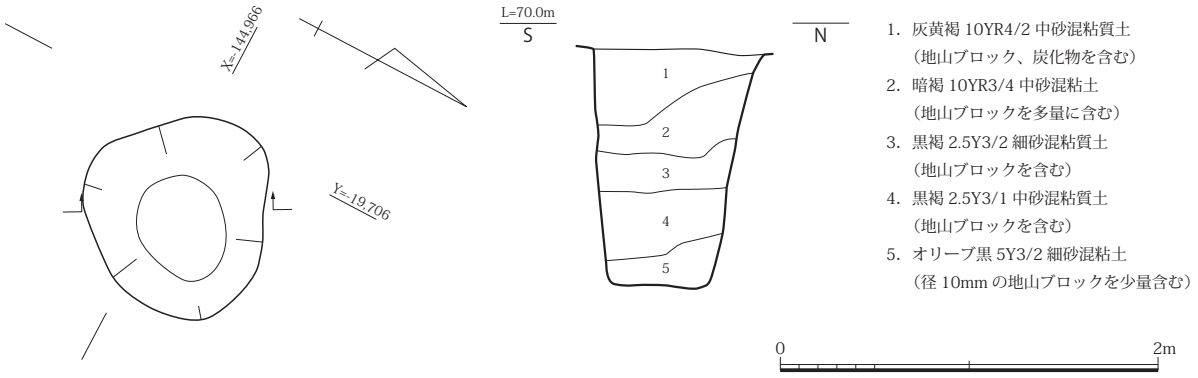


図 35 SX055 平面・土層断面図（S=1/40）

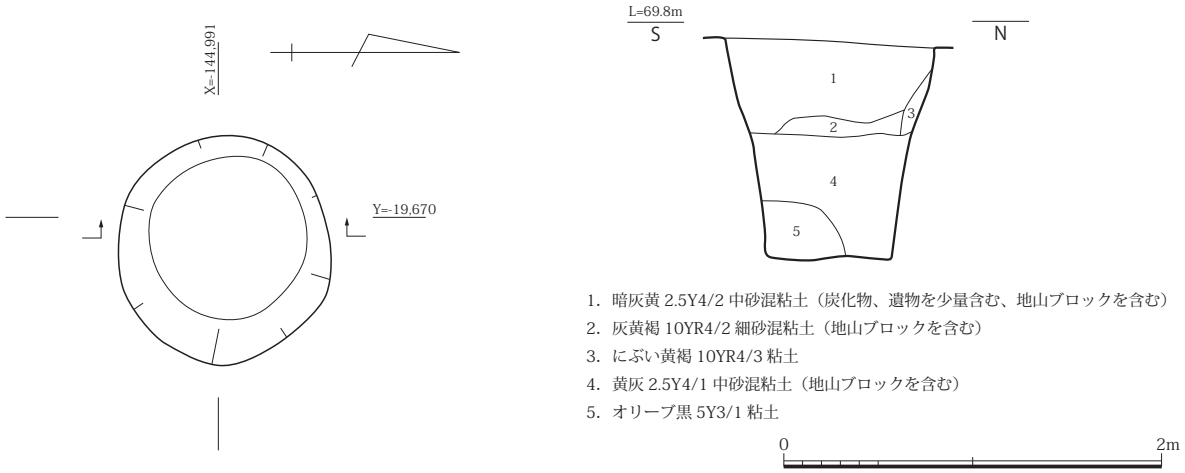
SX065（図 36、図版 19）

調査区西端に位置する不整円形の不明遺構である。幅 94cm、長さ 1.1m、深さ 1.3m で、床面は平坦である。井戸枠等は無く、埋土は約 20 ～ 40cm の単位で地山ブロックと砂の混成土が水平堆積する。最下層は粘土が堆積するものの有機物は認められず、遺物は土師器ないし須恵器の細片のみの出土であった。遺構の堆積状況などは SX055・100・155 と共通するが、これらの遺構と同様に性格は不明である。



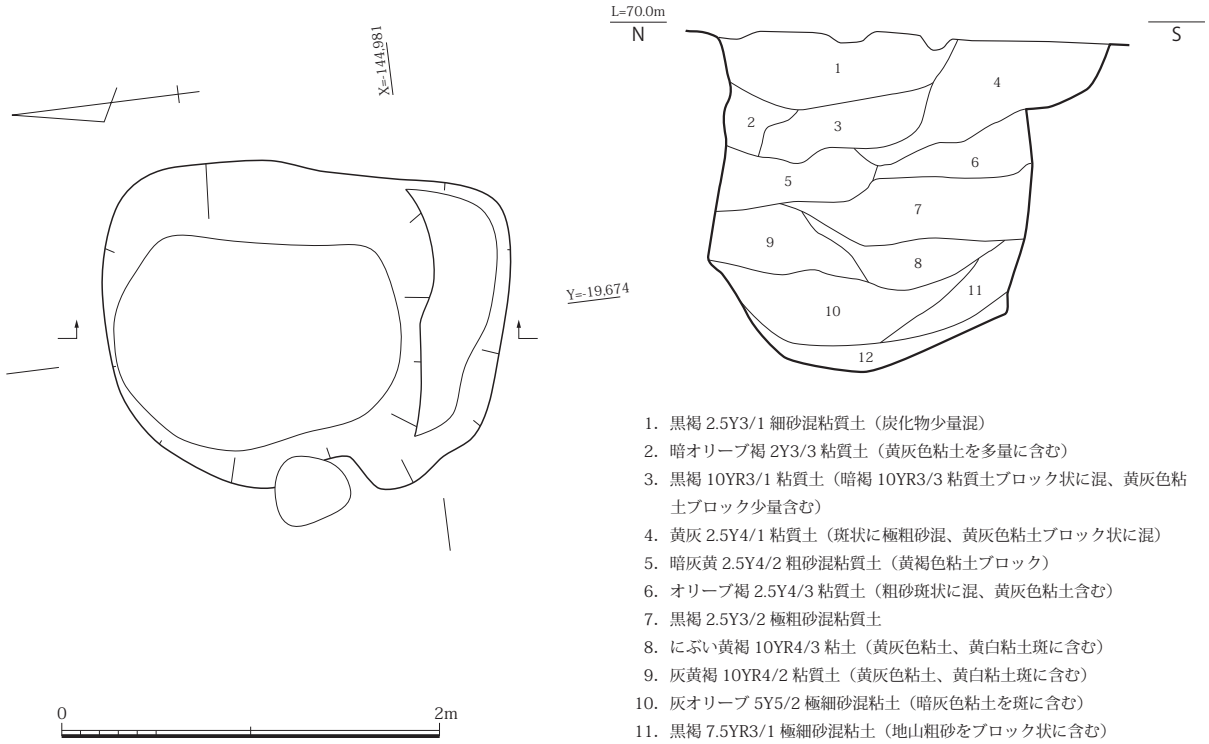
1. 灰黄褐 10YR4/2 中砂混粘質土
（地山ブロック、炭化物を含む）
2. 暗褐 10YR3/4 中砂混粘土
（地山ブロックを多量に含む）
3. 黒褐 2.5Y3/2 細砂混粘質土
（地山ブロックを含む）
4. 黒褐 2.5Y3/1 中砂混粘質土
（地山ブロックを含む）
5. オリーブ黒 5Y3/2 細砂混粘土
（径 10mm の地山ブロックを少量含む）

図 36 SX065 平面・土層断面図（S=1/40）



1. 暗灰黄 2.5Y4/2 中砂混粘土（炭化物、遺物を少量含む、地山ブロックを含む）
2. 灰黄褐 10YR4/2 細砂混粘土（地山ブロックを含む）
3. にぶい黄褐 10YR4/3 粘土
4. 黄灰 2.5Y4/1 中砂混粘土（地山ブロックを含む）
5. オリーブ黒 5Y3/1 粘土

図 37 SX100 平面・土層断面図（S=1/40）



1. 黒褐 2.5Y3/1 細砂混粘質土（炭化物少量混）
2. 暗オリーブ褐 2Y3/3 粘質土（黄灰色粘土を多量に含む）
3. 黒褐 10YR3/1 粘質土（暗褐 10YR3/3 粘質土ブロック状に混、黄灰色粘土ブロック少量含む）
4. 黄灰 2.5Y4/1 粘質土（斑状に極粗砂混、黄灰色粘土ブロック状に混）
5. 暗灰黄 2.5Y4/2 粗砂混粘質土（黄褐色粘土ブロック）
6. オリーブ褐 2.5Y4/3 粘質土（粗砂斑状に混、黄灰色粘土含む）
7. 黒褐 2.5Y3/2 極粗砂混粘質土
8. にぶい黄褐 10YR4/3 粘土（黄灰色粘土、黄白粘土斑に含む）
9. 灰黄褐 10YR4/2 粘質土（黄灰色粘土、黄白粘土斑に含む）
10. 灰オリーブ 5Y5/2 極細砂混粘土（暗灰色粘土を斑に含む）
11. 黒褐 7.5YR3/1 極細砂混粘土（地山粗砂をブロック状に含む）
12. 灰 10Y6/1 粘土（暗黒色ブロックを含む）

図 38 SX155 平面・土層断面図（S=1/40）

SX100（図 37、図版 20）

幅 1.1m、長さ 1.2m、深さ 1.2m を測る平面円形を呈する不明遺構である。地山ブロックと砂の混成土で人為的に埋め戻されており、最下層や中位層に粘土が堆積するが、約 40cm の単位での堆積は SX055・065・155 と共通する。井戸枠等も認められず、性格は不明である。

遺物は須恵器壺や丸瓦片が出土するが、ほとんど含まない。

SX155（図 38、図版 21）

SB165 を伴う平面隅丸長方形を呈する不明遺構である。幅 1.7m、長さ 2.2m、深さ 1.8m で、南側に小段を持つ。地山ブロックと砂が混じる埋土が 20 ～ 30cm の単位で堆積しており、井戸枠等は認められなかった。SX055・065・100 と同様の堆積であり、埋土も近似するが、これらに比べると比較的細かい単位で埋め戻されている。

当初、SB165 を伴っていることなどから、汲み取り式のトイレ遺構の可能性も考えたが、堆積層は全て二次的な埋め戻し土であるため有機物を含む土層の堆積が無く、土壌分析には耐えうるサンプルが得られなかった。そのため、遺構の性格を断定するには至っていない。似た堆積状況を示す SX055・065・100 も同じ性格を有していたと考えられる。

遺物は奈良時代の須恵器、土師器の破片が少量出土しているほか、6 世紀後半の有蓋高杯が混入する。厳密な時期の比定は現状では難しい。

第 3 節　素掘小溝

素掘小溝は本調査区の全体で確認され、奈良時代の各遺構を切っている。1 区では東西方向と南北方向の素掘小溝が複雑に重複し、2 区では約 3m 間隔で南北方向の素掘小溝が主体的に形成する。出土遺物は奈良時代の遺物のみであり、一連の素掘小溝の形成時期は不明である。

調査地が位置する右京一条二坊十一坪は、13 世紀前半頃まで西隆寺地であり、それまでは境内地ではないが何らかの施設が存在していたと考えられる。史料上では 13 世紀中頃には田畠と確認できることから、一連の素掘小溝は 13 世紀中頃以降に形成された可能性がある。しかし、形成時期を特定できる遺物が認められなかったため、中世以降の利用実態は不明と言わざるを得ない。

第 4 節　出土遺物

条坊道路遺構

SD105 出土遺物（図 39、図版 23）

須恵器杯（1）　杯 A である。残存率は悪いが、体部から内面にかけてロクロナデ調整し、底部はヘラケズリを施す。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。

須恵器壺（2）　壺 L である。内外面ともロクロナデ調整を施し、口縁端部は上方にややつまみ上げる。胎土は灰白色を呈し、長石を含

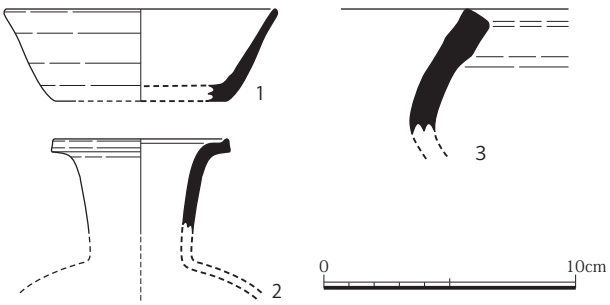


図 39　SD105 出土遺物実測図（S=1/3）

む。焼成は良好である。底部を欠損するが、平城Ⅳ以降のものと考えられる。

須恵器甕（3） 甕Ｃである。内外面ともロクロナデ調整を施し、外面には降灰が見られる。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。

塀

SA090 出土遺物（図 40）

土師器高杯（4） 高杯Ｂである。杯部のみが残存する。体部は連続的なユビオサエを施したのちナデ調整する。口縁部はヨコナデ調整、内面はナデ調整し、端部はやや屈曲させる。胎土はにぶい橙色で、長石と雲母を含む。焼成は良好である。柱穴ｃから出土した。

SA195 出土遺物（図 40）

土師器甕（5） 甕Ａである。体部外面は黒斑を有し、口縁部はハケメ調整とユビオサエののちヨコナデ調整を施す。口縁端部は玉縁状を呈する。体部内面は丸いオサエ痕と粗いヨコハケが認められる。柱穴ｄから出土した。

掘立柱建物

SB165 出土遺物（図 40）

須恵器蓋（6） 端部のみの残存である。口縁部から内面にかけてロクロナデ調整、天井部にはロクロケズリを施す。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。柱穴ｃから出土した。

SB170 出土遺物（図 40）

須恵器杯蓋（7） 杯Ｂ蓋である。内外面ともロクロナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。柱穴ｃから出土した。

SB185 出土遺物（図 40、図版 23）

土師器杯（8） 杯Ａである。口縁部はヨコナデ調整し、底部はヘラケズリを施す。体部は内外面とも暗文やミガキは確認できない。胎土は橙色で長石とクサリ礫を含む。焼成は不良である。奈良時代前半（平城Ⅰ～Ⅲ）のものと考えられる。柱穴ａから出土した。

須恵器杯（9） 杯Ａである。体部は内外面ともロクロナデ調整を施す。口縁部には重焼の痕跡が認められる。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。柱穴ａから出土した。

SB205 出土遺物（図 40、図版 23）

土師器杯（10） 口縁部細片である。内外面とも劣化のため詳細は不明だが、外面には横方向のヘラミガキ、内面には斜放射状暗文が確認できる。胎土は明赤褐色で、長石と雲母を含む。焼成は不良である。奈良時代中期（平城Ⅲ）のものと考えられる。

土師器壺（11） 壺Ａである。肩部外面はナデ調整、内面は劣化のため不明である。口縁部はヨコナデ調整する。胎土は橙色を呈し、長石・クサリ礫・黒色粒を含む。焼成は不良である。

土師器甕（12） 口縁部細片である。内外面とも劣化のため調整は不明である。胎土は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。

須恵器杯蓋（13・14） いずれも杯Ｂ蓋である。13 は、内外面ともロクロナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。焼成はやや不良である。14 は、内外面ともロクロナデ調整し、天井部にロクロケズリを施す。胎土は灰色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。

須恵器杯（15） 杯Ｂである。内外面ともロクロナデ調整し、底部は回転ヘラ切りののち未調整である。

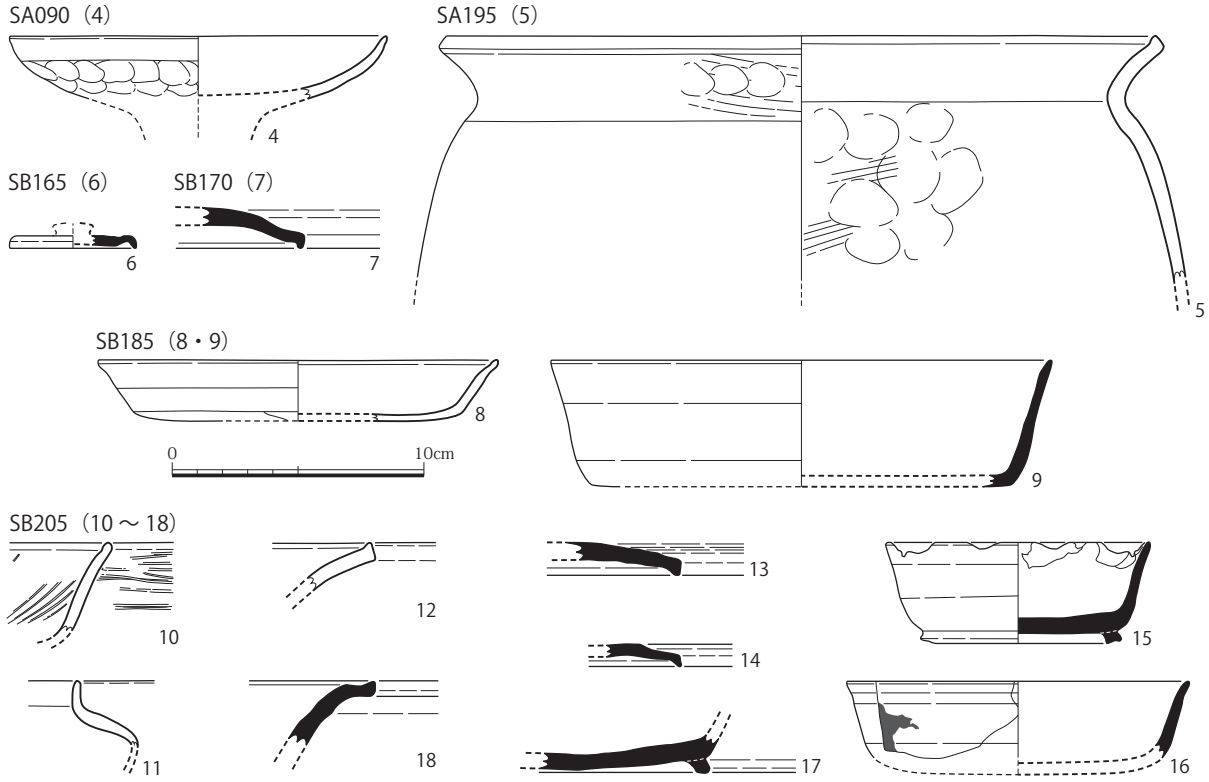


図 40 SA090・195、SB165・170・185・205 出土遺物実測図（S=1/3）

口縁部は内面を中心に打ち欠いている。胎土は灰色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。

須恵器不明（16・17）　16 は、口縁部細片のため器種は不明である。内外面ともロクロナデ調整し、体部外面には墨痕が見られるが、詳細は不明である。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。17 は、底部細片のため器種は不明である。内外面ともロクロナデ調整し、底部はヘラ切り後ナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。

須恵器壺（18）　壺 Q の口縁部細片である。内外面ともロクロナデ調整する。胎土は灰色および灰赤色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。

これらの遺物は 11 が柱穴 a、18 が柱穴 b、10・13 が柱穴 d、15 が柱穴 e、12・14・16・17 が柱穴 g から出土した。

溝

SD010 出土遺物（図 41・42、図版 23 ～ 25）

土師器杯（19 ～ 23）　19 は、杯 A である。口縁部付近はヨコナデ調整し、体部から底部にかけては劣化のため曖昧だがヘラケズリを施しているようである。内面の調整は劣化により不明である。胎土は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。20 ～ 22 は、杯 C である。20 は、内外面とも劣化のため詳細は不明であるが、体部下半にユビオサエを施している。胎土は橙色で、長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。21 は、体部外面から口縁部にかけてヨコナデ調整し、底部はユビオサエののちヘラケズリを施す。内面は劣化により調整は不明である。胎土は浅黄橙色で、石英・長石・クサリ礫を含む。平城Ⅲに相当すると考えられる。22 は、体部外面に工具のあたり痕が確認でき

るものの、内面とともに劣化により調整は不明である。体部は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫・雲母を含む。23 は、杯 E である。内外面とも劣化により不明である。底部にはヘラケズリが認められる。胎土は橙色を呈し、長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。

土師器壺（24） 壺 B である。残存率が悪いものの、体部にはハケメ調整が若干確認でき、底部はユビオサエを施す。口縁部はヨコナデ調整し、体部内面はナデ調整する。胎土は橙色で、長石とクサリ礫を含む。焼成は不良である。

土師器甕（25・26） 25 は、体部外面に粗いタテハケ調整を施し、口縁部は内外面ともヨコナデ調整する。体部内面には多方向のヘラケズリを施しており、煤の付着が見られる。胎土は橙色で、石英・長石・クサリ礫・雲母を含む。焼成は不良である。26 は、甕 A である。内外面とも劣化により不明な部分が多いが、外面にはタテハケ調整を施したのち、屈曲部をヨコナデ調整している。口縁端部は上方につまみ上げる。胎土は浅黄橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は良好である。

須恵器杯蓋（27 ～ 29） いずれも上面にロクロケズリを施し、口縁部付近から内面にかけてロクロナデ調整する。27 は、上面に厚く自然釉が被る。28 は、ツマミの先端を欠損する。長石を含む胎土は白色を呈する。29 は、長石・黒色粒を含む灰白色を呈する胎土で、焼成は良好である。

須恵器杯（30 ～ 37） 30 ～ 32 は、杯 A である。いずれも体部外面から内面にかけてロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。30 は、口縁部の内面を中心に端部を打ち欠いている。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。31 は、体部を大きくラッパ状に開き、端部を丸く収める。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。32 は口縁端部外面に重焼の痕跡を残す。胎土は灰色およびにぶい赤橙色を呈し、長石を含む。33 ～ 36 は、杯 B である。33 は、体部外面から内面にかけてロクロナデ調整し、底部にはロクロケズリを施す。高台の内側に墨痕が見られることから、硯として使用されたと考えられる。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好で、ロクロ回転は右方向である。34 は、体部外面から内面にかけてロクロナデ調整し、底部外面はロクロケズリを施したのち、ナデ調整する。高台は低く幅広で、貼り付け後にヨコナデ調整を行う。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。35 は、体部の内外面はロクロナデ調整する。底部外面はロクロケズリ、内面はナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。36 は、体部外面から内面にかけてロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施したのち、丁寧にナデ消している。高台は貼り付けたのち、ヨコナデ調整する。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。37 は、杯もしくは椀の底部である。体部の内外面にロクロナデ調整を施し、底部内面には不定方向にナデ調整する。底部外面は、ロクロケズリののち、ナデ調整をしており、2 条の線刻が認められる。胎土は灰白色で長石を含む。焼成は良好である。

須恵器椀（38 ～ 40） 38 は、椀 A である。体部から内面にかけてはロクロナデ調整し、底部はヘラ切りののち、ナデ調整を施す。ロクロ回転は右方向である。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。39・40 は、椀 B である。39 は、体部外面から内面にかけてロクロナデ調整する。高台は貼り付けたのち、ヨコナデ調整する。胎土は灰白色で長石と黒色粒を含む。40 は、体部と底部の境界にロクロケズリを施して高台を造り出し、体部は口縁部に向かってやや外反する。内外面はロクロナデ調整、底部はロクロケズリを施す。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好で、ロクロ回転は右方向である。

須恵器平瓶（41・42） 41 は、内外面をロクロナデ調整し、体部と底部の境にはロクロケズリを施す。底部は回転ヘラ切り後、未調整である。把手および口縁部は欠損する。上面には降灰が見られる。胎土

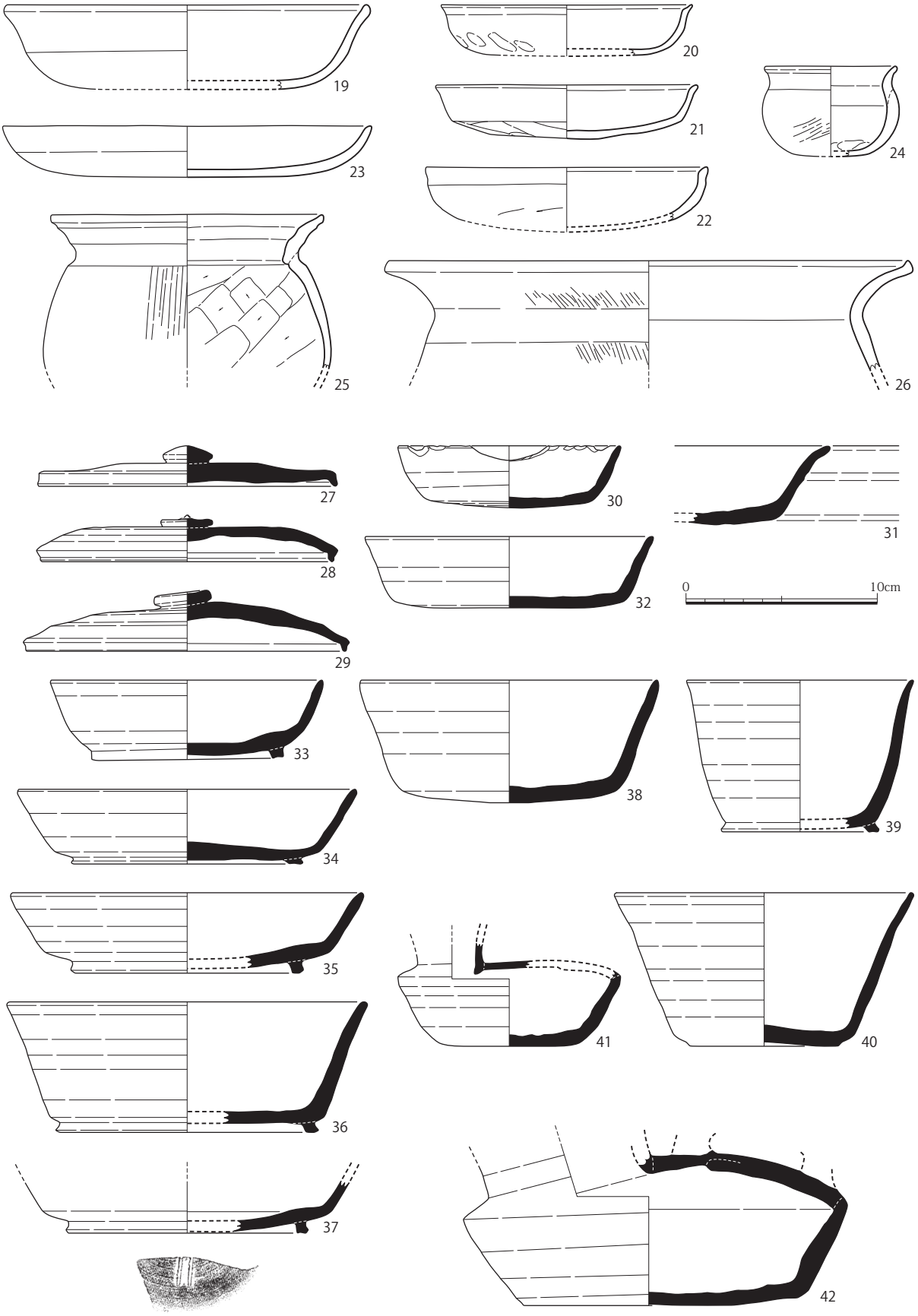


図 41 SD010 出土遺物実測図（1）（S=1/3）

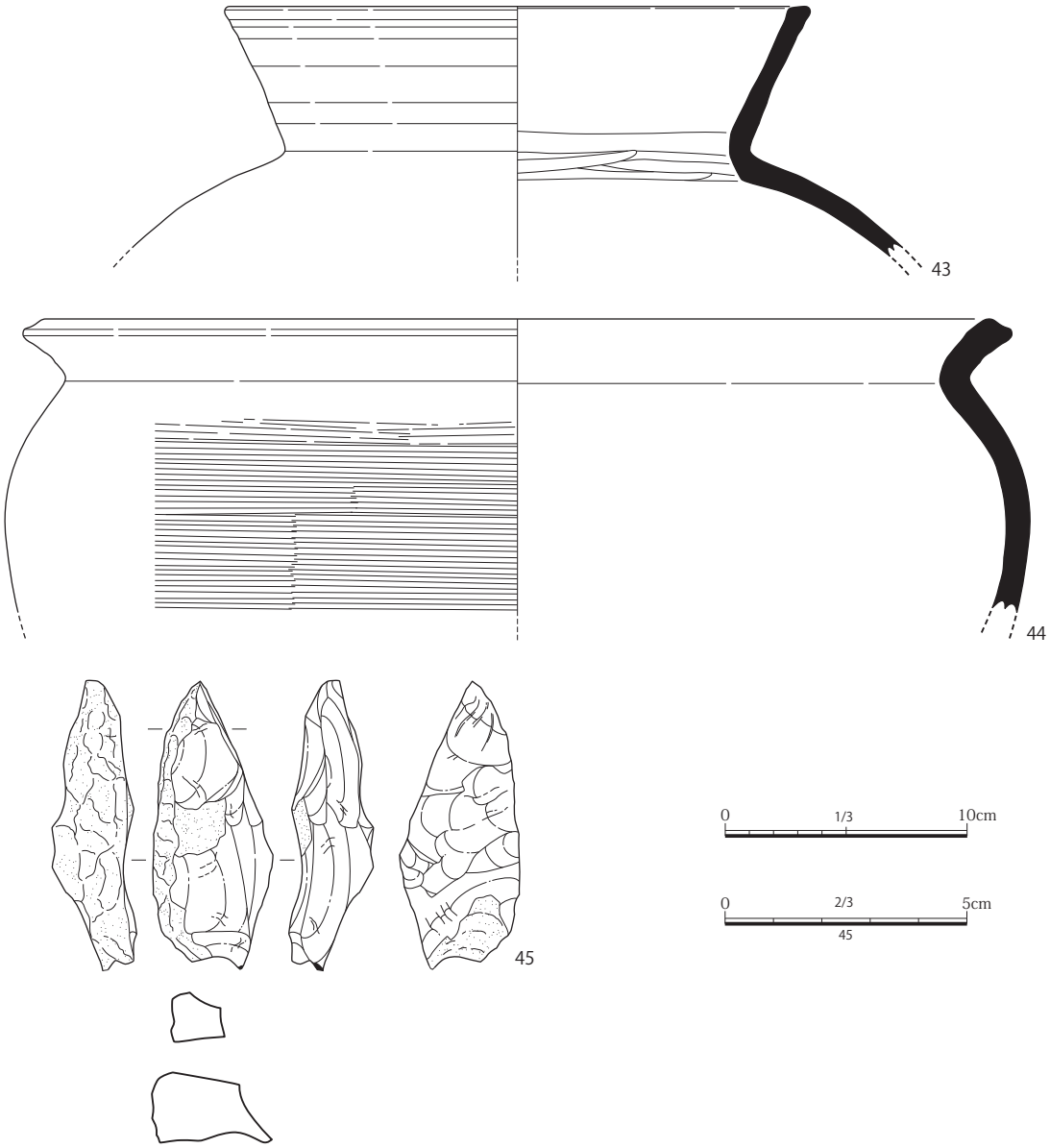


図 42 SD010 出土遺物実測図（2）（S=1/3・2/3）

は灰色およびにぶい赤褐色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。42 は、内外面ともロクロナデ調整し、体部と底部の境にはロクロケズリを施す。底部は回転ヘラ切りののち、ナデ調整する。遺構内の出土位置は各破片でバラバラであり、把手および口縁部も欠損することから、SD010 に投棄する段階にはすでに壊れていたと考えられる。胎土は灰色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。

須恵器甕（43・44） 43 は、甕 A である。内外面ともロクロナデののち、丁寧にナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。尾張産と考えられる。44 は、甕 C である。体部外面には粗いカキメを施し、肩部はそれをナデ消している。頸部から内面にかけてはロクロナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。

石器（45） 剥片である。石材はサヌカイトで、左側面に自然面を有し、上面・右側面・背面に剥離面を形成する。寸法は長さ 6.0cm、幅 2.5cm、厚さ 1.8cm で、重さ 22.2 g を測る。混入遺物と考えられる。

井戸

SE025 出土遺物（図 43、図版 26・27）

瓦塼類（46・47）　いずれも丸瓦である。46 は、凸面に縄目タタキを施したのち、丁寧にナデ消し、凹面には布目痕を残す。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・黒色粒を含む。焼成は不良である。47 は、凸面にヨコナデ調整を施し、凹面には布目痕を施す。胎土は灰白色で、長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。

土師器甕（48）　甕 A もしくは B であるが、細片のため断定できない。体部外面から頸部内面にかけてナデ調整し、体部内面にはユビオサエとナデ調整を施す。ハケメ調整を若干残している。頸部外面は被熱を受けており、体部には煤が付着する。胎土は明赤灰色を呈し、長石・石英を含む。焼成はやや不良である。

須恵器椀（49）　椀 B である。体部外面から内面にかけてロクロナデ調整を施し、底部はロクロケズリののち「×」のヘラ記号を刻む。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色泥粒を含む。焼成は良好である。

土師器高杯（50）　高杯 A である。杯部内面は、劣化により調整は不明であるが、外面にはかすかにヘラミガキを残す。脚部は 7 面に面取りし、その内面にはシボリ痕が確認できる。端部内面はナデ調整を施す。胎土は橙色を呈し、長石とクサリ礫を含む。焼成は良好である。

土師器甕（51）　甕 C である。口縁部付近のみの残存だが、頸部は肥厚し口縁端部を丸く収める。調整は内外面とも劣化により不明である。

須恵器鉢（52）　鉢 A である。体部外面から底部にかけてロクロケズリを施し、口縁部から内面にかけてロクロナデ調整する。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は不良である。

土師器甕（53）　甕 A である。内外面とも劣化により不明な部分が多い。口縁部はユビオサエによる調整ののち、ヨコナデ調整を施しているようである。口縁端部はやや玉縁状を呈する。胎土は橙色で、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。

石製品（54）　凝灰岩製の砥石である。上面・下面とも曲面を呈する。上面には多方向の細かい削痕が全体に見られ、平滑面を形成している。一方、下面は縦方向を中心とする擦痕が見られるが凹凸が激しく、使用方法が上面と下面で異なっている可能性がある。

　これらの遺物は、46・47 が黒褐色シルト（5 ～ 7 層）、48・49 が灰褐色粘土（8 ～ 11 層）、50 ～ 52 が枠内（2 層）から出土した。

SE045 出土遺物（図 44、図版 27・28）

土師器杯（55・56）　55 は、杯 C である。内外面とも劣化が激しいが、底部にユビオサエを残し、内面には一段の放射状暗文が確認できる。胎土は浅黄橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。平城Ⅲのものと考えられる。56 は、杯 E である。内外面とも劣化が激しいが、体部外面にわずかに横方向のミガキを残す。体部内面にはヨコナデ調整、底部にナデ調整を施している。平城Ⅲのものと考えられる。

土師器甕（57）　甕 A である。体部外面にはタテハケ調整を施し、口縁部から体部内面にかけてはヨコナデ調整する。内面には煤の付着が見られる。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・雲母・クサリ礫を含む。焼成は良好である。

須恵器蓋（58）　杯 B 蓋である。外面にはロクロケズリ、口縁部から内面にかけてロクロナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。

須恵器杯（59）　杯 A である。内外面ともロクロナデ調整する。底部は回転ヘラ切り後、未調整である。内面には漆が全体に付着しており、パレットとして使用されたと考えられる。胎土は灰色を呈し、長石

黒褐色シルト（5 ～ 7 層）（46・47）

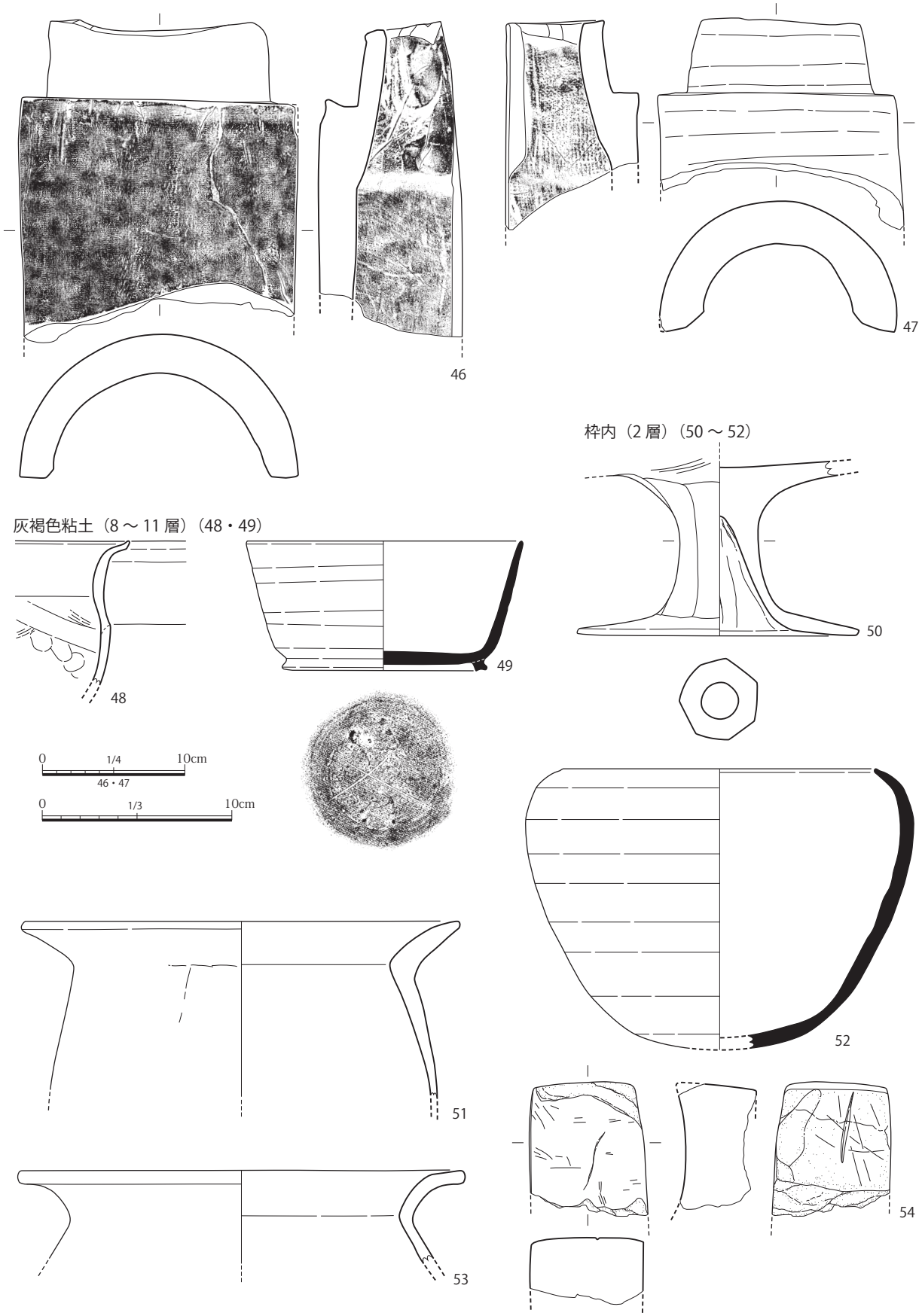


図 43 SE025 出土遺物実測図（S=1/3・1/4）

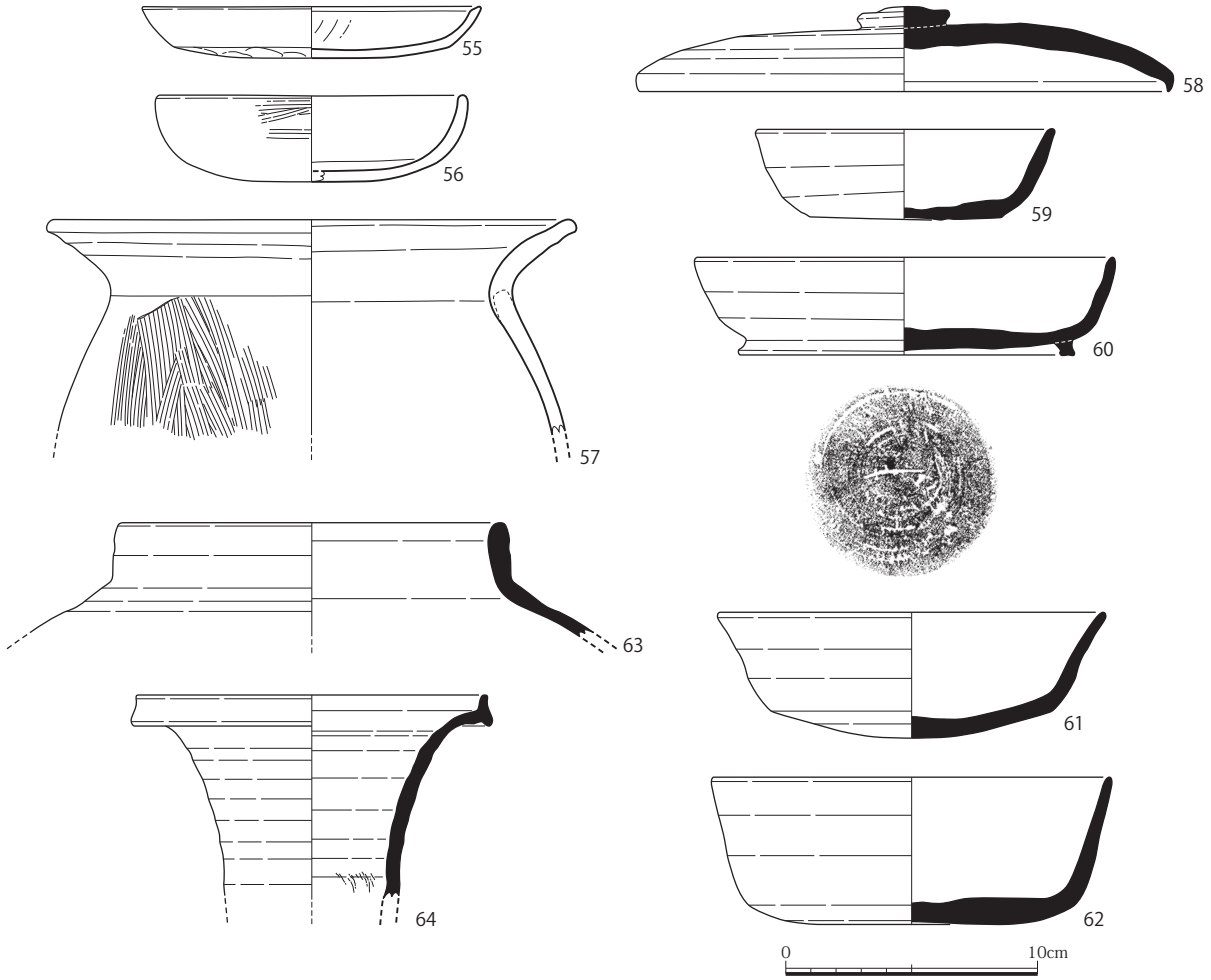


図 44 SE045 出土遺物実測図（S=1/3）

と黒色粒を含む。焼成はやや不良である。

須恵器皿（60）　皿Ｂである。底部はロクロケズリを施し、体部から内面にかけてロクロナデ調整する。底部には「一」のヘラ記号が確認できる。胎土は灰白色を呈し、石英･長石を含む。焼成は良好である。

須恵器椀（61・62）　いずれも椀Ａである。61 は、底部をロクロケズリし、体部から内面にかけてロクロナデ調整する。体部は外傾してラッパ状に開き、口縁端部は丸く収める。胎土は灰白色を呈し、石英・長石を含む。焼成はやや不良である。62 は、底部をロクロケズリし、体部から内面にかけてロクロナデ調整する。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。

須恵器壺（63・64）　63 は、壺Ａである。内外面ともロクロナデ調整する。頸部から口縁部にかけて肥厚し、端部は丸く収める。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。64 は、壺Ｋである。内外面ともロクロナデ調整する。頸部内面にはシボリ痕が残り、口縁部には降灰が見られる。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。

SE110 出土遺物（図 45、図版 28）

土師器皿（65）　皿Ａである。全体をナデ調整し、底部には部分的にユビオサエを残す。内面に暗文は確認できない。胎土は橙色を呈し、石英と長石、クサリ礫、雲母を含む。焼成は良好である。

土師器杯（66）　杯Ａである。体部上半から内面にかけてヨコナデ調整し、体部下半から底部にはユビ

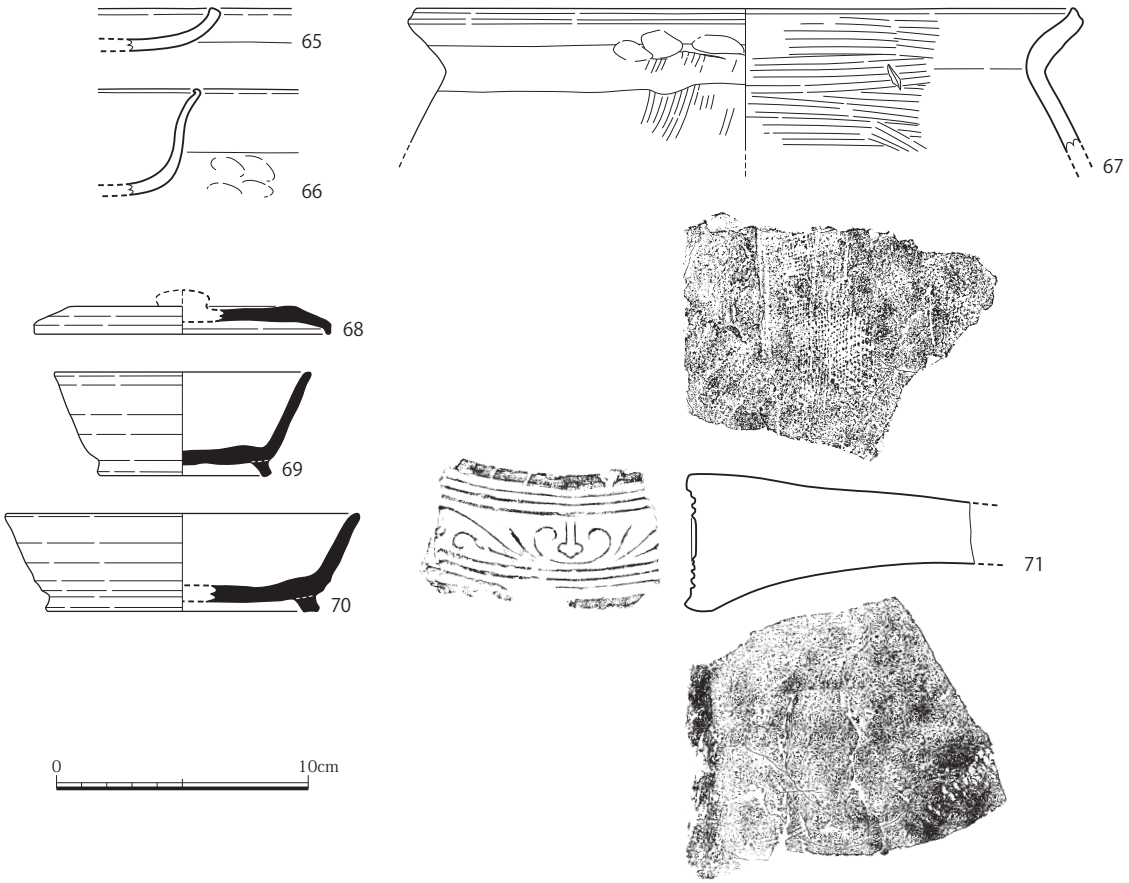


図 45 SE110 出土遺物実測図（S=1/3）

オサエとナデ調整を施す。口縁端部は玉縁状に丸く収め、内面の暗文は確認できない。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・雲母を含む。平城Ⅲのものと考えられる。

土師器甕（67） 甕 A である。体部外面はタテハケ調整の後ナデ消している。口縁部外面はヨコナデ調整し、端部を上方につまみ上げる。内面全体はヨコハケ調整を施す。胎土は浅黄橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は良好である。

須恵器杯蓋（68） 杯 B 蓋である。外面にロクロケズリを施し、口縁部から内面にかけてロクロナデ調整する。口縁部付近には重焼の痕跡が認められる。胎土は灰白色を呈し、微小砂粒を含む。焼成は良好である。

須恵器杯（69・70） いずれも杯 B である。69 は、体部から内面にかけてロクロナデ調整し、底部はヘラ切り後未調整である。高台内側の底部には墨痕が見られるのに加え、平滑になっていることから、転用硯と考えられる。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。70 は、体部から内面にかけてロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。高台内側に墨痕が見られることから、転用硯と考えられる。

瓦塼類（71） 均整唐草文軒平瓦である。凸面にはナデ調整、凹面には若干の布目痕を残すが、横方向のヘラケズリを施す。顎は曲線顎で、外区の二重圏線と唐草文の様相から 6663B 型式と考えられる。胎土は灰色で、石英・長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。

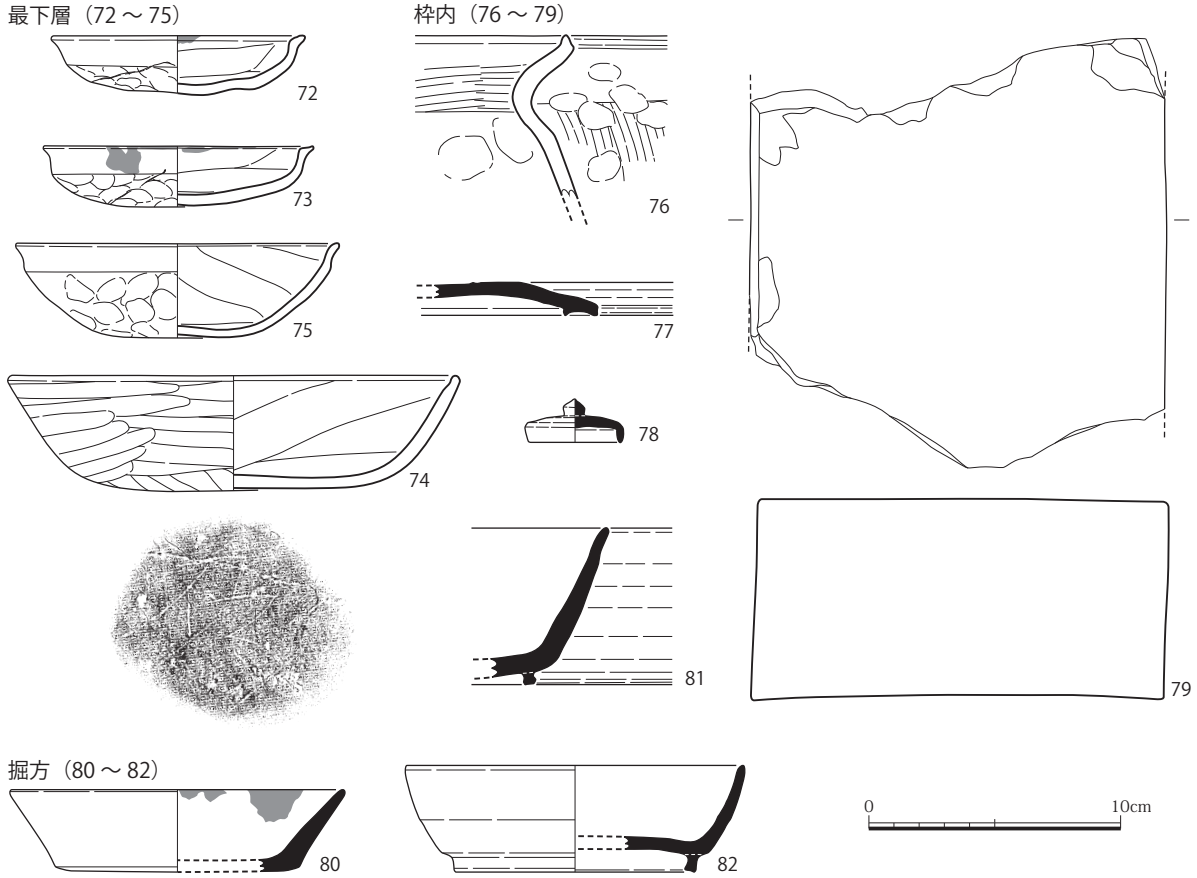


図 46 SE130 出土遺物実測図（S=1/3）

SE130 出土遺物（図 46、図版 28・29）

土師器皿（72・73） いずれも皿 C である。72 は、口縁部はヨコナデ調整し、体部外面はユビオサエを施す。右あがりの粘土紐痕が見られるほか、口縁部に煤の付着が見られる。底部に墨書が見られるが、判読できない。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は良好である。平城Ⅳのものと考えられる。73 は、口縁部はヨコナデ調整し、体部外面は強めのユビオサエを連続的に施す。口縁部には煤の付着が見られる。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・雲母を含む。焼成は良好である。平城Ⅳのものと考えられる。

土師器杯（74） 杯 A である。口縁部はヨコナデ調整し、体部外面には横方向のヘラケズリを施す。底部には一定方向のヘラケズリを施したのち、「石」の字を刻書する。胎土は密で灰白色を呈し、石英・長石・クサリ礫・雲母を含む。焼成は良好である。平城Ⅳのものと考えられる。

土師器椀（75） 椀 C である。口縁部はヨコナデ調整し、体部外面は連続的なユビオサエにより成型する。体部内面は左方向のヨコナデ調整を施す。底部に墨書が見られるが、判読は出来ない。胎土は灰白色を呈し、長石・クサリ礫を含む。

土師器甕（76） 甕 A である。外面には縦方向のハケメ調整ののち、まばらにユビオサエを施す。口縁部内面には横方向にハケメ調整する。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・クサリ礫・黒色粒を含む。焼成は良好である。

須恵器蓋（77・78） 77 は、杯 B 蓋である。ロクロナデ調整し、内側にカエリを持つ。外面には薄く

降灰が見られる。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。78 は、ロクロナデ調整し、外面には全体的に降灰が見られる。胎土は密で明褐灰色を呈し、長石・クサリ礫・黒色粒を含む。焼成は良好である。

瓦塼類（79） 塼である。幅 16.5cm、長さ 16.9cm 以上、厚さ 8.0cm を測る。表面は磨滅しており、成形時の痕跡は認められない。胎土は暗灰色を呈し、長石・石英・チャートを含む。焼成は良好である。

須恵器杯（80 ～ 82） 80 は、杯 A である。体部から内面にかけてロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。内面の一部に漆の付着が見られることから、パレットとして使用されたものと考えられる。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色泥粒を含む。焼成は良好である。81・82 は、杯 B である。81 は、体部から内面にかけてロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。胎土は灰白色で、長石を含む。焼成は良好である。82 は、体部から内面にかけてロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。体部はやや内湾し、口縁端部を丸く収める。胎土は灰色を呈し、長石・黒色泥粒を含む。焼成は良好である。

これらの遺物は、72 ～ 75 が最下層、76 ～ 79 が枠内、80 ～ 82 が掘方から出土した。

SE150 出土遺物（図 47、図版 29・30）

土師器杯（83） 杯 A である。ヨコナデ調整したのち、ユビオサエと浅い沈線を外面に施す。体部外面には横方向のミガキ、内面には螺旋状のミガキと正方射状のミガキが認められる。胎土は灰白色を呈し、密だが微小の砂粒を含む。焼成は良好である。奈良時代前期（平城Ⅰないし Ⅱ）のものと考えられる。

土師器高杯（84） 高杯 A である。脚柱部のみが残存する。脚部端部は浅い沈線を施しつつヨコナデ調整する。脚部外面には縦方向に 15 面に面取りし、内面は縦方向のナデ調整が認められる。杯部と脚部の接合部分については、外面には横方向にミガキ、内面にはヨコナデ調整を施している。脚部から見た杯部分に無数の爪痕を残すが、これはヨコナデ調整の際に付されたものと考えられる。杯部内面には螺旋状暗文を施す。胎土は灰白色を呈し、密だが長石・チャート・クサリ礫を含む。焼成は良好である。奈良時代前期（平城Ⅰないし Ⅱ）のものと考えられる。

須恵器杯（85・86） いずれも杯 A である。底部外面はロクロケズリを施し、体部は内外面ともロクロナデ調整ののち、横方向にミガキ調整する。体部はやや外反し、口縁端部は丸く収める。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。86 は、底部は右回転のロクロケズリを施し、体部から内面にかけてロクロナデ調整する。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。

須恵器壺（87） 壺 K である。頸部以上と肩部から体部下半にかけての一部を打ち欠いている。底部から体部にかけてはロクロケズリののち、ナデ調整を加えるが、部分的にロクロケズリを残す。肩部には降灰が見られる。内部全面と破断面に漆が付着していることから、漆壺として使用され、肩部から体部下半までの破断は漆を取り出す際に形成されたものと考えられる。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。

土師器甕（88） 甕 A である。体部外面にはヨコハケ調整ののち、タテハケ調整を施し、口縁部にはヨコナデ調整と一部ユビオサエを行う。口縁部内面には粗いヨコハケ調整を行い、体部内面はオサエ痕を残しつつ縦方向のナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・チャートを含む。焼成は良好で、体部外面は全体的に煤が付着する。

須恵器杯（89） 杯 B である。体部はロクロナデ調整を施し、底部はヘラ切り後未調整だが高台を貼り付けたのち、ヨコナデ調整する。胎土は灰色を呈し、長石を含む。焼成は良好である。

木製品（90） 曲物である。方形井戸枠の下段に据えられており、浄化槽の機能を有していたと思われる。本体は内面に左右斜方向と直線方向の罫引きをして曲げ、樹皮を二列に編み込んで接続したうえで、

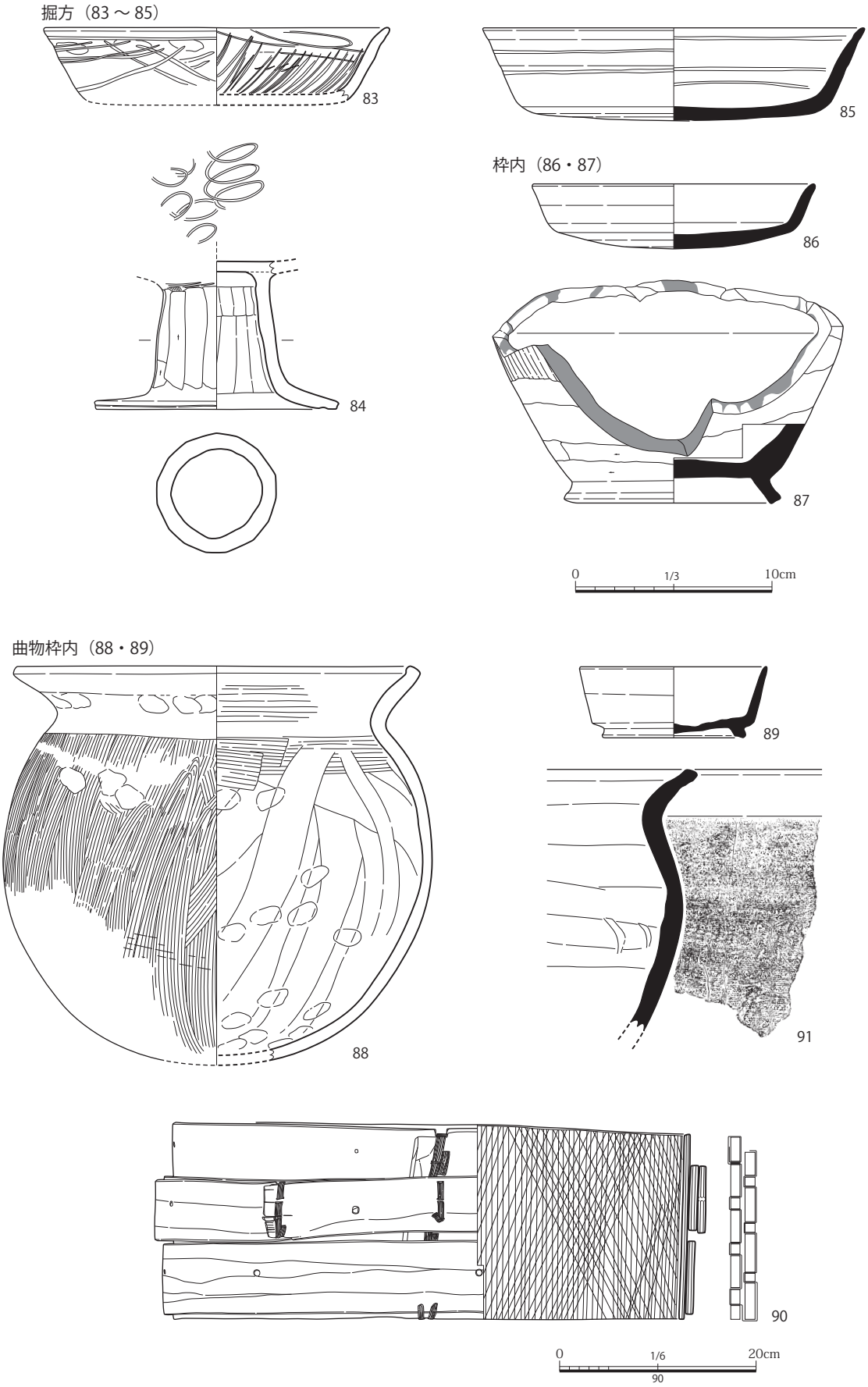


図 47 SE150 出土遺物実測図（S=1/3・1/6）

2 条の箍で固定している。それぞれの箍の接続は同じ樹皮を一列に編み込み、本体との固定は木釘を用いる。上段の箍は固定が外れてずれ落ちているが、これは木釘が本体を貫通していないことに起因すると思われる。木取は本体・箍ともに板目取りで、寸法は長さ 52.4cm、幅 52.0cm、厚さ 20.0cm である。

須恵器鉢（91） 鉢 D である。口縁部はややつまみ出して丸く収めるが、大部分が剥離している。体部外面には格子タタキを肩部まで施すが、全体を丁寧にナデ消している。内面のあて具痕も同様にナデ消している。胎土は灰色を呈し、長石・石英・黒色粒を含む。

これらの遺物は、83 ～ 85 が掘方、86・87 が枠内、88・89 が曲物枠内から出土した。

SE153 出土遺物（図 48、図版 30・31）

土師器皿（92） 皿 A である。体部上半から口縁端部にかけてはヨコナデ調整、体部下半から底部にかけてヘラケズリを施す。内面には正放射状暗文を施しており、部分的に斜放射状暗文も見えることから、二段構成であったと考えられる。胎土は灰白色を呈し、微小砂粒を含む。焼成は良好である。

須恵器壺（93） 壺 C である。内外面ともロクロナデ調整し、口縁部はやや内傾する。肩部には降灰が見られる。胎土は灰色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。

木製品（94・95） 94 は、斎串である。7 層から出土した。上端部は圭頭状に加工し、上部付近には左右に切り込みを入れる。全長は先端を欠損するため不明だが、幅 2.5cm、厚さ 0.2cm を測る。木取は柾目取りである。95 は、井戸枠横桟である。西面に用いられていた部材で、残りが悪いものの縦板に接する出枘部分に「六」の墨書が認められる。木取は芯去材であり、寸法は長さ 79.1cm、幅 5.5cm、厚さ 6.1cm を測る。

土師器甕（96） 甕 A である。体部外面はタテハケ調整と部分的にユビオサエを施すが、劣化のため詳細は不明である。口縁部は外面から端部にかけてヨコナデ調整し、内面には粗いヨコハケ調整を施す。体部内面にはユビオサエとナデ調整を行う。胎土は淡橙色を呈し、石英・長石・チャートを含む。焼成は不良である。

須恵器皿（97） 皿 B である。底部はロクロケズリを施し、一部はナデ調整する。体部から内面にかけてはロクロナデ調整を施す。灰白色を呈し、微小砂粒を含む。焼成はやや不良である。

須恵器壺（98） 壺 A である。体部下半から底部にかけてロクロケズリを施す。体部上半および内面はロクロナデ調整を行い、底部内面はユビオサエおよびナデ調整する。胎土は灰色を呈し、長石を含む焼成は良好である。

これらの遺物は、92 ～ 94 が枠内下層から出土した。

SE413 出土遺物（図 49、図版 31・32）

土師器杯（99・100） 99 は、杯 A である。内外面とも磨滅しており、調整は不明である。口縁端部は玉縁状を呈する。胎土は橙色で、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。100 は、杯 B である。内外面とも磨滅しており、調整は不明瞭である。胎土は橙色で、長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。

須恵器杯（101 ～ 104） 101 ～ 103 は、杯 A である。101 は、内外面ともロクロナデ調整を施し、底部は回転ヘラ切りののち、未調整である。底部には墨痕が見られ、硯として使用していたものと考えられる。102 は、内外面ともロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。口縁部外面に部分的に重焼の痕跡が認められる。ロクロ回転は右方向である。103 は、内外面ともロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。ロクロ回転は右方向である。104 は、杯 B である。体部は内外面ともロクロナデ調整し、底部外面にはロクロケズリ、内面には不定方向のナデ調整を施すほか、不定方向に「乎」

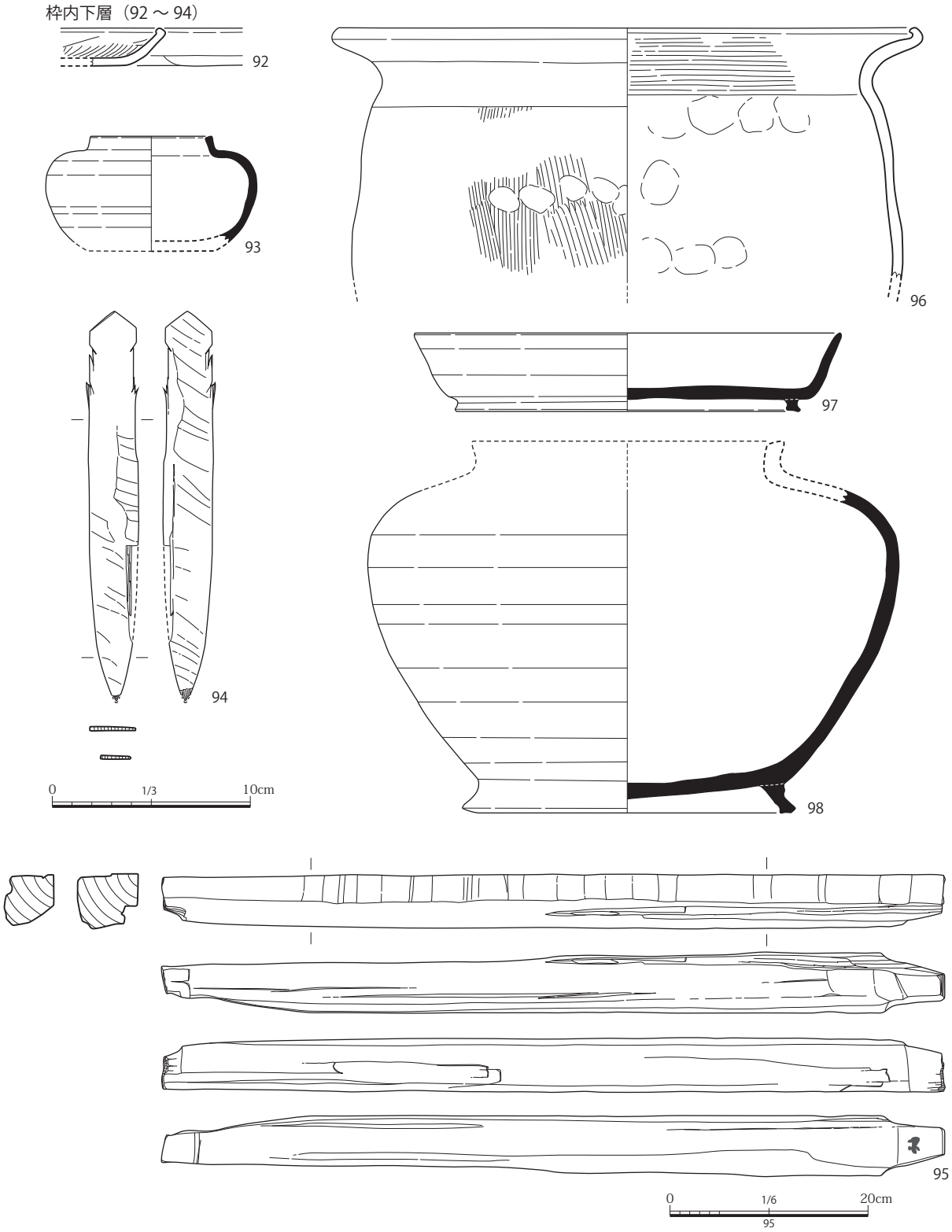


図 48 SE153 出土遺物実測図（S=1/3・1/6）

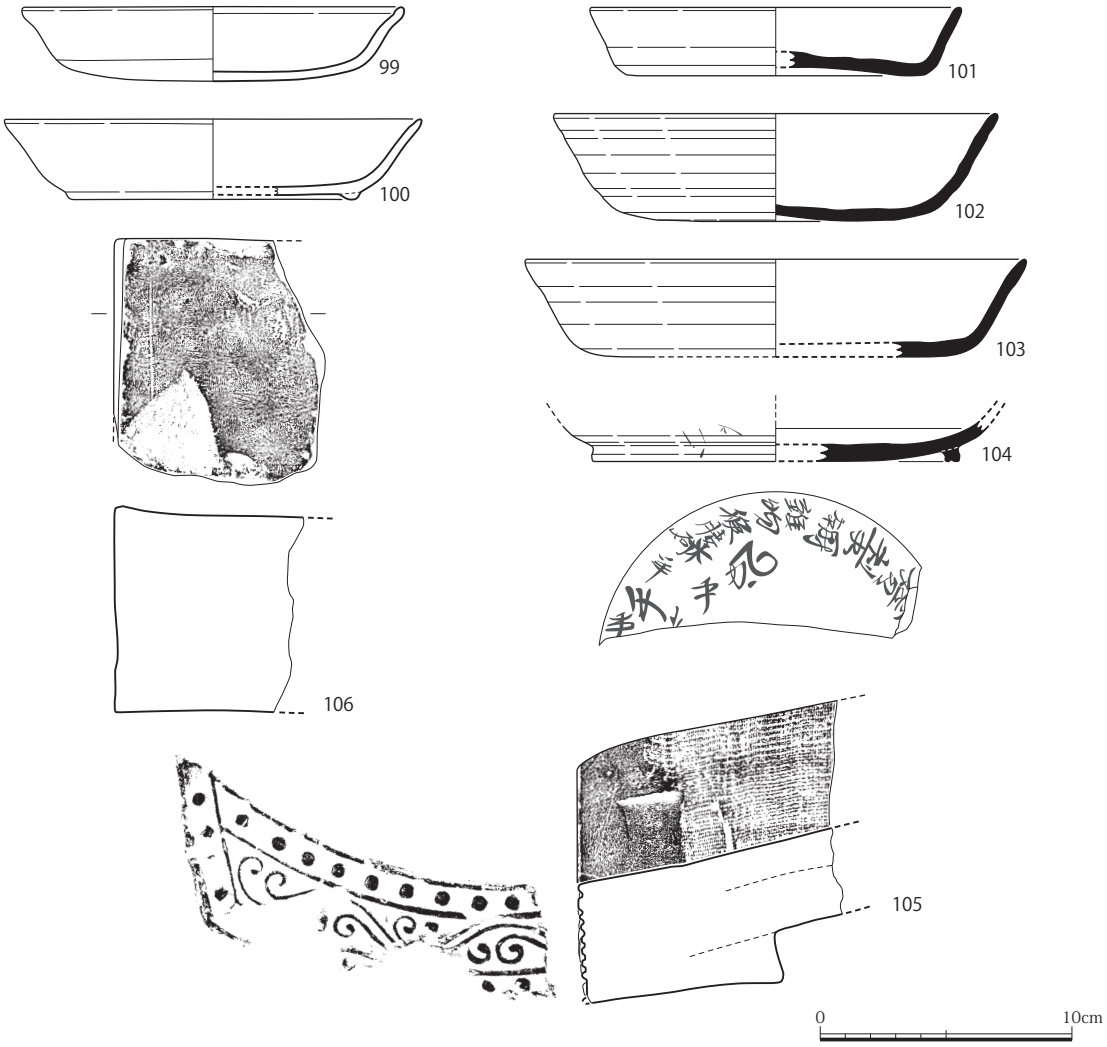


図 49 SE413 出土遺物実測図（S=1/3）

などの文字が墨書されている。これらは、文章としての意味が読み取れないことから修書であると考えられる。体部も下端のみの残存であるが墨書があるため、全体的に何らかの墨書がなされていた可能性がある。胎土は灰色で、石英・長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。

瓦塼類（105・106） 105 は、偏向唐草文軒平瓦である。凸面にはタテナデ調整、顎部との接合部分にヨコナデ調整を施す。凹面には布目痕を残す。顎部凸面にはヘラケズリを施す。瓦当文様の様相から、6643Aa 型式であると考えられる。106 は、塼である。細片であるため長さや幅は不明であるが、厚さは 8.2cm を測り、全体をナデ調整する。

土坑

SK050 出土遺物（図 50、図版 32）

土師器皿（107） 皿 A である。内外面ともヨコナデ調整を施す。劣化により曖昧ではあるが、内面には粗い正放射状暗文、体部外面下半から底部にかけてユビオサエが認められる。胎土は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫・雲母を含む。焼成は不良である。奈良時代前半（平城Ⅲか？）のものと考えられる。

須恵器杯（108） 杯 B である。内外面ともロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。ロクロの

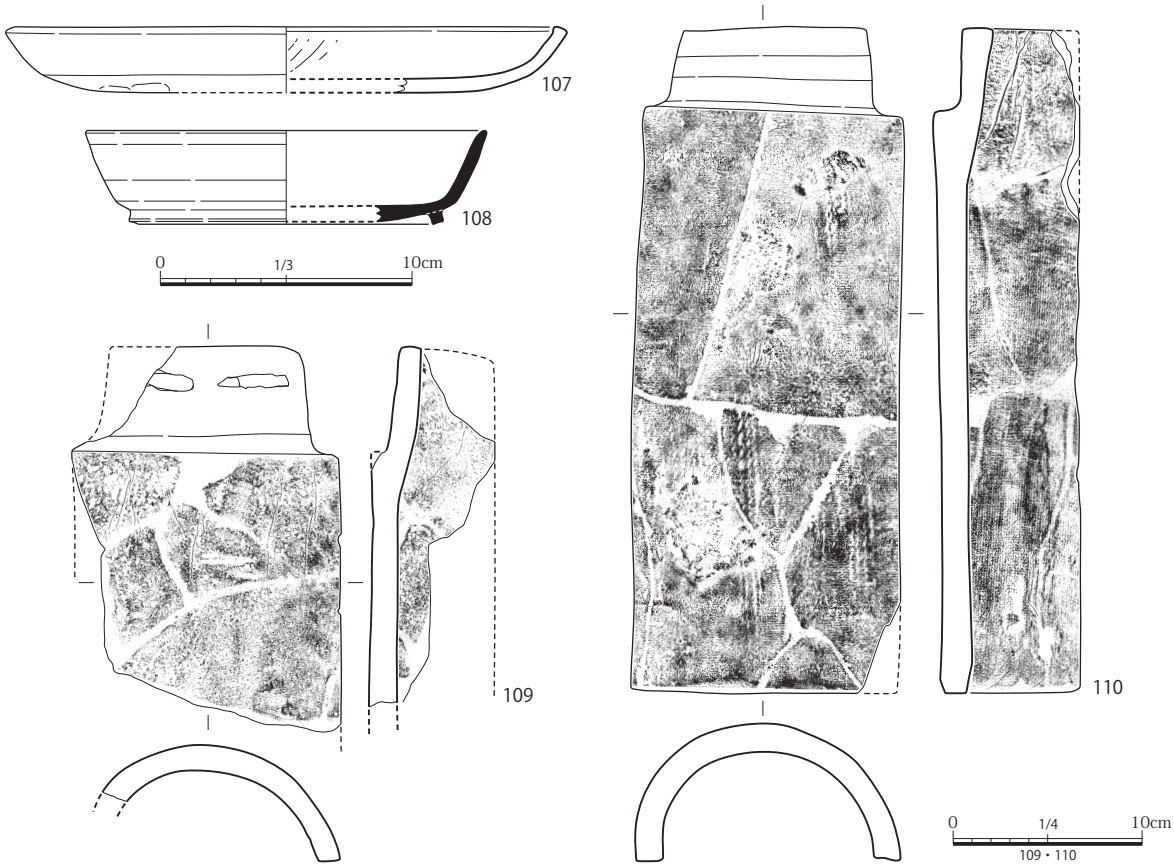


図 50 SK050 出土遺物実測図（S=1/3・1/4）

回転は右方向である。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色泥粒を含む。焼成は良好である。

瓦塼類（109・110） いずれも丸瓦である。109 は、凸面に若干縄タタキの痕跡を残すが、磨滅により詳細は不明である。凹面には布目痕を残す。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成はやや不良である。110 は、凸面に縄タタキを施したのちナデ消し、凹面には玉縁部まで布目痕を残す。玉縁凸面はヨコナデ調整する。長さ 35.4cm、幅 14.5cm、高さ 7.8cm を測り、本調査では、唯一全体の大きさが分かる瓦である。

SK060 出土遺物（図 51、図版 33）

土師器蓋（111・112） いずれも杯もしくは皿Ｂの蓋である。ともに劣化が著しく、内外面の調整は不明である。

土師器杯（113） 杯Ｅである。体部は横方向のミガキ調整、底部はヘラケズリを施す。内面はヨコナデ調整するが、暗文は確認できない。胎土は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。平城Ⅲのものと考えられる。

土師器甕（114） 甕Ａである。体部外面は劣化により調整は不明である。口縁部はヨコナデ調整し、上方にややつまみ上げる。体部内面は連続的なユビオサエを施す。胎土は赤橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。

須恵器杯（115） 杯Ｂである。内外面ともロクロナデ調整し、底部はロクロケズリののち、ナデ調整を施す。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。

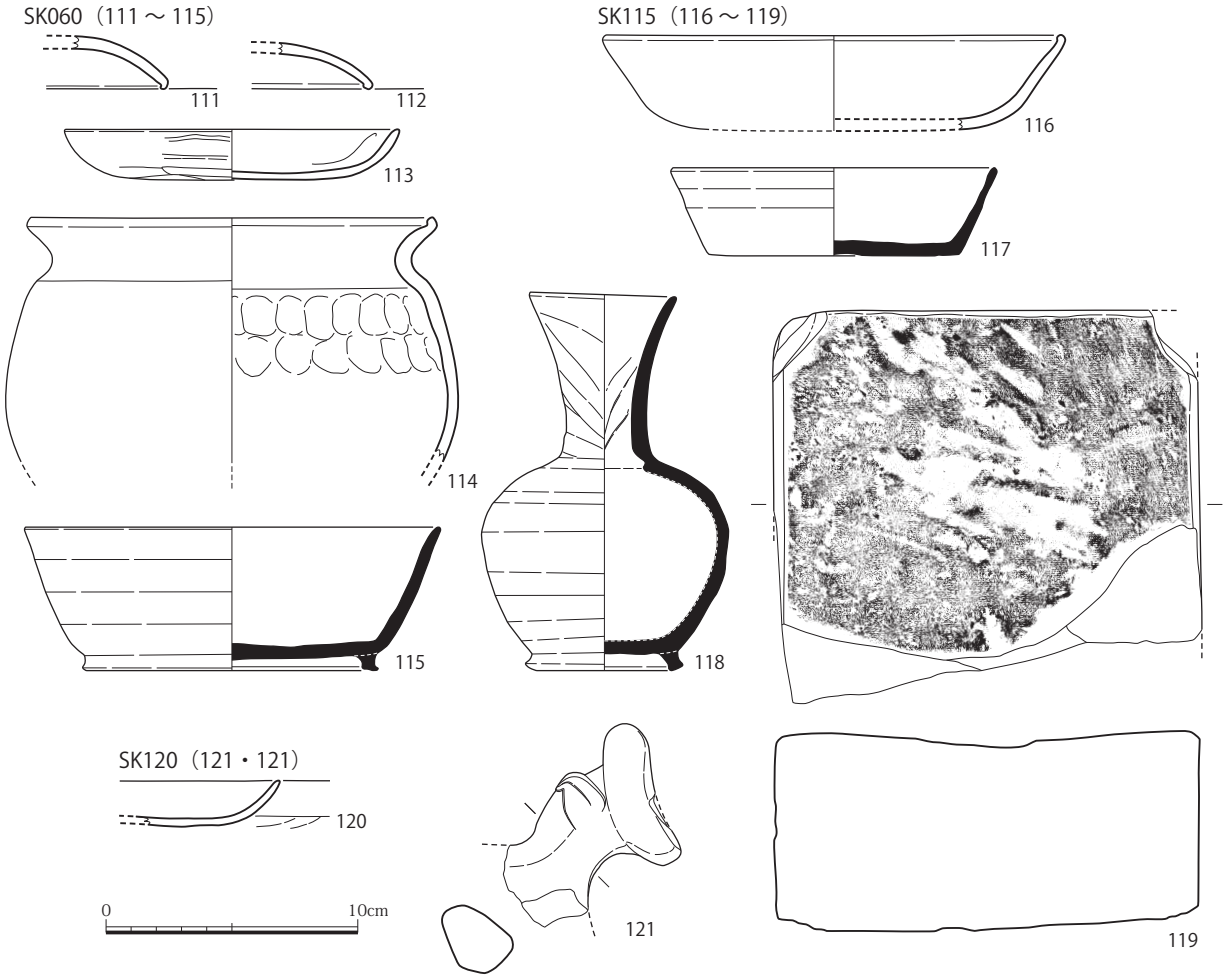


図 51 SK060・115・120 出土遺物実測図（S=1/3）

SK115 出土遺物（図 51、図版 33）

土師器杯（116） 杯 A である。内外面とも劣化により調整は不明である。胎土は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。

須恵器杯（117） 杯 A である。内外面ともロクロナデ調整し、底部はロクロケズリを施す。底部には墨痕が見られるが、底部は平滑であり、文字としても読み取れないため硯や墨書の可能性は低いと思われる。胎土は灰白色を呈し、長石と黒色粒を含む。焼成は良好である。

須恵器壺（118） 壺 L である。口縁部から体部上半はロクロナデ調整し、体部下半にはロクロケズリを施す。底部は回転ヘラ切りののち、ナデ調整する。肩部には降灰が見られる。胎土は灰白色を呈し、石英・長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。

瓦塼類（119） 塼である。全体的に磨滅が及んでおり、調整は不明である。上面には、何らかの使用痕があり、中央部分に凹みが認められる。寸法は欠損しているため全長は不明であるが、幅 17.0cm、厚さ 8.0cm を測る。

SK120 出土遺物（図 51、図版 33）

土師器皿（120） 杯もしくは皿であるが、細片のため特定できない。体部外面はヨコナデ調整し、底部にはユビオサエを施す。内面は劣化のため調整は不明である。胎土は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫・チャートを含む。焼成は不良である。

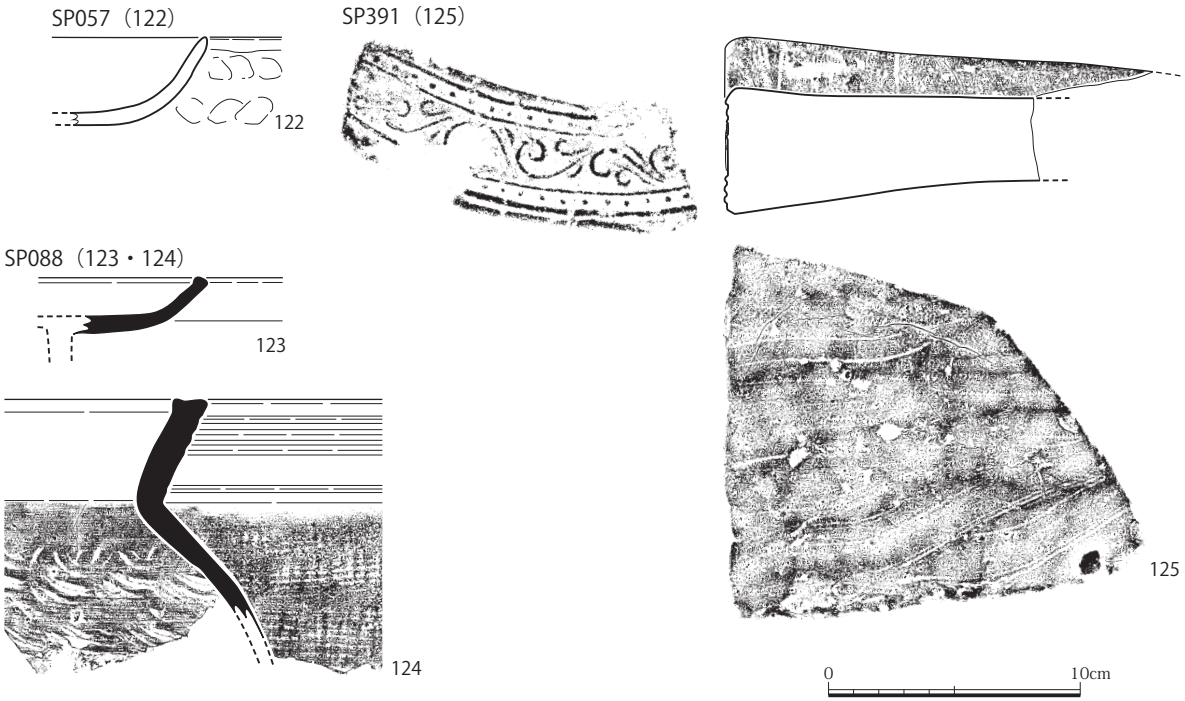


図 52 SP057・088・391 出土遺物実測図（S=1/3）

土製品（121）　土馬である。頭部半分、体部、前肢先端を欠損する。全体をナデ調整し、頸部には装飾と思われる表現が見えるが、詳細は不明である。頸部の断面形態は楕円形を呈する。胎土は橙色で、石英・長石・雲母・クサリ礫を含む。

柱穴

SP057 出土遺物（図 52）

土師器杯（122）　杯 C である。体部外面から底部にかけてユビオサエを施す。内面はナデ調整し、暗文は認められない。胎土は浅黄橙色を呈し、長石・クサリ礫を含む。焼成はやや不良である。平城Ⅲのものと考えられる。

SP088 出土遺物（図 52）

須恵器高杯（123）　杯部のみの残存である。内外面ともロクロナデ調整を施す。底部には脚部を貼り付ける際のユビオサエの痕跡を若干残す。胎土は灰白色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。

須恵器甕（124）　体部外面は平行タタキ調整ののち、カキメを施す。体部内面には青海波状のあて具痕を残す。胎土は灰色を呈し、石英・長石を含む。焼成は良好である。

SP391 出土遺物（図 52、図版 33）

瓦塼類（125）　均整唐草文軒平瓦である。凸面には縦方向のヘラケズリを施し、凹面には布目痕を残す。瓦当上縁と下縁には面取りを施す。顎は直線顎であり、瓦当文様の様相から 6721Ga 型式と考えられる。ただし、6721Ga 型式には脇区があるが、127 のそれは脇区の界線から切れており、不明である。笵が瓦当面に収まっていない様子が伺える。

SP452 出土遺物（図 53）

須恵器壺（126）　壺 K である。口縁部の細片である。内外面ともロクロナデ調整を施す。外面には一

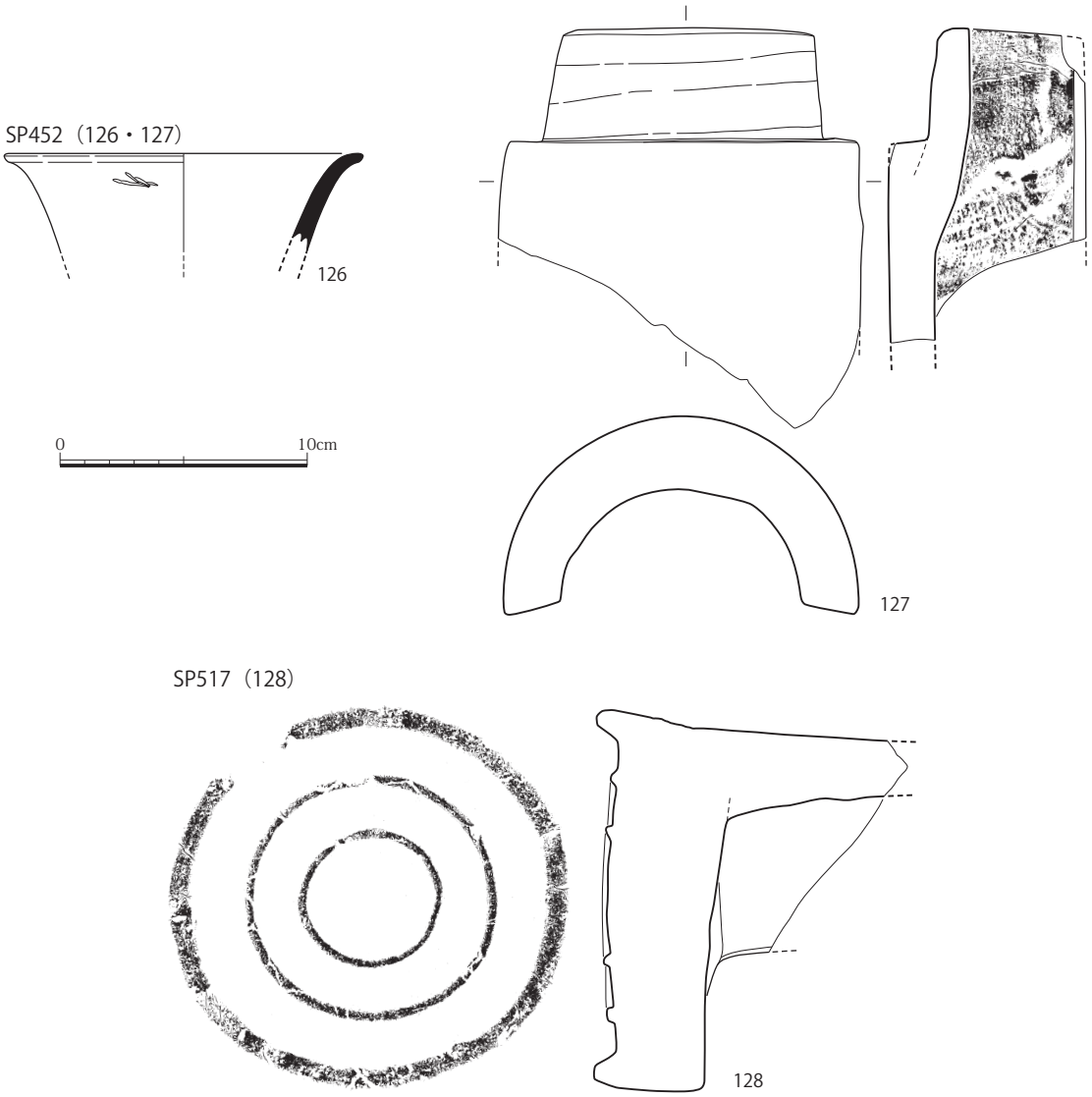


図 53 SP452・517 出土遺物実測図（S=1/3）

部工具のあたり痕が認められる。内面には降灰が見られる。胎土は灰白色で、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。

瓦塼類（127） 丸瓦である。凸面は全体的にヨコナデ調整し、凹面には布目痕が残る。凹面の丸瓦部と玉縁の境には紐のような圧痕が認められる。胎土は灰白色で、石英・長石・黒色粒を含む。焼成は不良である。

SP517 出土遺物（図 53、図版 33）

瓦塼類（128） 重圏文軒丸瓦である。凸面、凹面ともにヘラケズリを施し、瓦当上縁と下縁にはナデ調整する。部分的にユビオサエや工具のあたり痕が認められる。瓦当文様から 6010A 型式に相当すると考えられるが、128 には中心点が認められない。しかし、瓦当面のおおよそ中心点のあたりに不自然な凹みが観察できるため、製作時には存在していたと推定される。この凹みは焼成後に形成されたものではないことから、何らかの理由で焼成前に取り除かれた、もしくは剥離した可能性がある。胎土は灰白色を呈し、石英と長石を含む。焼成は良好である。

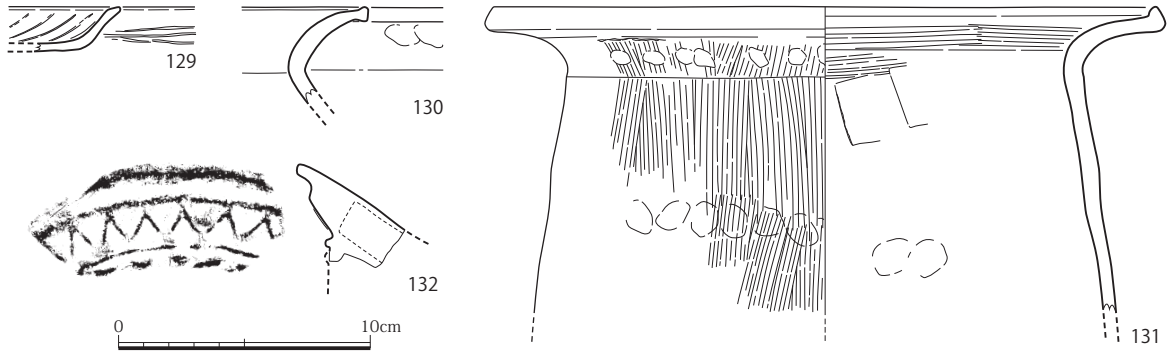


図 54 SX040 出土遺物実測図（S=1/3）

不明遺構

SX040 出土遺物（図 54、図版 34）

土師器皿または杯（129）　皿 A もしくは杯 C に分類できる。体部外面には横方向のミガキ調整、内面には粗い放射状暗文を施し、底部はヘラケズリで調整する。全面に被熱を受ける。胎土は橙色で、石英・長石・クサリ礫を含む。平城Ⅲのものと考えられる。

土師器甕（130・131）　130 は、甕 A の口縁部細片である。口縁部外面にはユビオサエとヨコナデ調整を施すが、内面は劣化のため詳細は不明である。胎土は橙色で、石英・長石・クサリ礫・チャートを含む。焼成は不良である。131 は、体部外面にユビオサエののち、タテハケ調整を施す。クビレ部分は、タテハケ調整をナデ消し、さらにユビオサエを施している。口縁部内面にはヨコハケ調整、体部内面は板状工具を用いて丁寧にナデ調整する。胎土は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成は不良である。

瓦塼類（132）　軒丸瓦である。外区のみの残存である。凸面にはナデ調整を施し、丸瓦部との接合部分にはキザミ目が確認できる。外区外縁の鋸歯文部分のみの残存状況であるが、横断面の形態も踏まえて 6281Bb 型式と推定する。胎土は灰色を呈し、石英・長石を含む。焼成は不良である。

SX155 出土遺物（図 55、図版 34）

須恵器高杯（133）　2 層から出土した TK47 型式に帰属すると考えられる有蓋高杯である。杯部と脚部の一部が残存する。杯部は下半にロクロケズリ調整し、受部下方に櫛描波状文を施す。口縁端部は欠損するが、受部から内面にかけてロクロナデ調整する。脚部には、三方向の透かしを設け、外面にカキメを施す。胎土は灰色を呈し、長石・黒色粒を含む。焼成は良好である。混入遺物と考えられる。

土師器（134）　皿 C である。内外面とも劣化のため調整は不明である。胎土は橙色を呈し、石英・長石・クサリ礫を含む。

須恵器甕（135・136）　135 は、甕 B である。肩部から体部にかけて平行タタキ調整のち、カキメを施す。頸部から口縁部にかけてはロクロナデ調整し、内面には降灰が見られる。体部内面はあて具痕をナデ消している。胎土は灰色を呈し、長石・黒色粒を含む。136 は、甕 A である。肩部外面は擬格子タタキ調整ののち、カキメを施す。頸部から口縁部にかけてはロクロナデ調整し、端部は肥厚させる。肩部内面は青海波状のあて具痕を残す。胎土は灰白色を呈し、長石を含む。

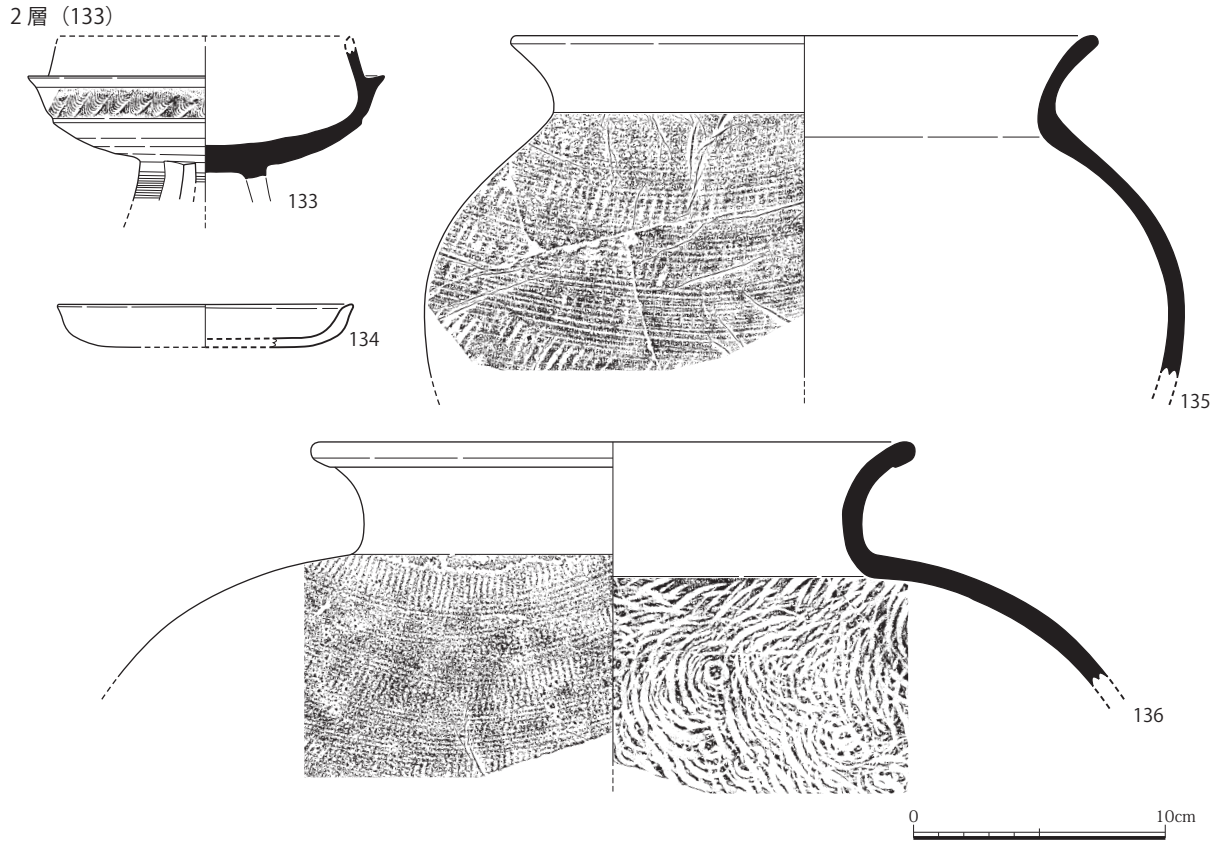


図 55 SX155 出土遺物実測図（S=1/3）

表土出土遺物（図 56、図版 34）

土製品（137・138） 137 は、土馬である。体部と四肢は欠損する。全体をナデ調整し、ヘラ状工具で耳、竹管状工具で目を表現する。頸部の断面は扁平な楕円形を呈する。胎土は橙色で、石英・長石・クサリ礫を含む。焼成はやや不良である。138 は、土錘である。全体をタテナデ調整し、両端部はユビオサエを施す。胎土は浅黄橙色で、石英と長石を含む。焼成は良好である。

瓦塼類（139） 軒丸瓦である。外区の一部のみの残存である。外区外縁には線鋸歯文、外区内縁に珠文を施すが、内区を欠損するため型式は不明である。胎土は灰白色で、石英・長石・クサリ礫・チャートを含む。焼成はやや不良である。

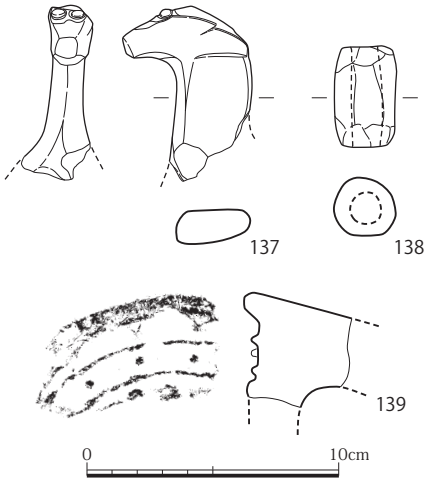


図 56 表土出土遺物実測図（S=1/3）

《引用・参考文献》
山本忠尚　1983「右京一条二坊六・十一坪の調査　第 142 次」（『昭和 57 年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』、奈良国立文化財研究所）

第 4 章　調査のまとめ

第 1 節　条坊遺構について

（1）一条条間南小路の復元

今回の発掘調査では、一条条間南小路北側溝と推定される SD105 が検出された。奈良市が実施した西大寺旧境内の調査（以下、SD 第 24 次調査）では一条条間南小路南側溝と考えられる溝が検出されていることから、道路幅の推定が可能となった。ここでまず、条坊道路の幅と位置について検討する。

SD105 の溝心の座標値は、X=-144,996.16、Y=-19,666.68 であった。SD 第 24 次調査で検出された SD01 の座標値は X=-145,006.1、Y=-19,988.0 であり、平城京条坊の振れを踏まえると [1)]、道路の幅員は 9.1m（25 大尺）となり、道路心の座標値は X=-145,000.708、Y=-19,666.802 に推測できる。多くの小路の道路幅（20 小尺＝ 5.91m、もしくは 20 大尺＝ 7.092m）としてはやや幅員が広く、かつ推定条坊道路心からは北に約 6m ずれている。一条条間南小路に関わる両側の側溝が同時に検出されていないため、確実な位置や幅員については今後の調査成果に委ねることになるが、SD 第 24 次調査の SD01 が調査区の北端で検出され、それ以南では条坊側溝に該当するような遺構が検出されていないことを鑑みれば、一条条間南小路が条坊推定計画線より北に位置するのは妥当と考える。

周辺の調査では、市第 207 次調査において一条条間路南側溝と西二坊坊間路西小路が確認されているほか、奈文研第 142 次調査において西二坊坊間路が検出されており、今回の発見によって右京一条二坊十一坪の範囲をおおよそ掴めることが可能になった。

（2）右京一条二坊九坪～十六坪の規格

この一条条間南小路の推定計画線とのズレについては、周辺の条坊と関連付けて検討する必要がある。右京北辺坊を含む一帯の条坊については、これまでの発掘調査の成果から①一条北大路は遺存地割と整合し、②西二坊坊間路と一条南大路は条坊推定計画線と合致することが分かっている。しかし、南北方向では③一条条間路から一条北大路までは寸詰まりになり、④一条南大路から一条条間路までは間延びする。そして、東西方向では⑤西二坊坊間路と西二坊坊間西小路が条坊推定計画線より西に施工されていることから、東西方向にも間延びしていることが明らかになっている。

③については、これまでの発掘調査によって、一条北大路と一条条間北小路間の距離で約 127.6m、一条条間北小路と一条条間路間の距離で約 130.8m という条坊規格が明らかにされている（元文研 2005）。

④については、今回の発掘調査の成果で推定した一条条間南小路の道路心の座標と佐伯門前の道路交差点推定心座標（X=-145,140.6597）、一条条間路と西二坊坊間西小路の交差点付近の座標（X=-144,863.316）から算出できる。すなわち、一条条間路と一条条間南小路間の南北距離で約 137.0m、一条条間南小路と一条南大路間の南北距離で約 139.2m となり、坪一辺の規格が 375 大尺（133.05m）であることからすれば、4 ～ 6m ほど坪の南北間が長いことが分かる。これが、南北に間延びした条坊の実態と思われる。

図 57 本調査地周辺の条坊位置関係（S=1/4,000）

⑤については、十分な検証はまだ出来ていないが、西二坊大路に関しては道路心で条坊推定計画線から西に約 8m ずれ、西二坊坊間西小路は同方向に約 5.2m ずれていることが分かっている。このことから、西二坊坊間西小路は西二坊大路を基準に敷設されたと考えられており（奈文研 1993）、その結果として右京一条二坊九坪から十二坪は西二坊坊間路を起点として西方向にも間延びしていることが分かる。

（3）検出した条坊遺構の位置づけ

条坊の施工計画と実際の施工に齟齬をきたした背景については、これまで明確な回答は得られていない。今回の発掘調査で検出した条坊遺構も断片的であり、その実態を明らかにするには資料不足である。しかし、一条条間南小路北側溝が切り合い関係をもって掘削された事実は重要であり、周辺条坊の年代観を踏まえて遺構の位置づけを行いたい。

今回検出した一条条間南小路北側溝は、出土遺物から奈良時代後半に掘削されたと考えられる。SD

第 24 次調査で検出された同小路南側溝についても、8 世紀後半から 9 世紀前半の遺物が出土していることから、奈良時代前期の段階では当該小路は敷設されていなかったことが明らかである。

一方、西二坊坊間西小路、一条条間北小路、一条北大路は出土遺物から奈良時代前半に敷設されていることが分かっている。その後、神護景雲元年（767）に始まる西隆寺造営に際して西二坊坊間西小路は埋め立てられ、一条条間北小路は西隆寺伽藍配置の基準にされたのち埋め立てられている。つまり、奈良時代前半に宅地などとして利用されていた土地が西隆寺の敷地になっているのである。寺地として接収された宅地の代替地が右京北辺坊である可能性も指摘されており（井上 2005b）、これらを総合すれば右京一条二坊の西半坪一帯は奈良時代後半に大きく条坊区画が再編したと理解できる。すなわち、奈良時代前期においては、計画線と施工が何らかの理由で食い違ったまま一条条間路以北を坪割し、それ以南の十一坪・十二坪は二坪単位で利用していたが（十三坪・十四坪の詳細は現状では不明である）、奈良時代後半の西隆寺造営に伴って一条条間北小路と西二坊坊間西小路を廃止する代わりに右京北辺坊の整備を進め、一条条間南小路を敷設することによって一条条間路以南の条坊を細分化したのである。

しかし、一条条間南小路は、条坊計画線と合致する一条南大路が南に位置するにもかかわらず計画線と齟齬を有したまま敷設されている。これは、条坊計画通りに坪一辺を 375 大尺（133m）で割付けるならば、一条南大路を基準として位置付けるべきだが、そのような方法を採っていないということを示している。先述したように、一条条間路と一条条間南小路間の南北距離は約 137.0m、一条条間南小路と一条南大路間の南北距離は約 139.2m に算出でき、推定線との比較では南北に間延びするが両者は近似した値となっている。この事実は、一条条間南小路の敷設が平城京の条坊道路の設定理論に沿ったものではなく、ズレを持つ一条条間路と計画線に沿う一条南大路の間を中央付近で二分割にしたことに起因すると考えたい。このような観点で一条条間路以北の条坊道路を見れば、一条条間北小路は一条条間路と一条北大路のほぼ中央を通る位置関係にあることから、どちらかの条坊道路を基準に敷設したと見ることができる。したがって、一条条間路もしくは一条北大路が計画線からずれて施工されたことが、右京一条一坊西半の南北の歪みの原因と考えられるのである。

一条条間南小路の検出は、西大寺や西隆寺の造営に関わる土地再編の痕跡の一つとして位置づけられ、その段階の条坊設定方法を明らかにするうえで重要であると考える。しかし、その復元は本調査と SD 第 24 次調査の成果によるもので、極めて断片的な情報に基づくものである。道路幅などの詳細な構造は今後の発掘調査成果に委ねるところが大きいことを付言しておく。

第 2 節　遺構の変遷と十一坪の土地利用

一条条間南小路北側溝が奈良時代後半に掘削されたことで、右京一条二坊十一坪は大きく土地利用が変化することが分かってきた。一条条間南小路の敷設以前をⅠ期、敷設後をⅡ期として遺構の変遷を整理する。

Ⅰ期　Ⅰ期の遺構は、SB185、SD010、SE025・045・110・150・413、SK050・060 などが該当する。二坪一単位で利用していた段階で、本調査区の北半を中心に土坑や井戸が設けられている。SD010 に隣接する SA085 と SA195 の間に顕著な遺構が展開しないことも示唆的で、これらの時期差は不明であるが、遮蔽物を設けて坪内を区画していた可能性が考えられる。建物の配置などは周辺の調査を待って検討する必要があるが、二間×三間の比較的規模の小さい建物が複数回の建て替えをもって分布している。また、修書した墨書土器や転用硯が出土し、軒瓦が平城宮内で見られる型式と同じであることも特徴的である。

Ⅱ期　Ⅱ期の遺構は、SF200（SD105）、SA190、SB170、SE130・153、SK115・120・125・135・140などが該当する。一条条間南小路であるSF200の北側溝SD105がSB185とSE110を切って掘削され、二坪一単位で利用していた土地を二分割して十一坪と十二坪として利用されるようになる。道路を敷設することによって土地利用の基準にしたとみられ、小路に直行するSA190を配して区画している様子が伺える。調査区東端に位置する土坑群は、SA190に並列し、SB120やSE130・153も形成されていることから、宅地としての機能は維持されていたようである。この段階以降の遺構の変遷などは遺物が出土しておらず、不明である。

第３節　まとめ

今回の発掘調査は、一条条間南小路北側溝が検出されたことが大きな成果である。条坊道路がずれた原因については課題として残るが、南北の条間小路の施工方法が朧気ながら明らかになってきたことも重要である。遺構の検出事例を蓄積し､条坊の施工理論を踏まえたうえで詳細な検討を行う必要がある。

また、土地利用での観点では、奈良時代前期の居住者や奈良時代後半の西大寺や西隆寺の整備が土地再編に与えた影響、右京北辺坊との関連性など、本調査で得られた課題は多く、より複雑な分析が求められよう。今後の発掘調査成果に期待をしつつ、まとめとしたい。

《主要参考文献》
井上和人　2004『古代都城制条里制の実証的研究』、学生社
井上和人　2005a「平城京右京北辺坊考」（『西大寺古絵図の世界』佐藤信編、東京大学出版会）
井上和人　2005b「考古学からみた平城京北辺坊について」（『平城京右京北辺』、財団法人元興寺文化財研究所）
入倉徳裕　2019「京北条里と平城京北辺坊の関係について」（『条里制・古代都市研究会』第35号、条里制・古代都市研究会）
小田裕樹・林正憲・芝康次郎・桑田訓也　2017「平城京右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の調査－第565次－」『奈良文化財研究所紀要2017』、奈良文化財研究所
佐藤亜聖　2004「平城京右京一条二坊・三坊・北辺の研究」（『条里制・古代都市研究』第20号、条里制・古代都市研究会）
財団法人元興寺文化財研究所　2005『平城京右京北辺』
篠原豊一　1991「平城京右京一条二坊十四坪の調査　第207次」（『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書－平成２年度－』､奈良市教育委員会）
神野恵・鈴木智大・小田裕樹・林正憲ほか　2016「右京一条二坊四坪・二条二坊一坪・一条南大路・西一坊大路の調査－第530次・第546次・第560次－」『奈良文化財研究所紀要2016』、奈良文化財研究所
武田和哉　1997「平城京条坊制事情」（『立命館大学考古学論集』Ⅰ、立命館大学考古学論集刊行会）
武田和哉　2002「平城京跡発掘調査の成果と条坊制研究の課題－附 平城京関係発掘調査報告書一覧（稿）－」（『条里制・古代都市研究』第18号、条里制・古代都市研究会）
武田和哉･松浦五輪美　2011「西大寺旧境内の調査　第24次」（『奈良市埋蔵文化財調査年報－平成20（2008）年度－』､奈良市教育委員会）
田林香織・原田憲二郎・安井宣也・池田裕英　1997「平城京右京一条二坊十一坪の調査　第348次」（『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書－平成８年度－』、奈良市教育委員会）
奈良国立博物館　2002『西大寺古絵図は語る－古代・中世の奈良－』
奈良国立文化財研究所　1993『西隆寺発掘調査報告書』
奈良国立文化財研究所編　1976『西隆寺発掘調査報告書』、西隆寺跡調査委員会
奈良国立文化財研究所編　2001『西隆寺跡発掘調査報告書』、奈良市教育委員会
奈良文化財研究所都城発掘調査部（平城地区）　2014『奈良文化財研究所本庁舎建て替えに伴う発掘調査－平城第530次－』記者発表資料、2014年７月４日
奈良文化財研究所都城発掘調査部（平城地区）　2015『平城京右京一条南大路とその周辺の調査－平城第530次調査記者発表資料－』記者発表資料、2015年４月30日

註
1）平城京条坊の東西方向の振れにはバラつきが認められており、一条条間南小路の側溝検出例がいずれも断片的であることも鑑みて武田和哉氏が提示した東西方向の条坊の振れの平均値であるW-0°9′16″-Sを援用して座標値を求めた（武田2002）。

関連資料

図 58　検出遺構配置略図
表 1 ～ 5　報告遺物一覧（1）～（5）
表 6 ～ 18　検出遺構および出土遺物一覧（1）～（13）

図 58 検出遺構配置略図（S=1/200）

表１　報告遺物一覧（1）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構層位	種別器種	口径	器高	底径	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
1	図 39	図版 23	SD105	須恵器 杯	(10.6)	3.7	(7.0)		33%	やや粗 ～ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 A
2	図 39	図版 23	SD105	須恵器 壺	(6.8)	(3.8)	*		25%	やや粗 ～ 3mm 長石	良 灰白 N7/0	壺 L
3	図 39	図版 23	SD105	須恵器 甕	*	(5.0)	*		口縁部細片	やや粗 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	甕 C
4	図 40		SA090c	土師器 高杯	(15.0)	(2.5)	*		20% 杯部	密 ～ 1mm 長石・雲母	良 にぶい橙 7.5YR7/4	高杯 B
5	図 40		SA195d	土師器 甕	(28.1)	(9.8)	*		口縁～ 肩部細片	粗 ～ 3mm 石英・長石・チャート	良 灰白 10YR8/2	甕 A
6	図 40		SB165c	須恵器 蓋	(5.0)	(0.5)	*		50%	やや粗 ～ 1mm 長石	良 灰白 N8/0	
7	図 40		SB170c	須恵器 杯蓋	*	(1.6)	*		口縁部細片	密 ～ 1mm 長石	良 N7/0	杯 B 蓋
8	図 40	図版 23	SB185a	土師器 杯	(15.8)	2.5	*		20%	やや粗 ～ 2mm 長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	杯 A
9	図 40		SB185a	須恵器 杯	(20.0)	5.0	*		10%	密 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N7/0	杯 A
10	図 40	図版 23	SB205d	土師器 杯	*	(3.7)	*		体部細片	密 ～ 1mm 長石・雲母	不良 明赤褐 2.5YR5/6	
11	図 40		SB205a	土師器 壺	*	(2.7)	*		口縁～ 肩部細片	粗 ～ 1mm 長石・クサリ礫・黒色粒	不良 橙 7.5YR7/6	壺 A
12	図 40		SB205g	土師器 甕	*	(1.9)	*		口縁部細片	粗 ～ 4mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	
13	図 40		SB205d	須恵器 杯蓋	*	(1.3)	*		口縁部細片	やや粗 ～ 1mm 長石	やや不良 灰白 N8/0	杯 B 蓋
14	図 40		SB205g	須恵器 杯蓋	*	(0.9)	*		口縁部細片	密 ～ 1mm 長石	良 灰 N6/0	杯 B 蓋
15	図 40	図版 23	SB205e	須恵器 杯	10.3	4.0	6.9		80%	やや粗 ～ 3mm 長石	良 灰 N5/0	杯 B 口縁端部打ち欠き
16	図 40	図版 23	SB205g	須恵器 不明	(13.4)	(3.1)	*		20%	密 ～ 1mm 長石	良 灰白 N8/0	
17	図 40		SB205g	須恵器 不明	*	(1.5)	*		底部細片	密 ～ 3mm 長石	良 灰白 N7/0	
18	図 40		SB205b	須恵器 壺	*	(2.6)	*		口縁部細片	密 ～ 5mm 長石	良 灰 N6/0	壺 Q
19	図 41	図版 23	SD010	土師器 杯	(18.8)	4.4	*		25%	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 2.5YR6/6	杯 A
20	図 41	図版 23	SD010	土師器 杯	(13.0)	2.6	*		10%	粗 ～ 2mm 長石・クサリ礫	不良 橙 5YR6/6	杯 C
21	図 41	図版 23	SD010	土師器 杯	(13.5)	2.9	*		80%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	良 浅黄橙 7.5YR8/4	杯 C
22	図 41	図版 23	SD010	土師器 杯	(14.7)	(2.9)	*		10%	粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	不良 橙 2.5YR7/6	杯 C
23	図 41		SD010	土師器 杯	(19.2)	2.7	*		25%	粗 ～ 3mm 長石・クサリ礫	不良 橙 5YR6/8	杯 E
24	図 41		SD010	土師器 壺	(6.7)	4.8	*		10%	やや粗 ～ 2mm 長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	壺 B
25	図 41		SD010	土師器 甕	(14.1)	(8.1)	*		60% 口縁～胴部	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	不良 橙 2.5YR7/6	
26	図 41		SD010	土師器 甕	(27.0)	(5.8)	*		10% 口縁部	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	良 浅黄橙 7.5YR8/4	甕 A
27	図 41		SD010	須恵器 杯蓋	(15.6)	2.1	*		25%	やや粗 ～ 2mm 長石・黒色粒・雲母	良 灰白 N8/0	杯 B 蓋
28	図 41		SD010	須恵器 杯蓋	(15.2)	(2.3)	*		10%	密 ～ 1mm 長石	良 灰白 N7/0	
29	図 41	図版 24	SD010	須恵器 杯蓋	(16.6)	3.2	*		25%	密 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	
30	図 41	図版 24	SD010	須恵器 杯	11.6	3.3	*		60%	やや粗 ～ 2mm 長石・黒色泥粒	良 灰白 N7/0	杯 A 口縁端部打ち欠き
31	図 41	図版 24	SD010	須恵器 杯	(12.8)	4.1	*		25%	粗 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯 A
32	図 41		SD010	須恵器 杯	(15.0)	3.7	*		25%	密 ～ 3mm 長石	良 灰 N6/0 ～ にぶい赤橙 10R6/4	杯 A

表 2　報告遺物一覧（2）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構層位	種別器種	口径	器高	底径	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
33	図 41	図版 24	SD010	須恵器 杯	14.2	4.2	*		80%	やや粗 ～ 4mm 長石・黒色粒・雲母	良 灰白 N7/0	杯 B 高台内墨痕？ 硯転用か？
34	図 41	図版 24	SD010	須恵器 杯	(17.6)	3.9	12.0		50%	密 ～ 1mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯 B
35	図 41		SD010	須恵器 杯	(18.2)	4.2	*		33%	やや粗 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 B
36	図 41	図版 24	SD010	須恵器 杯	(18.6)	6.8	(13.2)		33%	やや粗 ～ 5mm 長石	良 灰白 N8/0	杯 B
37	図 41	図版 24	SD010	須恵器 杯 or 椀	*	(2.7)	(12.5)		25% 底部	やや粗 ～ 1mm 長石	良 灰白 N8/0	高台内ヘラ記号
38	図 41	図版 25	SD010	須恵器 椀	(15.5)	6.4	*		60%	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 灰白 N7/0	椀 A
39	図 41	図版 25	SD010	須恵器 椀	(11.7)	7.9	(8.1)		33%	やや粗 ～ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	椀 B
40	図 41	図版 25	SD010	須恵器 椀	(15.5)	8.0	(7.8)		40%	やや粗 ～ 1mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	椀 B
41	図 41	図版 25	SD010	須恵器 平瓶	*	(5.4)	*		50%	密 ～ 3mm 長石	良 灰 N5/0	
42	図 41	図版 25	SD010	須恵器 平瓶	*	(8.1)	14.4		80%	密 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	
43	図 42	図版 25	SD010	須恵器 甕	(23.8)	(10.5)	*		25% 口縁部	やや粗 ～ 1mm 長石	良 灰白 N7/0	甕 A
44	図 42	図版 25	SD010	須恵器 甕	(39.4)	(11.2)	*		10% 口縁～胴部	やや粗 ～ 4mm 長石	良 灰白 N7/0	甕 C
45	図 42		SD010	石器 剝片	6.0	2.5	1.8	22.2g		サヌカイト		
46	図 43	図版 26	SE025 黒褐色シルト （5 ～ 7 層）	瓦 丸瓦	(22.7)	(19.6)	10.1			やや粗 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 7/0	
47	図 43		SE025 黒褐色シルト （5 ～ 7 層）	瓦 丸瓦	(14.9)	17.4	9.3			やや粗 ～ 3mm 長石・クサリ礫	不良 灰白 10YR7/1	
48	図 43		SE025 灰褐色粘土 （8～11 層）	土師器 甕	*	(7.6)	*		口縁～ 胴部細片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石	やや良 明褐灰 7.5YR7/2	
49	図 43	図版 26	SE025 灰褐色粘土 （8～11 層）	須恵器 椀	14.5	6.9	9.7		90%	やや粗 ～ 6mm 長石・黒色泥粒	良 灰白 N7/0	椀 B 高台内ヘラ記号
50	図 43	図版 26	SE025 枠内（2 層）	土師器 高杯	*	(9.2)	14.7		70%	やや粗 ～ 3mm 長石・クサリ礫	良 橙 5YR6/8	高杯 A 円筒手法
51	図 43	図版 26	SE025 枠内（2 層）	土師器 甕	23.0	(9.4)	*		100% 口縁部のみ	粗 ～ 7mm 石英・長石・雲母	不良 灰白 7.5YR8/2	甕 C
52	図 43	図版 26	SE025 枠内（2 層）	須恵器 鉢	(16.6)	(14.8)	*		50%	粗 ～ 5mm 長石・黒色粒	不良 灰白 N8/0	鉢 A
53	図 43		SE025	土師器 甕	(23.4)	(5.0)	*		25% 口縁部	粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/8	甕 A
54	図 43	図版 27	SE025	石製品 砥石	(7.1)	6.2	(3.7)	250g		凝灰岩		
55	図 44		SE045	土師器 杯	(13.4)	2.1	*		20%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	やや不良 浅黄橙 7.5YR8/4	杯 C
56	図 44	図版 27	SE045	土師器 杯	(12.2)	3.4	*		40%	やや粗 ～ 5mm 石英・長石・クサリ礫	やや不良 橙 5YR7/6	杯 E
57	図 44	図版 27	SE045	土師器 甕	(20.6)	(8.5)	*		30% 口縁～胴部	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 灰白 10YR8/2	甕 A
58	図 44		SE045	須恵器 杯蓋	(21.0)	3.4	*		40%	やや粗 ～ 5mm 長石	良 灰白 N7/0	杯 B 蓋
59	図 44	図版 27	SE045	須恵器 杯	11.8	3.6	*		80%	やや粗 ～ 2mm 長石・黒色粒	やや不良 灰白 5Y8/1	杯 A 漆付着パレット
60	図 44	図版 27	SE045	土師器 皿	(16.6)	3.9	13.3		60%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石	良 灰白 N8/0	皿 B 高台内ヘラ記号
61	図 44	図版 27	SE045	須恵器 椀	(15.3)	5.0	*		50%	粗 ～ 4mm 石英・長石	やや不良 灰白 N8/0	椀 A
62	図 44	図版 27	SE045	須恵器 椀	(15.9)	5.9	*		40%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 灰白 N8/0	椀 A
63	図 44		SE045	須恵器 壺	(15.2)	(4.5)	*		50% 口縁部	密 ～ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	壺 A

表 3　報告遺物一覧（3）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構層位	種別器種	口径	器高	底径	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
64	図 44	図版 28	SE045	須恵器 壺	(14.0)	(8.1)	*		50% 口縁部	密 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	壺 K
65	図 45	図版 28	SE110	土師器 皿	*	(1.7)	*		口縁～ 底部細片	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 橙 2.5YR6/6	皿 A
66	図 45	図版 28	SE110	土師器 杯	*	(4.2)	*		口縁～ 底部細片	やや粗 ～ 1.5mm 石英・長石・雲母	良 灰白 10YR8/2	杯 A
67	図 45		SE110	土師器 甕	(26.2)	(5.7)	*		25% 口縁部	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	良 浅黄橙 7.5YR8/3	甕 A
68	図 45		SE110	須恵器 杯蓋	(11.7)	(1.1)	*		25%	密 微小砂粒	良 灰白 N7/0	杯 B 蓋
69	図 45	図版 28	SE110	須恵器 杯	10.1	4.1	6.7		80%	密 ～ 1mm 長石	良 灰白 N8/0	杯 B 高台内墨痕 転用硯か？
70	図 45	図版 28	SE110	須恵器 杯	(14.0)	3.9	(9.6)		33%	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 B 高台内墨痕 転用硯か？
71	図 45	図版 28	SE110	瓦 軒平瓦	(11.5)	(10.0)	5.4			やや粗 ～ 3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N5/0	均整唐草文 6663B 型式 曲線顎
72	図 46	図版 28	SE130 最下層	土師器 皿	10.1	2.4	*		100%	密 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	良 灰白 10YR8/1	皿 C 外底面墨書
73	図 46	図版 28	SE130 最下層	土師器 皿	10.7	2.4	*		100%	やや粗 ～ 1mm 石英・長石・雲母	良 灰白 2.5Y8/2	皿 C
74	図 46	図版 28	SE130 最下層	土師器 杯	17.7	4.5	*		ほぼ 100%	密 ～ 4mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	良 灰白 10YR8/2	杯 A 外底面線刻
75	図 46	図版 29	SE130 最下層	土師器 椀	(12.7)	3.8	*		50%	やや粗 ～ 2mm 長石・クサリ礫	良 灰白 7.5YR8/2	椀 C 外底面墨書？
76	図 46		SE130 枠内	土師器 甕	*	6.5	*		口縁～ 底部細片	やや粗 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒・クサリ礫	良 灰白 7.5YR8/2	甕 A
77	図 46		SE130 枠内	須恵器 杯蓋	*	1.3	*		口縁部細片	やや粗 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 B 蓋
78	図 46	図版 29	SE130 枠内	須恵器 蓋	3.6	1.7	*		100%	密 ～ 1mm 長石・クサリ礫・黒色粒	良 明褐灰 7.5YR7/2	
79	図 46		SE130 枠内	瓦 塼	(16.9)	16.5	8.0			やや粗 ～ 4mm 石英・長石・チャート	良 暗灰 N3/0	
80	図 46		SE130 掘方	須恵器 杯	(13.2)	3.3	*		25%	密 ～ 2mm 長石・黒色泥粒	良 灰白 N7/0	杯 A 漆付着パレット
81	図 46		SE130 掘方	須恵器 杯	*	6.2	*		口縁～ 底部細片	やや粗 ～ 2mm 長石	良 灰白 N8/0	杯 B
82	図 46		SE130 掘方	須恵器 杯	(13.4)	4.2	(9.6)		25%	密 ～ 2mm 長石・黒色泥流	良 灰 N5/0	杯 B
83	図 47	図版 29	SE150 掘方	土師器 杯	(17.5)	(3.8)	*		20%	密 微小砂粒	良 灰白 10YR8/2	杯 A
84	図 47	図版 29	SE150 掘方	土師器 高杯	*	7.5	(12.2)		80% 脚柱部	密 ～ 2mm 長石・クサリ礫・チャート	良 灰白 10YR8/2	高杯 A 芯棒接合法
85	図 47	図版 29	SE150 掘方	須恵器 杯	(19.3)	4.8	*		25%	密 ～ 1mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯 A
86	図 47		SE150 枠内	須恵器 杯	(14.2)	3.3	*		25%	やや粗 ～ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 2.5Y7/1	
87	図 47	図版 29	SE150 枠内	須恵器 壺	*	11.3	10.0		33% 肩～底部	密 ～ 1mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	壺 K 内面漆付着
88	図 47	図版 29	SE150 曲物枠内	土師器 甕	19.9	20.1	*		50%	密 ～ 4mm 石英・長石・チャート	良 灰白 10YR8/2	甕 A
89	図 47		SE150 曲物枠内	須恵器 杯	14.4	2.9	*		100%	やや粗 ～ 1mm クサリ礫・雲母・微小砂粒	良 橙 5YR7/6	杯 B
90	図 47	図版 30	SE150	木製品 曲物	52.4	20.0	51.9					本体・箍板目取り
91	図 47		SE150	須恵器 鉢	*	(13.3)	*		口縁～ 肩部細片	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N6/0	鉢 D
92	図 48	図版 30	SE153 枠内下層	土師器 皿	*	(1.9)	*		口縁～ 底部細片	密 微小砂粒	良 灰白 7.5YR8/2	皿 A
93	図 48		SE153 枠内下層	須恵器 壺	(6.0)	(5.4)	*		40%	密 ～ 1mm 長石・黒色粒	良 灰 N6/0	壺 C
94	図 48	図版 31	SE153 枠内下層	木製品 斎串	(19.7)	2.5	0.2					柾目取り
95	図 48		SE153	木製品 井戸枠横桟	79.1	5.5	6.1					芯去材 墨書

表 4　報告遺物一覧（4）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構層位	種別器種	口径	器高	底径	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
96	図 48	図版 30	SE153	土師器 甕	(29.6)	(12.8)	*		10% 口縁～胴部	粗 ～ 3mm 石英・長石・チャート	不良 淡橙 5YR8/4	甕 A
97	図 48	図版 30	SE153	須恵器 皿	(21.4)	4.0	17.3		50%	やや粗 微小砂粒	やや不良 灰白 N8/0	皿 B
98	図 48	図版 30	SE153	須恵器 壺	*	(16.3)	15.3		66% 肩～底部	密 ～ 3mm 長石	良 灰 N6/0	壺 A
99	図 49	図版 31	SE413	土師器 杯	(15.0)	2.5	*		50%	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR6/6	杯 A
100	図 49	図版 31	SE413	土師器 杯	(16.5)	3.2	(11.4)		25%	やや粗 ～ 3mm 長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	杯 B
101	図 49	図版 31	SE413	須恵器 杯	(14.6)	2.7	(11.9)		50%	密 ～ 2mm 長石・黒色泥粒	良 N7/0	杯 A 外底面墨痕 転用硯か？
102	図 49		SE413	須恵器 杯	(17.4)	4.3	*		25%	密 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	杯 A
103	図 49		SE413	須恵器 杯	(19.8)	3.9	*		10%	やや粗 ～ 2mm 長石	良 灰白 N8/0	杯 A
104	図 49	図版 31	SE413	須恵器 杯	*	(1.6)	(14.6)		33% 底部	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯 B 高台内墨書
105	図 49	図版 32	SE413	瓦 軒平瓦	(10.5)	(18.0)	12.0			やや粗 ～ 5mm 石英・長石	良 灰 N6/0	偏行唐草文 6643Aa 型式 段顎
106	図 49		SE413	瓦 塼	(9.8)	(8.4)	8.2			やや粗 ～ 2mm 石英・長石	良 N4/0	
107	図 50	図版 32	SK050	土師器 皿	(21.4)	2.6	*		20%	粗 ～ 4mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	不良 橙 5YR6/6	皿 A
108	図 50	図版 32	SK050	須恵器 杯	(15.8)	3.7	(11.6)		33%	密 ～ 2mm 長石・黒色泥流	良 灰白 N8/0	杯 B
109	図 50		SK050	瓦 丸瓦	(20.5)	14.1	6.5			粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	やや不良 灰白 N7/0	
110	図 50	図版 32	SK050	瓦 丸瓦	35.4	14.5	7.8			やや粗 ～ 9mm 石英・長石	不良 灰白 2.5Y8/2	
111	図 51		SK060	土師器 蓋	*	(2.1)	*		口縁部細片	粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	不良 淡橙 5YR8/4	皿 B 蓋
112	図 51		SK060	土師器 蓋	*	(1.9)	*		口縁部細片	粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	不良 にぶい橙 5YR7/4	皿 B 蓋
113	図 51		SK060	土師器 杯	(13.0)	2.0	*		10%	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	不良 橙 5YR6/8	杯 E
114	図 51	図版 33	SK060	土師器 甕	(16.0)	(9.7)	*		25% 口縁～胴部上半	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 赤橙 10R6/8	甕 A
115	図 51	図版 33	SK060	須恵器 杯	(16.4)	5.7	(11.6)		60%	密 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯 B
116	図 51		SK115	土師器 杯	(18.1)	3.8	*		25%	粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	杯 A
117	図 51		SK115	須恵器 杯	(12.6)	3.5	(9.9)		25%	やや粗 ～ 1mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	杯 A
118	図 51	図版 33	SK115	須恵器 壺	5.8	15.0	5.3		80%	密 ～ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	壺 L
119	図 51	図版 33	SK115	瓦 塼	(15.6)	17.0	8.0			粗 ～ 14mm 石英・長石・クサリ礫・雲母	不良 灰白 N8/0	
120	図 51		SK120	土師器 皿	*	1.8	*		口縁～ 底部細片	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・チャート	不良 橙 5YR7/6	
121	図 51	図版 33	SK120	土製品 土馬	12.0	(7.3)	2.1			やや粗 ～ 1mm 石英・長石・雲母・クサリ礫	やや不良 橙 5YR7/6	
122	図 52		SP057	土師器 杯	*	(3.5)	*		口縁～ 底部細片	粗 ～ 2mm 長石・クサリ礫	やや不良 浅黄橙 7.5YR8/3	杯 C
123	図 52		SP088	須恵器 高杯	*	(2.3)	*		杯部細片	やや粗 ～ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	
124	図 52		SP088	須恵器 甕	*	(9.5)	*		口縁部細片	密 ～ 3mm 石英・長石	良 灰 N5/0	
125	図 52	図版 33	SP391	瓦 軒平瓦	(17.0)	(14.6)	7.0			やや祖 ～ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	均整唐草文 6721Ga 型式
126	図 53		SP452	須恵器 壺	(14.4)	(4.1)	*		10% 口縁部	密 ～ 1mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	壺 K
127	図 53		SP452	瓦 丸瓦	(16.1)	14.8	8.0			やや粗 ～ 3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	

表 5　報告遺物一覧（5）

報告番号	挿図	写真図版	出土遺構層位	種別器種	口径	器高	底径	重	残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
128	図 53	図版 33	SP517	瓦 軒丸瓦	(12.7)	16.0	15.4			粗 ～ 5mm 石英・長石	良 灰 N5/0	重圏文 6010A 型式
129	図 54	図版 34	SX040	土師器 皿 or 杯	*	1.8	*		口縁～ 底部細片	粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 2.5YR6/8	皿 Aor 杯 C
130	図 54		SX040	土師器 甕	*	(3.9)	*		口縁部細片	粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫・チャート	不良 橙 5YR6/6	甕 A
131	図 54	図版 34	SX040	土師器 甕	(26.7)	(12.2)	*		25% 口縁～胴部	やや粗 ～ 3mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 5YR7/6	
132	図 54		SX040	瓦 軒丸瓦	(4.3)	(10.3)	(4.1)			やや粗 ～ 2mm 石英・長石	不良 灰 N6/0	6281Bb 型式
133	図 55		SX155 2 層	須恵器 高杯	*	(6.2)	*		33% 杯部	密 ～ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N6/0	TK47 型式
134	図 55		SX155	土師器 皿	(11.6)	1.7	*		20%	粗 ～ 1mm 石英・長石・クサリ礫	不良 橙 2.5YR6/6	皿 C
135	図 55	図版 34	SX155	須恵器 甕	(23.0)	(13.6)	*		33% 口縁～胴部	密 ～ 5mm 長石・黒色粒	良 灰白 N6/0	甕 B
136	図 55	図版 34	SX155	須恵器 甕	(23.0)	(9.7)	*		50% 口縁部	密 ～ 3mm 長石	良 灰白 N7/0	甕 A
137	図 56	図版 34	表土	土製品 土馬	(6.9)	5.1	2.9			やや粗 ～ 2mm 石英・長石・クサリ礫	やや不良 橙 5YR7/6	
138	図 56	図版 34	表土	土製品 土錘	4.1	2.5	2.3	20.1g		やや粗 ～ 3mm 石英・長石	良 浅黄橙 7.5YR8/6	
139	図 56	図版 34	表土	瓦 軒丸瓦	(4.3)	(10.0)	(4.6)			やや粗 ～ 4mm 石英・長石・クサリ礫・チャート	やや不良 灰白 N8/0	

表 6　検出遺構および出土遺物一覧（1）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
1			攪乱		土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯・鉢・壺・甕・蓋、国産陶器土管、平瓦・丸瓦	B ～ F2・3
2			攪乱		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、瓦細片	B3・4
3			攪乱		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・蓋・細片、丸瓦・瓦細片	C・D3・4
4			攪乱		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、丸瓦・細片	C・D4・5
5	SA195h		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦	J7
6			攪乱		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・蓋・細片	E・F4・5
7			素掘溝		土師器（古代）甕・蓋・細片、須恵器（古代）杯・甕、鉄釘	I6 ～ 9
8			素掘溝		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・平瓶・細片、軒平瓦・平瓦・丸瓦	H ～ K8
9			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、瓦細片	H ～ K8
10	SD010		溝		土師器（古代）皿・杯・壺・甕・高杯・蓋・竈・甑、須恵器（古代）椀・杯・鉢・壺・甕・蓋・平瓶・細片、石未成品、平瓦・丸瓦、鉄滓	G ～ K5
11			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片、平瓦・丸瓦	H・I8
12			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	H ～ J8
13			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	I・J8
14			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、瓦器椀、平瓦・丸瓦	G ～ J7
15			土坑		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、丸瓦	G7
16			素掘溝		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・甑・細片、平瓦・丸瓦	G ～ J7
17			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯	I6 ～ 8
18			素掘溝		土師器（古代）杯・蓋・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、土馬、平瓦・丸瓦、	I6・7
19			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、丸瓦、鉄滓	I5 ～ 9
20			土坑		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・蓋・細片、丸瓦	G・H6・7
21			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	H8
22			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片	H8
23			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・細片、平瓦	H6 ～ 8
24			素掘溝		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）細片、丸瓦	G ～ J7・8
25	SE025		井戸		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、砥石・石材（凝灰岩）、平瓦	H・I4・5
		黒褐色シルト（1 層）			須恵器（古代）椀・杯・甕・蓋、瓦細片	
		掘方 黒褐色シルト（1 ～ 4 層）			土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・蓋・細片、丸瓦	
		黒褐色シルト（5 ～ 7 層）			土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕、平瓦・丸瓦	
		灰褐色粘土（8 ～ 11 層）			土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯	
		褐灰色粘土（11 層）			土師器（古代）甕、須恵器（古代）蓋	
		枠内			土師器（古代）甕・竈・細片、須恵器（古代）甕・蓋、石材（片岩・凝灰岩）	
		枠内(2 層)			土師器（古代）高杯、須恵器（古代）細片、平瓦	
		枠内土器①			土師器（古代）甕	
		枠内土器②			須恵器（古代）鉢	
26			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	G ～ J7
27			素掘溝		須恵器（古代）細片	G・H7
28			素掘溝		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	H7・8
29			素掘溝		土師器（古代）甕・甑・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦	G ～ J6・7
30			ピット		土師器（古代）細片	H4
31			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片	G・H6
32			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）椀・杯・甕・蓋・細片、平瓦	G・H6

表 7　検出遺構および出土遺物一覧（2）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
33			素掘溝		土師器（古代）椀・細片、須恵器（古代）細片、瓦器椀、輸入白磁椀	G・H6
34			素掘溝		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、平瓦	G ～ J6
35			土坑		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、平瓦	H・I7
36			素掘溝		土師器（古代）皿・甕・蓋・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦・瓦細片	I・J6
37			素掘溝		土師器（古代）皿・杯・甕・蓋・細片、須恵器（古代）杯・鉢・壺・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	G ～ K6
38			素掘溝		土師器（古代）杯・甕・甑・細片、須恵器（古代）皿・杯・壺・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	J5・6
39			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片	J・K5
40	SX040		落込み	壁面⑭層	土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、軒丸瓦・丸瓦	F ～ H4 ～ 6
41			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片	J・K5
42			素掘溝		土師器（古代）甕・蓋・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・細片、平瓦・丸瓦	I ～ K5
43			素掘溝		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋、瓦細片、鉄釘	I5 ～ 8
44			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・鉢・壺・甕・蓋・細片、平瓦	I・J5
45	SE045		井戸	S-40 掘り下げ後	土師器（古代）皿・杯・甕・蓋・甑、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、石材、平瓦・丸瓦	F・G4
46			攪乱		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、瓦細片	I5
47			素掘溝		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・甕、瓦質土器細片	J5・6
48			ピット		土師器（古代）細片	J6
49			ピット		土師器（古代）細片	J6
50	SK050		土坑	S-40 掘り下げ後	土師器（古代）椀・杯・甕・竈・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、軒丸瓦・丸瓦	G・H4
51			ピット		須恵器（古代）杯	I・J7
52			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	J7
53			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	K5
54			ピット		須恵器（古代）椀・甕	I7
55			不明遺構		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・細片	C4・5
56			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕、平瓦	H7・8
57	SP057		ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）細片	H7・8
58			素掘溝		須恵器（古代）細片	G7
59	SA195c		ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、丸瓦	G7
		柱跡			土師器（古代）細片	
60	SK060		土坑		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、緑釉陶器細片、平瓦・瓦細片、不明鉄製品	B3
61			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯、平瓦	G7
62			ピット		土師器（古代）細片	G7
63			ピット		土師器（古代）細片	G7
64			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	G7
65	SX065		不明遺構		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	B2・3
66			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、丸瓦	G8
67			ピット		土師器（古代）細片	I4・5
		柱跡			土師器（古代）細片	
68			素掘溝		土師器（古代）皿・杯・甕・高杯・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、土馬・不明土製品	F・G5
69			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）細片	F・G5
70			ピット		須恵器（古代）蓋	D5
71			素掘溝		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・細片、瓦細片	F5
72			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片、平瓦	G6
73			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）細片、瓦細片	G6
74			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・壺	F5
75	欠番					

表 8　検出遺構および出土遺物一覧（3）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
76			ピット		土師器（古代）皿・細片、須恵器（古代）甕	F5
77			素掘溝		土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）細片	F・G5
78			素掘溝		土師器（古代）皿・甕・細片、須恵器（古代）皿・杯・壺・甕・蓋、軒丸瓦・平瓦	F4
79			素掘溝		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・鉢・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	F4
80	欠番					
81			素掘溝		土師器（古代）皿・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、瓦器椀、平瓦・丸瓦・瓦細片	G4
82	SA090c		ピット		土師器（古代）皿・細片	F5
83	SA085d		ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）細片	F6
84			ピット		土師器（古代）皿	F6
85	SA085		塀	S-83・92・166・216 ～ 218		D ～ G6
86	SA090d		ピット		土師器（古代）細片	F5
87	SA090e		ピット		土師器（古代）竈・細片	F6
88	SP088		ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・蓋・細片	F6
89	SA195a		ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）甕、丸瓦	F7
90	SA090		塀	S-82・86・87・154・192		F3 ～ 6
91			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	F7
92	SA085e		ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片	F7
93			ピット		土師器（古代）細片	F4
94			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	F4
95			落込み		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	O ～ Q 8 ～ 10
96			ピット		土師器（古代）細片	E6
97			ピット		土師器（古代）椀・細片、須恵器（古代）細片	E6
98			ピット		土師器（古代）細片	E6
99			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片	E5・6
100	SX100		不明遺構		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺、丸瓦	N11
101			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）蓋・細片	I9
102			ピット		土師器（古代）細片	I9
103			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	I9
104			ピット		土師器（古代）甕、須恵器（古代）細片	I8
105	SD105		溝	SF200 北側溝	土師器（古代）皿・杯・甕・高杯・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、土馬、平瓦・丸瓦・塼	N ～ P 12・13
106			ピット		土師器（古代）細片	I8
107			ピット		土師器（古代）甕、須恵器（古代）細片	I8
108			ピット		土師器（古代）細片	I7
109			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	J7
110	SE110		井戸		土師器（古代）椀・皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、軒平瓦・平瓦・丸瓦	N12
		掘方			土師器（古代）細片、須恵器（古代）椀・杯、丸瓦	
111			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	G・H8
112			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	H8
113			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	H7
114			ピット			H・I8
115	SK115		土坑		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、軒丸瓦・平瓦・丸瓦・塼	O・P10
116			ピット		土師器（古代）壺・甕・細片、須恵器（古代）壺・細片	G4・5
117			素掘溝		土師器（古代）椀・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片	H4
118	SA195b		ピット		土師器（古代）皿・甕・細片	G7
119	SA195d		ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片	H7

表９　検出遺構および出土遺物一覧（4）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
120	SK120		土坑		土師器（古代）皿・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・細片、土馬、平瓦・丸瓦	P9
121			ピット		土師器（古代）皿・鉢・細片、須恵器（古代）細片、平瓦	I7
122			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	F6
123			ピット		土師器（古代）壺・細片、須恵器（古代）細片	G5
124			ピット		土師器（古代）細片、丸瓦	F・G5
125	SK125		土坑		土師器（古代）細片、須恵器（古代）蓋、瓦細片	P8・9
126			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・細片	F ～ G5
127			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	C・D5
128			ピット			C5
129			ピット		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）壺・細片	D5
130	SE130		井戸		土師器（古代）壺・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	O・P8
		掘方			土師器（古代）皿・甕・細片、須恵器（古代）杯・鉢・壺・甕・蓋・甑・細片、石材（石英）、平瓦・丸瓦	
		最下層			土師器（古代）皿・杯・細片、須恵器（古代）細片	
		枠内			土師器（古代）皿・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦・塼	
		枠内最下層			土師器（古代）皿	
131			ピット		土師器（古代）細片	D5
132			ピット		土師器（古代）細片	C4
133			ピット		土師器（古代）細片	C5
134			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）細片	C4
135	SK135		土坑		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋、平瓦・塼	P8・9
136			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	C4
137			ピット		土師器（古代）細片	B3
138			ピット		土師器（古代）細片	B3
139			素掘溝		土師器（古代）杯、須恵器（古代）細片	B・C3
140	SK140		土坑		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・細片	P8・9
141			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片	C ～ H3・4
142			素掘溝		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	D ～ H4
143			ピット		土師器（古代）細片	D・E3
144			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・蓋・細片	D・E3
145			土坑		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕、平瓦・丸瓦	N11・12
146			ピット		土師器（古代）杯・細片	D・E3
147			素掘溝		土師器（古代）細片	E3
148			土坑		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	E4
149			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯、平瓦	B3
150	SE150		井戸		土師器（古代）杯・甕・蓋・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	L8・9
		掘方			土師器（古代）杯・甕・高杯、須恵器（古代）杯・壺・甕、炭化物	
		枠内			土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）壺、丸瓦	
		枠内第３層			須恵器（古代）蓋	
		曲物枠内			土師器（古代）甕、須恵器（古代）杯・壺・甕	
		曲物枠内最下層			炭化物、種子、曲物	
151			ピット		土師器（古代）細片	D5
152			ピット		土師器（古代）細片	H4

表 10　検出遺構および出土遺物一覧（5）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
153	SE153		井戸		土師器（古代）杯・甕・甑・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、斎串、平瓦	C5・6
		黄灰色中粒砂（1 層）			土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）蓋・細片、平瓦	
		黒褐色粘土（2・3 層）			土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋、丸瓦	
		灰色粘土（7 層）			土師器（古代）杯・甕、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、平瓦	
		堀方 灰黄色粘土（a～c 層）			土師器（古代）杯・甕・高杯・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、丸瓦、木片（一部炭化）	
		掘方			土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・蓋・細片、石材（花崗岩）	
154	SA090a		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	F3
155	SX155		不明遺構		土師器（古代）皿・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片	L・M7・8
		第 2 層			須恵器（古代）高杯	
156			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・鉢・甕・蓋・細片、平瓦	F3
157			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	G3
158			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	F2
159			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、瓦細片	F2・3
160			土坑		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、平瓦	K・L10
161			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	F3
162			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、丸瓦	G・H3
163			ピット		須恵器（古代）杯	C5
164			ピット		土師器（古代）細片	D6
165	SB165		建物	S-399・406・497・504		L・M7・8
166	SA085a		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	D6
167			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）鉢	J7
168			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）蓋・細片	J7
169			ピット		土師器（古代）細片	H7
170	SB170		建物	S-359・368・404・489・494・528・529・531・532・564		K～M 7～10
171	SA195g		ピット		土師器（古代）細片	J7
172			ピット		土師器（古代）細片	I・J7
173	SA195f		ピット		土師器（古代）細片	I7
174			ピット		土師器（古代）細片	J6
175	欠番					
176			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	H8
177			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	H7
178			ピット		平瓦	G7
179			ピット		須恵器（古代）甕	H6
180	SB180		建物	S-308・318・388・431・433・446・451・467・553・554		K～M 10・11
181			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	F7
182			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）椀・細片	E6
183			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	F6
184			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・細片	I4
185	SB185		建物	S-271・276・289・299		P12・13
186			ピット		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）甕、丸瓦	I4
187			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯	E6
188			ピット		土師器（古代）細片	F4
189			ピット		土師器（古代）細片	D5

表 11　検出遺構および出土遺物一覧（6）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
190	SA190		塀	S-241・244・247・251・262・294・513		O9 ～ 12
191			ピット		土師器（古代）細片	F3
192	SA090b		ピット		土師器（古代）細片	F4
193			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	D4
194			ピット		土師器（古代）細片	C3
195	SA195		塀	S-5・59・89・118・119・171・173・221・401・407・506・533・537		F ～ M7
196			ピット		土師器（古代）細片	C4
197			ピット		土師器（古代）細片	G3
198			ピット		土師器（古代）細片	I8
199			素掘溝		平瓦	B・C5
200	SF200		道路	SD105（北側溝）		N ～ P 12・13
201			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・壺・細片	C5・6
202			ピット			B3
203			ピット			C3
204			ピット			D3
205	SB205		建物	S-313・316・326・384・396・411・428・483		K ～ M 9 ～ 11
206	SB075m		ピット			C4
207	SB075h		ピット			D4
208	SB075l		ピット			C4
209	SB075		ピット			C5
210	欠番					
211	SB075n		ピット			C・D4
212			ピット			D4
213			ピット			D6
214			ピット			F6・7
215	欠番					
216	SA085b		ピット			D6
217	SA085c		ピット			E6
218	SA085f		ピット		土師器（古代）細片	G5・6
219			ピット			D5・6
220	欠番					
221	SA195e		ピット		土師器（古代）細片	H7
222			ピット		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・蓋・細片、平瓦	J7
223			ピット		土師器（古代）細片	B4
224			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	K5
225	欠番					
226			ピット		土師器（古代）細片	C4
227			ピット		土師器（古代）細片	I9
228			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	C3
229			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、平瓦・丸瓦・塼	P7 ～ 11
230	欠番					
231			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	P11
		柱穴			土師器（古代）皿・細片	
232			素掘溝		土師器（古代）皿・細片、須恵器（古代）細片、丸瓦	P11
233			素掘溝		土師器（古代）細片	P・Q11
234			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片、丸瓦	P・Q11
235	欠番					
236			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	Q11

表 12　検出遺構および出土遺物一覧（7）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
237			ピット		土師器（古代）細片	Q11
238			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・甕・細片	P・Q11
239			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯	P11
240	欠番					
241	SA190a		ピット		須恵器（古代）細片	O9
242			ピット		土師器（古代）細片	O9
243			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・甕・蓋、平瓦	O9
244	SA190b		ピット		土師器（古代）細片	O9
245	欠番					
246			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、丸瓦	O10
247	SA190c		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	O10
248			ピット		土師器（古代）蓋・細片、須恵器（古代）蓋・細片、不明土製品	O10
249			ピット		土師器（古代）細片	O10
250	欠番					
251	SA190d		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）椀	O10
252			ピット		土師器（古代）杯・細片	O10
253			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・細片	O10
254			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕、平瓦	O10
255	欠番					
256			ピット		土師器（古代）細片	O10
257			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）細片	P10・11
258			ピット		土師器（古代）細片	O10
259			素掘溝		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、平瓦	O10・11
260	欠番					
261			ピット		須恵器（古代）杯	O11
262	SA190e		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	O11
263			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）壺・細片	O11
264			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	N ～ P11
265	欠番					
266			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	O11
267			ピット		土師器（古代）細片	P11
268			ピット		土師器（古代）細片	P11
269			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	P10・11
270	欠番					
271	SB185d		ピット		土師器（古代）細片	P11・12
272			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・蓋・細片	P11・12
273			ピット		土師器（古代）細片	P12
274			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋、平瓦・丸瓦	N ～ P11
275	欠番					
276	SB185c		ピット		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）甕・蓋・細片	P11・12
		柱穴			土師器（古代）細片	
277			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	O・P12
278			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・甕	P12
279			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋・細片、丸瓦	O・P12
280	欠番					
281			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	O11・12
282			ピット		土師器（古代）細片	O・P11
283			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	O11
284			ピット		須恵器（古代）細片	O12
285	欠番					
286			ピット		須恵器（古代）細片	O12
287			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	O11・12

表 13　検出遺構および出土遺物一覧（8）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
288			ピット		土師器（古代）細片	N・O11・12
289	SB185b		ピット		土師器（古代）甕・細片	P12
290	欠番					
291			ピット		土師器（古代）細片	P12
292			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	P12
293			ピット		土師器（古代）細片	O12
294	SA190g		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片	O12
295	欠番					
296			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片、平瓦	O12
297			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、平瓦	O12
298			ピット		土師器（古代）細片、平瓦	O12
299	SB185a		ピット		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・細片	P13
		柱根			土師器（古代）蓋・細片	
300	欠番					
301			素掘溝		土師器（古代）皿・甕・細片、須恵器（古代）細片	O8 ～ 10
302			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	N8
303			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	N12
304			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、土馬	N12
		柱穴			土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	
305	欠番					
306			ピット		土師器（古代）細片	N12
307			ピット		土師器（古代）細片	N11
308	SB180a		ピット		土師器（古代）細片	M11
309			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、丸瓦	M・N11・12
310	欠番					
311			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	L10
312			ピット		土師器（古代）甕・細片	L10・11
313	SB205b		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・細片	L11
314			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	L10
315	欠番					
316	SB205c		ピット		土師器（古代）細片	L11
317			素掘溝		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、平瓦	K・L10
318	SB180g		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	L10
319			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・壺・蓋・細片	P12
320	欠番					
321			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・蓋・細片、平瓦	P12
322			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	L・M9・10
323			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・細片、平瓦	M10
324			ピット		土師器（古代）杯・細片	M9
325	欠番					
326	SB205i		ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）細片	M9
327			ピット		土師器（古代）甕・細片	M9
328			ピット		土師器（古代）甕・細片	M9
329			ピット		土師器（古代）甕・細片	M9
330	欠番					
331			ピット		土師器（古代）甕・細片	M9
332			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	M8
333			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・細片	M8
334			ピット		土師器（古代）細片、平瓦	M8
335	欠番					
336			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕	M8
337			ピット		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）甕・細片	N8

表 14　検出遺構および出土遺物一覧（9）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
338			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	N8
339			ピット		土師器（古代）皿	M8
340	欠番					
341			素掘溝		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）皿・杯	L6 ～ 10
342			素掘溝		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・平瓶、平瓦・丸瓦	K・L6 ～ 11
343			ピット		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・鉢・甕・蓋・細片、平瓦・丸瓦	J・K10
344			素掘溝		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・細片、丸瓦	J・K9
345	欠番					
346			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片	J9
347			ピット		土師器（古代）細片	J9
348			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片	J8 ～ 10
349			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・細片	J・K8
350	欠番					
351			素掘溝	1 区 S-38 のつづき	土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、丸瓦・瓦細片	J7 ～ 10
352			素掘溝		土師器（古代）細片	K8
353			ピット		土師器（古代）甕・細片	K8
354			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・細片	K・L7・8
355	欠番					
356			ピット		土師器（古代）杯・細片	K・L8
357			ピット		土師器（古代）細片	K8
358			ピット		土師器（古代）細片	K・L8
359	SB170c		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・甕・蓋・細片	J・K8・9
		柱根			土師器（古代）甕・細片	
360	欠番					
361			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片	L8
362			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、平瓦	L8
363			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）蓋・細片、平瓦	M・N7 ～ 10
364			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	L・M6
365	欠番					
366			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）蓋・細片、瓦細片	K ～ M6
367			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片	L7
368	SB170h		ピット		土師器（古代）細片	L7
369			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・蓋・細片、石材（凝灰岩）	L7
370	欠番					
371		柱根	ピット		土師器（古代）細片	J9
372			ピット		須恵器（古代）細片	J9
373			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）壺・甕・細片	J9・10
374			ピット		土師器（古代）甕・細片	I9
375	欠番					
376			ピット		土師器（古代）杯・細片	J9
		柱根			土師器（古代）細片	
377			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	J8
378			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	J・K7
379			ピット		土師器（古代）椀・甕・細片、須恵器（古代）壺・甕・蓋、平瓦	L10
380	欠番					
381			ピット		土師器（古代）甕・細片、平瓦	L9
382			ピット		土師器（古代）甕・細片	L9
383			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	K9・10
384	SB205f		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・甕	K9
385	欠番					

表 15　検出遺構および出土遺物一覧（10）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
386			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、石材	J・K9
387			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、丸瓦	K9・10
388	SB180d		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋、平瓦	K・L11
389			ピット		土師器（古代）細片	K7
390	欠番					
391	SP391		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、軒平瓦	M7
392			ピット		土師器（古代）細片	M7
393			ピット		土師器（古代）細片	M7
394			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）鉢・甕・細片	L9
395	欠番					
396	SB205g		ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋	K・L9
397			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺	K・L9
398			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	L10
399	SB165a		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	L10
400	欠番					
401	SA195j		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	K7
402			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	K7
403			ピット		土師器（古代）細片	K7
404	SB170i		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺	L8
405	欠番					
406	SB165b		ピット		土師器（古代）細片	L8
407	SA195l		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	M7
408			ピット		土師器（古代）細片・須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦	L9
409			ピット		土師器（古代）細片	N8・9
410	欠番					
411	SB205h		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	L9
412			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・細片	M7
413	SE413		井戸		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、軒平瓦・平瓦・丸瓦・塼、炭化物	O9・10
414			ピット			O10
415	欠番					
416			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、平瓦	P・Q9
		掘方			土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）細片、平瓦	
		柱根			土師器（古代）細片、瓦細片	
417			ピット		須恵器（古代）細片	P9・10
418			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋・細片、平瓦	P10
419			ピット		須恵器（古代）杯、平瓦	P10
420	欠番					
421			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋	Q10
422			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	Q10
423			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺	Q10
424			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・細片、丸瓦	O9
425	欠番					
426			素掘溝		土師器（古代）甕・高杯・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋、平瓦・瓦細片	L・M11
427			素掘溝		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片	M10・11
428	SB205a		ピット		土師器（古代）壺・竈・細片、須恵器（古代）甕	M11
429			ピット		土師器（古代）細片	M10・11
430	欠番					
431	SB180b		ピット		土師器（古代）細片	M11
432			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）蓋	M・N10・11
433	SB180c		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕、細片	L11

表 16　検出遺構および出土遺物一覧（11）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
434			ピット		須恵器（古代）細片	Q10・11
435	欠番					
436			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片、平瓦	Q10
437			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片	Q9・10
438			ピット		土師器（古代）細片、丸瓦	Q10
439			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）椀	N11
440	欠番					
441			素掘溝		土師器（古代）椀・細片	L ～ N 10・11
442			ピット		土師器（古代）細片	L10・11
443			ピット		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）甕・細片、平瓦・塼	L・M10
444			ピット		土師器（古代）細片	M11
445	欠番					
446	SB180j		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	M11
447			ピット		土師器（古代）細片	M11
448			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	M10
449			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・細片、丸瓦	L・M10
450	欠番					
451	SB180h		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・細片	M10
452	SP452		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・壺・細片、丸瓦	K10
453			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕	L9
454			ピット		土師器（古代）杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、平瓦	K・L9
455	欠番					
456			ピット		土師器（古代）細片	K9
457			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯	N12
458			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片	M11
459			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）細片	M10
460	欠番					
461			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕	N10
462			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	N9
463			ピット		土師器（古代）細片	N9
464			ピット		土師器（古代）細片	N10
465	欠番					
466			ピット		土師器（古代）細片	M10
467	SB180e	柱根	ピット		土師器（古代）甕	K10
468			ピット		土師器（古代）細片	L9
469			ピット		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、平瓦	L8・9
		掘方			土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	
		柱根			土師器（古代）細片、丸瓦	
470	欠番					
471			ピット		土師器（古代）細片	M10
472			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	O10
473			ピット		土師器（古代）細片	N8
474			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片、瓦細片	O・P13
475	欠番					
476			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	L7
477			ピット		土師器（古代）細片	L8
478			ピット		土師器（古代）細片	Q9
479			素掘溝		土師器（古代）皿・杯・甕・細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋、平瓦	E6 ～ 10
480	欠番					
481			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片、瓦細片	L6
482			素掘溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片	K・L6

表 17　検出遺構および出土遺物一覧（12）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
483	SB205d		ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）蓋	K11
484			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・細片	K10
485	欠番					
486			ピット		土師器（古代）細片	I9
487			ピット		土師器（古代）細片	I9
488			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片	K・L8・9
489	SB170d		ピット		土師器（古代）蓋・細片、須恵器（古代）甕、平瓦	K8
490	欠番					
491			ピット		土師器（古代）細片	L8・9
492			ピット		須恵器（古代）細片	M8
493			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	L8
494	SB170g		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕、平瓦	K7
495	欠番					
496			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片	K・L7
497	SB165c		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）蓋	L7
498			ピット		土師器（古代）細片	M8
499			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕・細片	N7
500	欠番					
501			ピット		土師器（古代）杯・蓋・細片、須恵器（古代）蓋、丸瓦	M7
502			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・細片、平瓦	M7
503			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）杯・蓋・細片	M7
504	SB165d		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	M7
505	欠番					
506	SA195k		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	L7
507			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・細片、丸瓦	L6
508			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕	L6
509			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	L6
510	欠番					
511			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）甕・細片、丸瓦	K5
512			ピット			O8
513	SA190f		ピット			O11・12
514			ピット		土師器（古代）杯・細片	Q11
515	欠番					
516			ピット		土師器（古代）細片	O12
517	SP517		ピット		軒丸瓦	N11・12
518			ピット			O11
519			ピット		土師器（古代）細片	N9
520	欠番					
521			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）甕、平瓦	O・P12
522			ピット		土師器（古代）細片	M12
523			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）壺・細片	L9・10
524			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）蓋・細片、不明鉄製品	N8
525	欠番					
526			ピット			L7
527			ピット			L7
528	SB170f		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、石材（花崗岩）	K7
529	SB170e		ピット			J・K8
530	欠番					
531	SB170b		ピット			K9
532	SB170j		ピット			L8
533	SA195i		ピット			K7
534			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	M7

表 18　検出遺構および出土遺物一覧（13）

S 番号	遺構番号	層位	種別	所見	出土遺物	地区
535	欠番					
536			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）細片	M7
537	SA195m		ピット		土師器（古代）細片	M7
538	欠番					
539			ピット			K9
540	欠番					
541			ピット			K10
542			ピット		須恵器（古代）杯	M9
543			ピット			M7
544			ピット			M7
545	欠番					
546			ピット		土師器（古代）細片	K・L6
547			ピット		土師器（古代）細片	K7
548			ピット		土師器（古代）細片	L8
549			ピット			K8
550	欠番					
551			ピット		土師器（古代）細片、丸瓦	J9
552	SB205e		ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯	K10
553	SB180i		ピット			M10
554	SB180f		ピット			L10
555	欠番					
556			ピット		土師器（古代）細片	M7・8
557			ピット		土師器（古代）甕・細片、須恵器（古代）壺・細片	K9
558			ピット		土師器（古代）甕・細片	K10
559			ピット			K9
560	欠番					
561			ピット		土師器（古代）杯・甕・細片	M10
562			ピット		台石	L10
563			ピット		土師器（古代）細片	L10
564	SB170a		ピット			L8・9
565			ピット			K8
566			ピット			L8
567			ピット			K10
568			ピット		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・甕・蓋・細片、軒平瓦・丸瓦	L8
569			ピット		土師器（古代）杯・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕	H4
570	欠番					
571			土坑		土師器（古代）細片	L11
表土					土師器（古代）杯・壺・甕・高杯・蓋・竈・細片、土師器（中世～）釜、須恵器（古代）椀・杯・壺・甕・蓋・平瓶・細片、瓦器椀、国産陶器甕、土馬、軒丸瓦・平瓦・丸瓦、銅銭	
表採					弥生土器甕、古式土師器甕・細片、土師器（古代）皿・杯・壺・甕・細片、須恵器（古代）杯・壺・甕・蓋・細片、瓦質土器細片、国産陶器甕、土錘、平瓦・丸瓦、	
不明					土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・壺・甕、剥片・片岩片、不明鉄製品	

写真図版

調査前風景（南から）

重機掘削（南西から）

図版 2

1 区遺構検出状況（北東から）

1 区拡張区検出状況（南から）

1 区全景（東から）

2 区遺構検出状況（西から）

図版 4

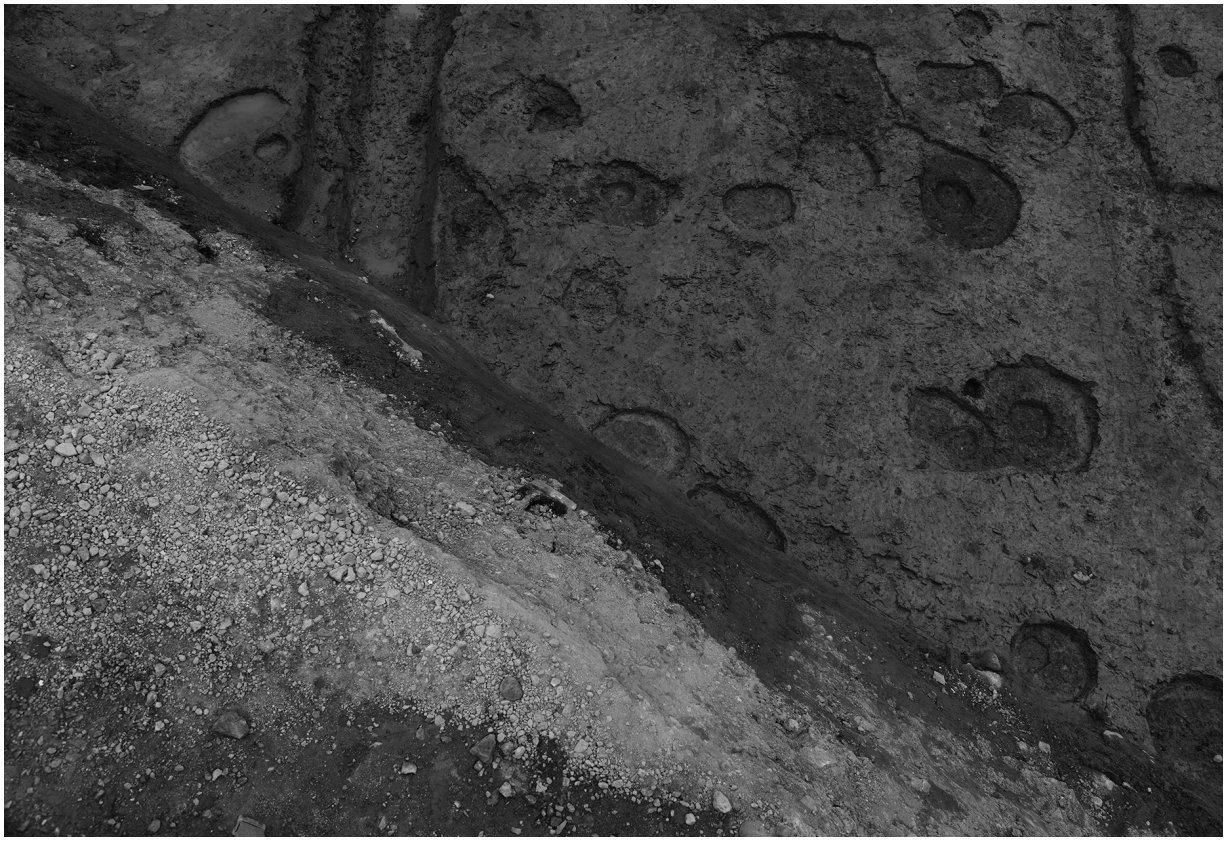
2 区全景（西から）

SD105 土層断面 a-a'（東から）

SF200（一条条間南小路）北側溝（SD105）全景（東から）

SB180 全景（南から）

図版 6



SB185 全景（東から）

SB185・SD105 検出状況（南から）

SD010 土層断面（西から）

SE025 上位土層断面（西から）

図版 8

SE025 下位土層断面（西から）

SE045 上位土層断面（南から）

SE045 下位土層断面（南から）

SE110 完掘状況（西から）

図版 10

SE130 完掘状況（南から）

SE150 土層断面（東から）

SE150 枠内土層断面・漆壺出土状況（東から）

SE150 完掘状況（北から）

図版 12

SE153 枠内完掘状況（東から）

SE153 完掘状況（東から）

SE413 土層断面（東から）

SE413 完掘状況（東から）

図版 14

SK060 土層断面（東から）

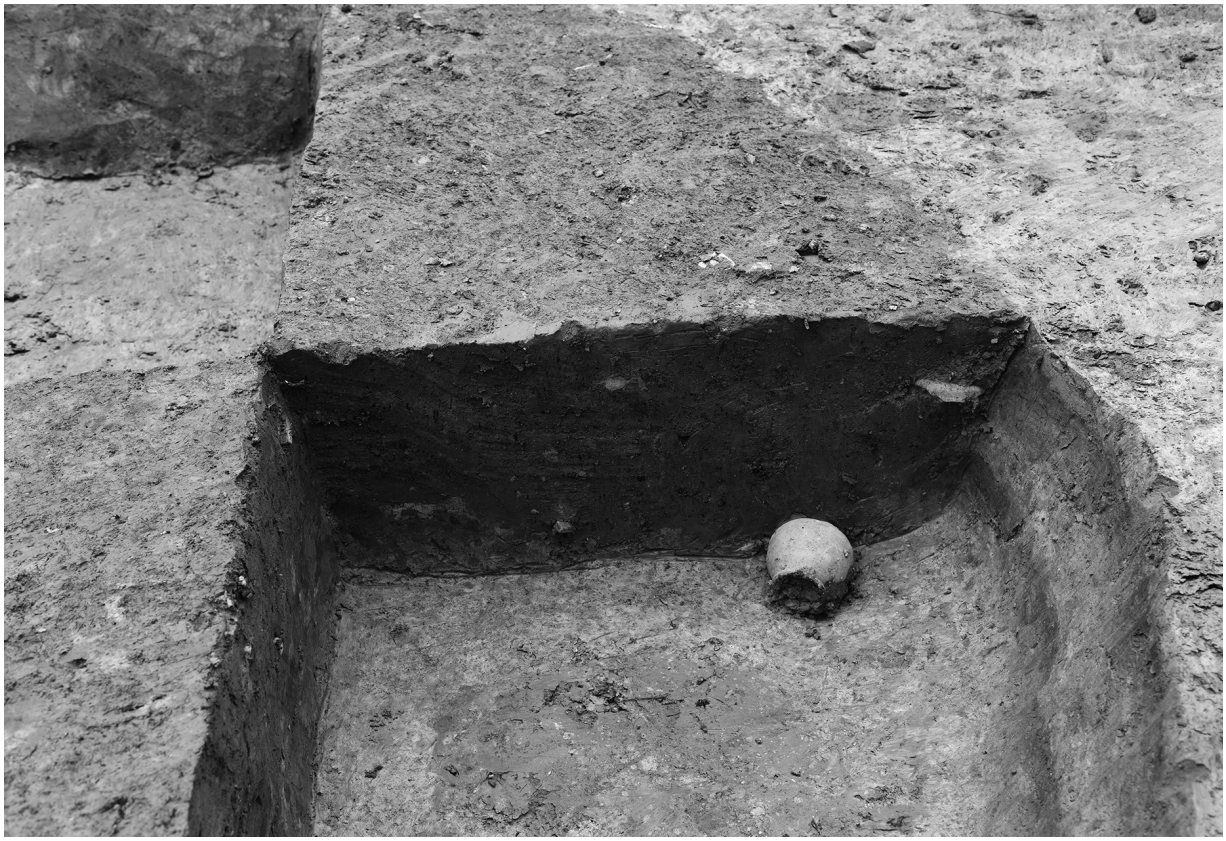
SK115・120・125・135・140 検出状況（東から）

SK115a-a' 土層断面東半（北から）

SK115a-a' 土層断面西半（南から）

図版 16

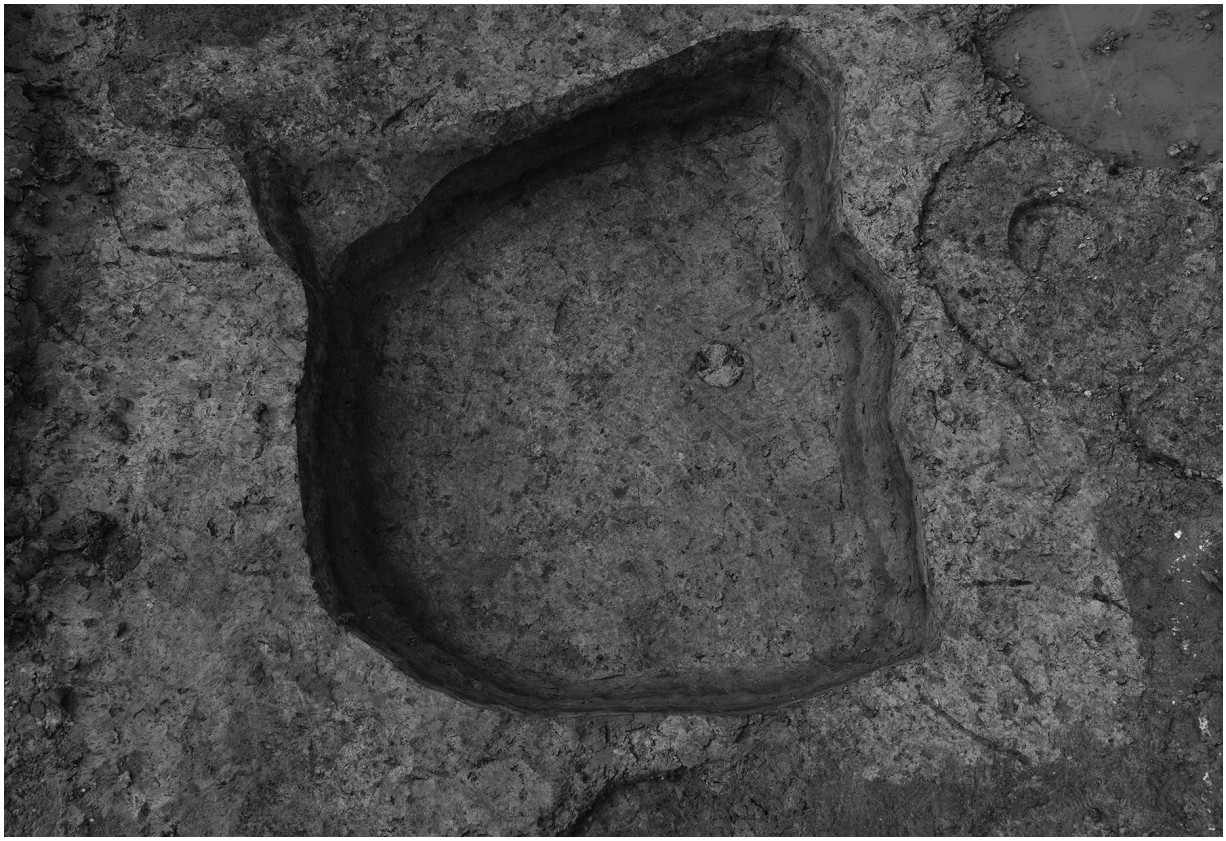
SK115b-b' 土層断面南半（西から）



SK115b-b' 土層断面北半（東から）

SK115 完掘状況（南から）

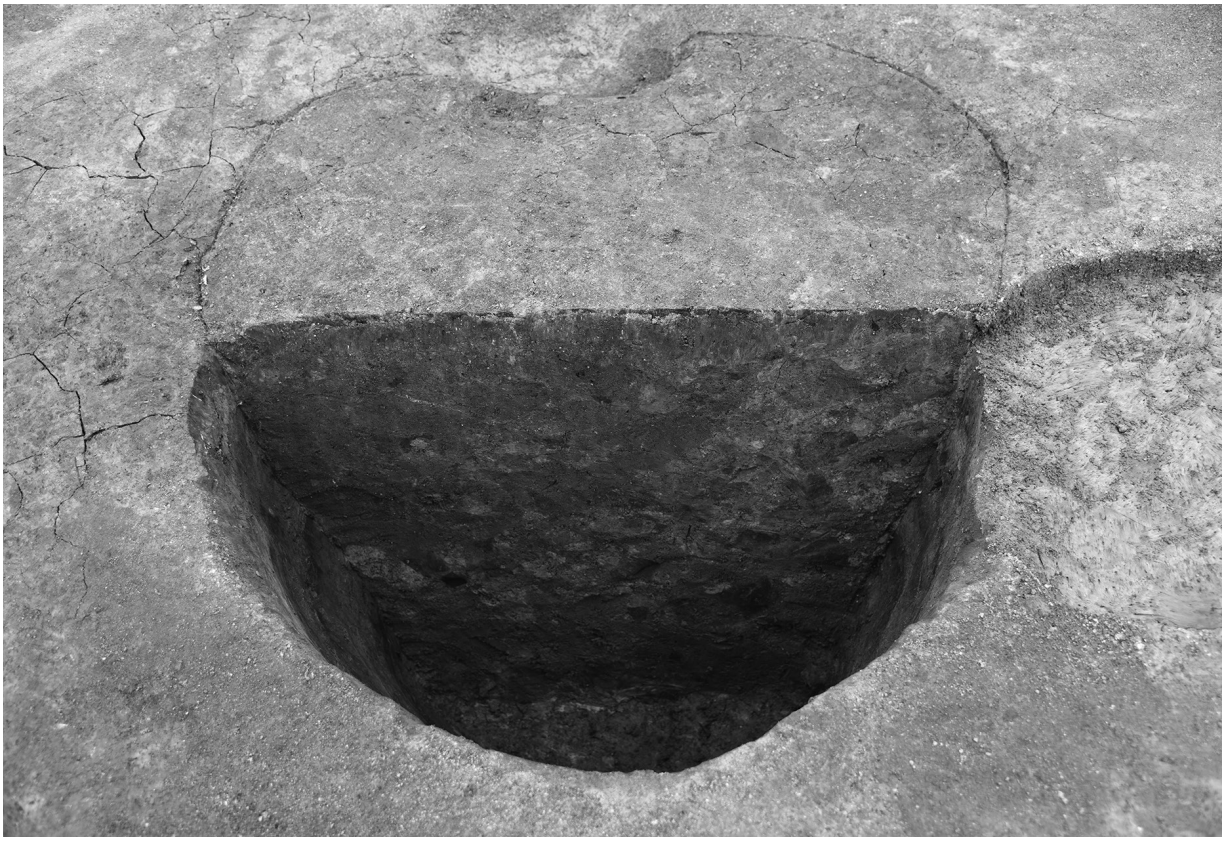
SK120 土層断面（南から）



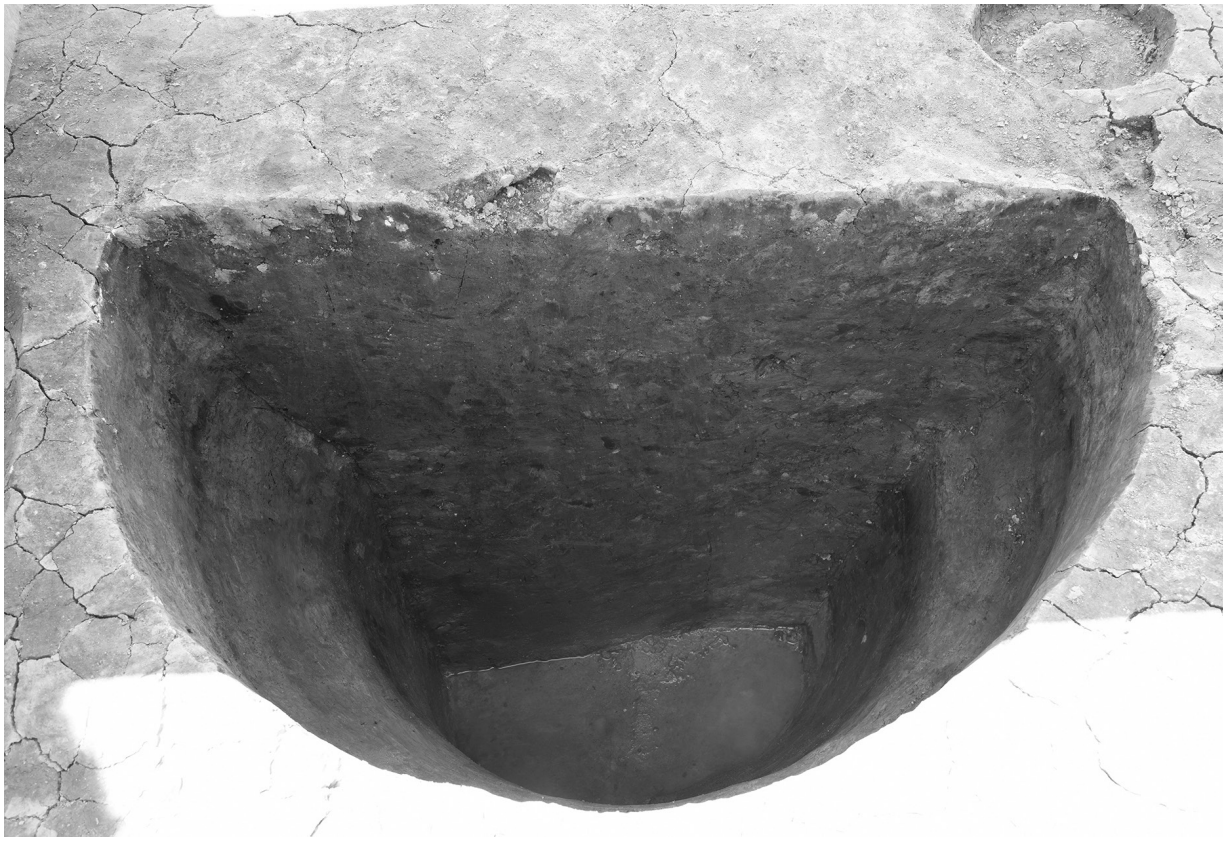
SK120 完掘状況（南から）

SP391 軒平瓦出土状況（南から）

SX055 土層断面（北から）



SX065 土層断面（北から）



SX100 土層断面（東から）

SX100 完掘状況（東から）

SX155 上位土層断面（西から）

SX155 下位土層断面（西から）

図版 22

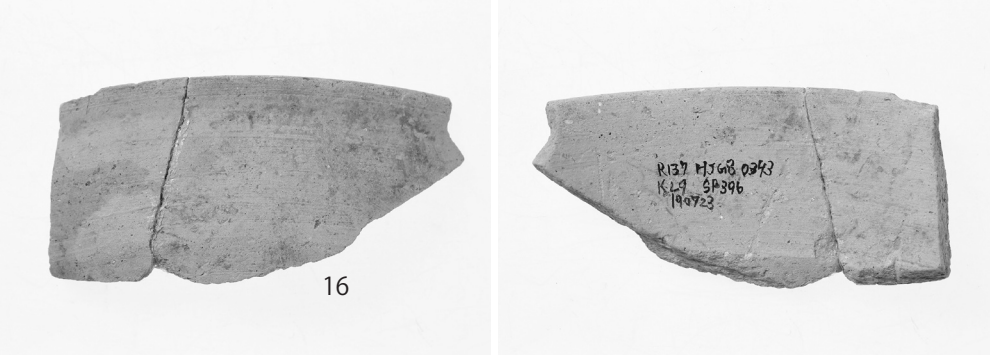
調査風景（東から）

調査後風景（東から）

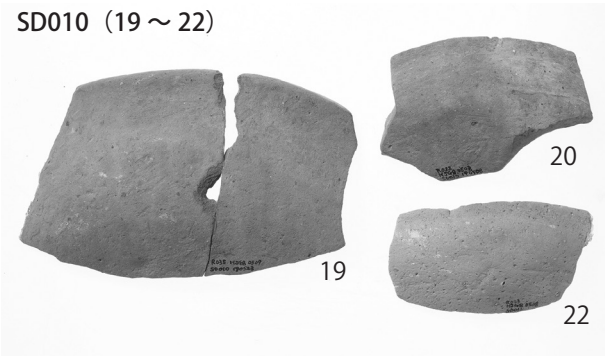
SD105（1～3）

SB185（8）

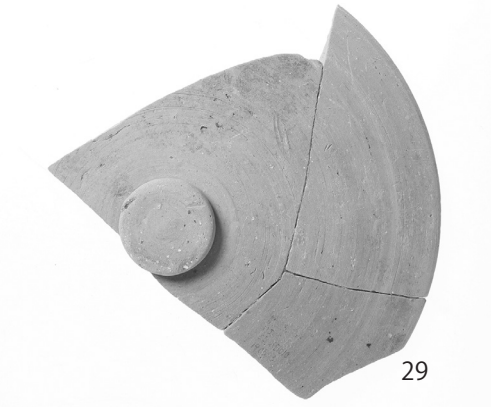
SB205（10・15・16）



SD010（19～22）



SD010（29～31・33・34・36・37）


29

30

31

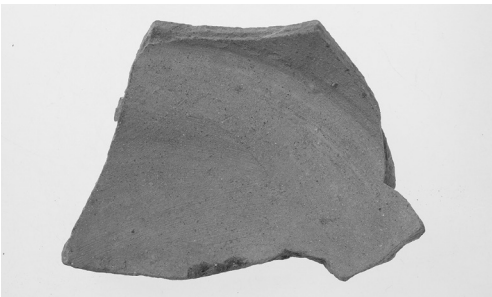
33

34

33 底面

36

37



SD010（38 ～ 44）

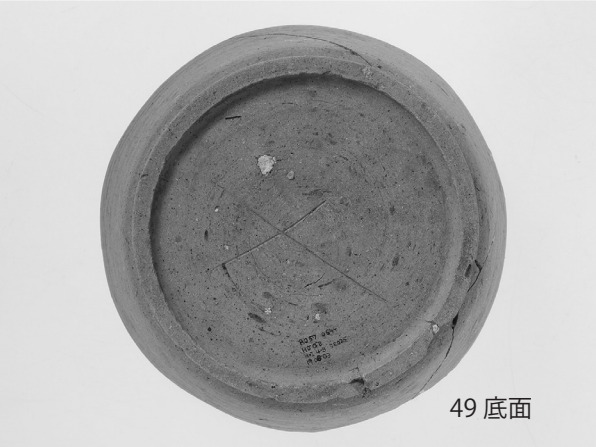
SE025（46・49～52）

46

50

49

51


49 底面

52

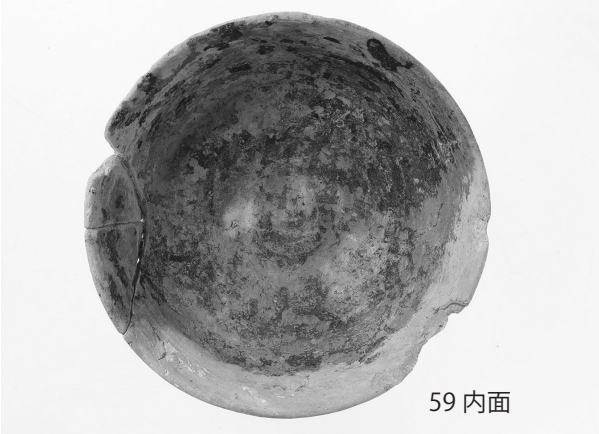
SE025（54）

54

SE045（56・57・59～62）

56

57


59 内面

59

60

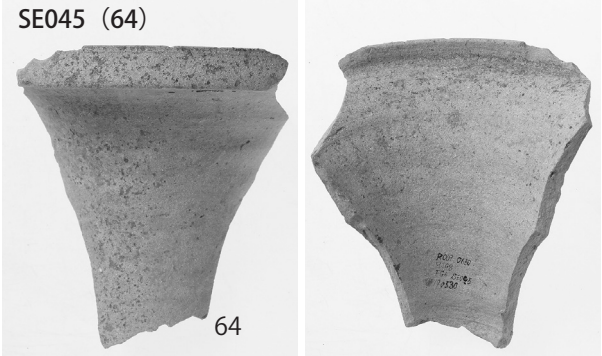
60 底面

61

62

図版 28

SE045（64）



SE110（65・66・69～71）

SE130（72～74）

SE130（75・78）

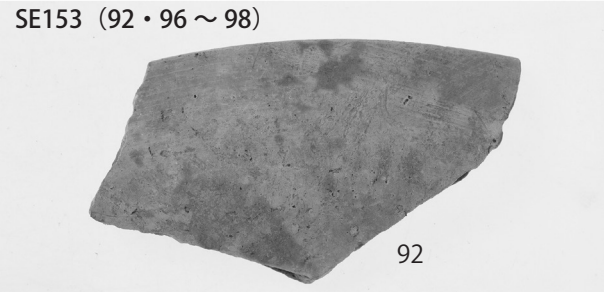
SE150（83～85・87・88）

図版 30

SE150（90）

90

SE153（92・96 ～ 98）



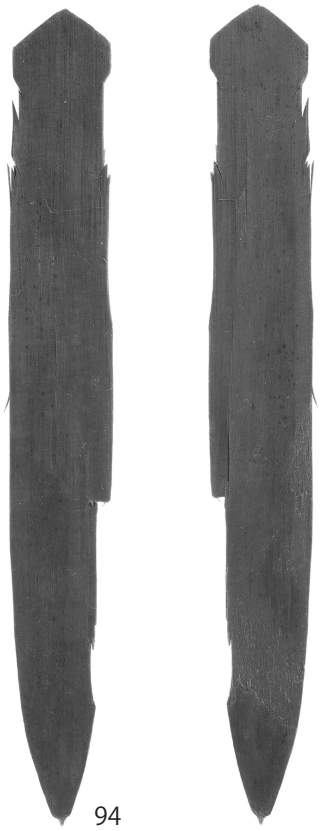
92

96

97

98

SE153（94）



94

101

101 底部

SE413（99・100・101・104）

100

99

104

104 赤外線

図版 32

SE413（105）

105

SK050（107・108・110）

107

108

110

SK060（114・115）

114

SK115（118・119）

118

115

119

SP391（125）

125

SK120（121）

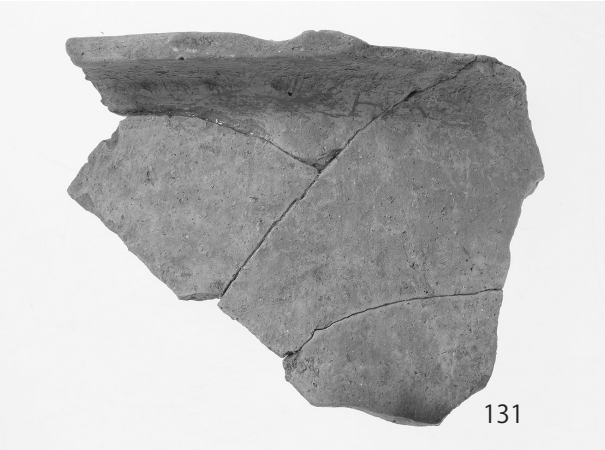
121

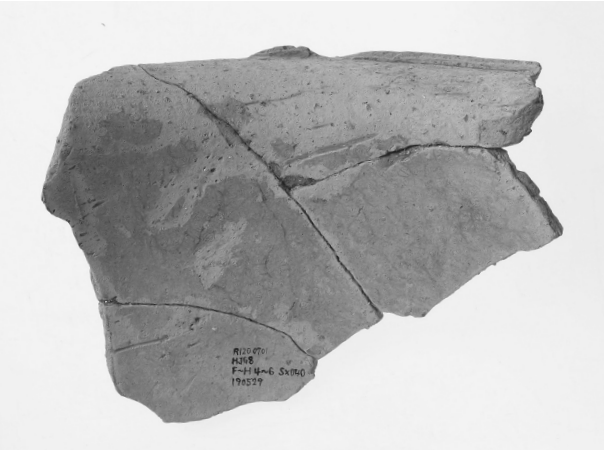
SP517（128）

128

図版 34

SX040（129・131）





SX155（135・136）

表土（137 ～ 139）

ふりがな	へいじょうきょううきょういちじょうにぼうじゅういちつぼ		
書　　名	平城京右京一条二坊十一坪（HJG8次）		
副 書 名	令和元年度発掘調査報告書		
巻　　次			
シリーズ名			
シリーズ番号			
編著者名	坂本俊		
編集機関	公益財団法人 元興寺文化財研究所		
所 在 地	〒630-8312　奈良市中院町 11 番地	Tel 0742-23-1376	
発行年月日	西暦　2021 年 3 月 31 日		

ふりがな	ふりがな	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
平城京右京一条二坊十一坪（へいじょうきょう うきょういちじょう にぼうじゅういちつぼ）	奈良市西大寺栄町（ならしさいだいじさかえまち）2308 番地（ばんち） 4 外（がい）	29101		34° 41′ 34″	135° 47′ 6″	20190507 ～ 20190726	750㎡	マンション建設

種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
都城跡	奈良時代	条坊道路 溝 土坑 井戸 掘立柱建物 ほか	土師器 須恵器 木製品	

要　約	奈良時代の溝や井戸、建物などを検出し、遺構からは墨書土器や転用硯、平城宮内と同型式の瓦などが出土した。奈良時代前半の遺構を切って一条条間南小路北側溝が掘削されており、小路の敷設そのものが奈良時代後半に下ることが判明した。土地利用の変化が分かる事例といえる。

平城京右京一条二坊十一坪（HJG8次）
－令和元年度発掘調査報告書－

2021.3.31

（発行・編集）公益財団法人　元興寺文化財研究所

（印刷）株式会社　明新社